

Syllabus2023

シラバス（教授要目）

北陸学院大学短期大学部

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

2023年度学事暦(短期大学部)

	日	月	火	水	木	金	土
3月	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23	3/24	3/25
	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	1
4月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
5月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
6月	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	1
7月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
8月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
9月	27	28	29	30	31	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23

	日	月	火	水	木	金	土
9月	24	25	26	27	28	29	30
10月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
11月	29	30	31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
12月	26	27	28	29	30	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
1月	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
2月	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
3月	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
4月	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6

3月17日(金)～3月24日(金)
4月4日(火)～4月5日(水)

前期履修登録期間(2年)
オリエンテーション期間

4月6日(木)
4月12日(水)～14日(金)
4月22日(土)

前期授業開始
前期履修登録変更期間
Enjoy! ミッション
フレッシュマン・セミナー (1年)

5月26日(金)

休講

7月22日(土)

全学休校予備日

7月28日(金)

前期授業終了

7月31日(月)～8月4日(金)

前期定期試験期間

8月5日(土)～9月23日(土)

夏期休業期間
(補講・集中講義・学外実習)

8月7日(月)～10日(木)
17日(木)・18日(金)

追試験・再試験実施期間

9月7日(木)～15日(金)

後期履修登録期間

9月9日(土)
9月25日(月)

北陸学院創立記念日
後期授業開始

10月4日(水)～6日(金)
10月2日(月)～6日(金)

後期履修登録変更期間
特別伝道礼拝週間 (2年)

10月19日(木)
10月20日(金)～21日(土)

大学祭準備(休講)
大学祭(栄光祭)

10月28日(土)
11月8日(水)

全学休校予備日
金曜代替講義日

11月10日(金)～11日(土)
11月14日(火)

バイブル・セミナー (2年)
金曜代替講義日

11月28日(火)

木曜代替講義日

11月29日(水)

クリスマス・ツリー点灯式 (5限振替)

12月16日(土)
12月20日(水)

全学休講予備日
金曜代替講義日

12月22日(金)
12月23日(土)～1月5日(金)

クリスマス礼拝
冬期休業

1月20日(土)
2月2日(金)

全学休校予備日
後期授業終了

2月5日(月)～2月9日(金)

後期定期試験期間

2月13日(火)～16日(金)
19日(月)・20日(火)

追試験・再試験実施期間

3月8日(金)

卒業者発表

3月18日(月)
3月19日(火)

卒業感謝礼拝
卒業証書・学位記授与式

授業	補講	曜日振替
定期試験	追試験 再試験	全学休講予備日

コミュニティ文化学科 科目見取表
2年

[illegible]

食物栄養学科 科目見取表
2年

[illegible]

2023年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

【食物栄養学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
伊藤 雄二	・海外(イタリア・ミラノ)日本人学校の小・中学部の教員として3年間勤務 ・公立及び国立大学附属中学校教員として23年勤務 ・国立大学附属高等学校教員として11年勤務 ・2020年度より、石川県英語教育指導アドバイザーとして学校現場の巡回指導を行っている。 ・2018年度より県内中学校・高等学校の英語教員のための授業研究会を主宰し、英語による授業(Oral Method)の具体的方法を広めている。	アクティブ・イングリッシュB	2	3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活(約2週間)を実現するための一助としている。	4
上農 肇	公立学校教員として31年勤務(特別支援教育教員として26年勤務) 教育委員会指導主事として7年勤務 スクールカウンセラーとして4年勤務	特別支援教育	1	特別支援教育の課題について、特別支援教育の教員としての経験や担当した指導事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。	36
		教育相談(生徒指導法を含む)	1	教育相談(生徒指導を含む)の課題について、教育委員会指導主事・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した相談事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。	37
茶谷 信一	・小学校教員として37年間勤務 (石川県教育センター指導主事5年、小学校教頭3年、小学校校長7年)	栄養教育実習指導	1	・学級担任時代や管理職時代に栄養教育実習生を受け入れてきた経験を生かし、学校での実習の在り方や授業の在り方、指導案の書き方等を指導している。 ・模擬授業としてロールプレイの手法を用いたり、グループでの課題解決には、SGEやケーススタディを導入したりしている。	38-39
		教職実践演習(栄養教諭)	2	・小学校時代の経験から、給食時間の中様々な事例を紹介し、栄養指導や給食指導の在り方を考えさせ、課題について自分なりの答えを導き出させている。 ・グループでの課題解決には、SGEやケーススタディ、ブレーンストーミング等の手法を導入している。	41
西 正人	食品機械メーカーで16年間勤務 (機能性食品の開発、食品や機械の菌数検査等を行う)	食品衛生学実験	1	食品機械メーカーにおける勤務経験をもとに、様々な食品の一般生菌検査における実例や注意すべきポイント、クリーンベンチがない場合の無菌的操作などにおける注意点を説明している。	19
畑山 千春	石川県内小中学校にて、学校栄養職員、栄養教諭として40年以上勤務 (石川県教育委員会指導主事として7年間勤務)	学校栄養教育論	2	教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。	34
		栄養教育実習指導	1	栄養教諭として学校現場で栄養教育実習生を指導してきた経験を活かし、学校での実習の在り方や食指導の方法について指導する。	38-39
		教職実践演習(栄養教諭)	2	栄養教諭として学校現場で食指導を行ってきた経験から、食指導の在り方を考えさせ、演習から見えてくる課題について自分なりの解決方法を導きだせるようにする。	41
前川 直樹	社会福祉施設において15年以上勤務 (社会福祉士)	社会福祉概論	2	社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話している。	11
村井 万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員(日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー)として小学校、中学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について共同研究を行い、成果について公開している。	教育原理	1	教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示して理解を促したり、討議材料にしたりしている。 教育の評価について、学校現場から指導記録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解を深めている。	35

2023年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

【コミュニティ文化学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
葦名 理恵	企業(プライダプロデュース会社:9年、旅行会社:15年)において勤務	観光英語	2	着地型観光ガイドとしてインバウンド対応した経験から現場で通じる英会話表現例を紹介している	61
		接客英語	1	ツアーコンダクターまたインバウンド対応ガイドの経験から現場での応用力の高い英語表現例などを紹介している。	62
		ホテルサービス論	2	ツアーコンダクターの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。	63
		インバウンドツーリズム入門	2	着地型観光商品の造成、営業販売、ガイドの経験から総合的に地域にとつてのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。	69
池村 努	企業のIT関連部門において13年勤務	プレゼンテーション演習	1	取引先との折衝などを通じて自ら体験した事例を紹介し、プレゼンテーション資料作成に反映している。	55
石原 俊彦	介護老人保健施設に15年以上勤務	医療管理学	2	医療業務での経験をもとに医療現場の現状と課題について事例紹介を行い、ディスカッションによって学びを深めている。	59
伊藤 雄二	・海外(イタリア・ミラノ)日本人学校の小・中学部の教員として3年間勤務 ・公立及び国立大学附属中学校教員として23年勤務 ・国立大学附属高等学校教員として11年勤務 ・2020年度より、石川県英語教育指導アドバイザーとして学校現場の巡回指導を行っている。 ・2018年度より県内中学校・高等学校の英語教員のための授業研究会を主宰し、英語による授業(Oral Method)の具体的方法を広めている。	アクティブ・イングリッシュB	2	3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活(約2週間)を実現するための一助としている。	4
中村 洋子	医療機関において勤務	診療報酬実務	2	実務に沿い、具体的な診療報酬実務の注意点などについて講義し、演習形式でカルテの読解、算定、レセプト作成をさせている。	60

SDGs の 17 の目標

- 目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【国地総:全般】
- 目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【経安、国地総:全般】
- 目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
- 目標 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
- 目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- 目標 9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する
- 目標 11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる*【国地気候:全般】
*国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。
- 目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

授業科目名		HG200C 北陸学院セミナーⅡ			開講学科		短大		必修・選択		必修				
担当教員名		矢澤 励太													
標準履修年次		2年		開講時期		通年		単位		1単位		授業形態		礼拝・セミナー	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要							授業の到達目標								
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、バイブル・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3関連科目							1) 聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2) 賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3) 祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4) 生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5) 世界と歴史の意味に触れる。 6) 自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7) 教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、学年を超えた交わりを通して意思伝達能力や集団における行動力を育む。								
教授方法		大学礼拝およびバイブル・セミナーへの参加													
履修条件		キリスト教概論ⅠおよびⅡの単位を取得していることが望ましい。バイブル・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標										担当教員			
		大学礼拝：①礼拝：毎週平均2.5回以上の出席。													
		大学礼拝：②献金 キリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。													
		大学礼拝：③花の日：6月 花を諸施設に届ける。													
		大学礼拝：④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は2・4年生を対象に。2年生は必ず出席。													
		大学礼拝：⑤創立記念礼拝：9月 学院の歴史、建学の精神に触れる。													
		大学礼拝：⑦収穫感謝：11月 果物を各所に届ける。													
		大学礼拝：⑧クリスマス礼拝：12月 学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。2年生は必ず出席。													
		バイブル・セミナー 全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科1・2年生が出席。聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。2023年度予定：11月10日（金）～11日（土）													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
礼拝出席回数と姿勢		50		聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。				課題・レポート		10		セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。			
バイブル・セミナーへの参加		40		・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループでの話し合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。											
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
1) 日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2) 地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕 出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3) セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕 4) セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕							セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。								
受講生に望むこと		1) 毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。方が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞆にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2) セミナーに主体的に参加することを望む。					教科書・テキスト		『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、 『讃美歌21』日本基督教団出版局						
指定図書／参考書等		なし／なし					その他・特記事項		「北陸学院科目」として、日々の礼拝やセミナーの準備実施には全教職員が参画する。						
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名	LJ120C 日本語表現法Ⅱ			開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	亀田 孝太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	米養士				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置づけられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに実践的な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチや研究レポート発表会などの体験を通して実践的に学ぶ。				①言葉を伝えるための実践的な知識・技術を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章作成に必要な知識を理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「日本語表現法Ⅱ」で学ぶ口頭表現（スピーチ・研究レポート発表）について						
2	テキスト①「人前で話す技術」 テキスト②「重要語句の確認」						
3	改まった内容のスピーチについて理解する。 テキスト②「重要語句の確認」						
4	テキスト①「人前で話す技術」 テキスト②「重要語句の確認」 スピーチ原稿作成・スピーチの練習						
5	改まった内容のスピーチを実践する。 テキスト②「重要語句の確認」						
6	テキスト①「人前で話す技術」 テキスト②「重要語句の理解」スピーチ実践の振り返り						
7	研究レポート発表（プレゼン）の仕方 テキスト②「重要語句の確認」						
8	テキスト①「プレゼンテーション」 テキスト②「重要語句の確認」						
9	テキスト①「プレゼンテーション」 テキスト②「重要語句の確認」 研究レポート発表の練習						
10	研究レポート発表会①（前半グループ） テキスト②「重要語句の確認」						
11	研究レポート発表会②（後半グループ） テキスト②「重要語句の確認」						
12	ディバートの技術 ディバートの論題についてディスカッションする。 テキスト②「重要語句の確認」						
13	ディバートの実践（前半グループ）						
14	ディバートの実践（後半グループ）						
15	授業全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	①基本的姿勢ができています。（聞き方、話し方、読み方、書き方） ②毎回学習する事項について予習復習をしている。			課題レポート	50	①形式・内容の両面において学習内容がレポートに反映されている。
口頭表現発表態度	20	①学習の内容を理解して発表している。 ②ディバートやディスカッションのルールを理解し実践している。 ③相手の意見をしっかり聞き、積極的に発言している。			研究レポート発表会	10	①周到な準備ができています。 ②定められた時間内にまとめた内容を発表している。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。〔夏季休業中に10日～14日間〕 ②ディバートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。〔120分〕 ③レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。					・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	①日本語表現法Ⅰで学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習すること。 ②毎回Chromebookを持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 ③授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。				教科書・テキスト	『基礎からわかる話す技術』森口稔・中山詢子 くろしお出版 2017年 ISBN：978-4-87424-727-3 『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN：978-4-487-80364-4	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	日本語表現法Ⅰの単位を修得していること。日本語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		LE165C アクティブ・イングリッシュA		開講学科		短大	必修・選択	選択
担当教員名		宮浦 国江・木村 ゆかり						
標準履修年次		2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修		不可	関連資格	なし				
授業の概要					授業の到達目標			
本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べるができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills (福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)					①自分の言いたいことを効果的に述べるができるようになる。 ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。 ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。 ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。 ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。 ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。			
教授方法		講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。						
履修条件		英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。						
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等)※参加希望者は必ず出席すること。							
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。							
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。							
4	British Hills (以下BH) (1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。							
5	BH(2) Team Challenge (Intermediate) : 英語のさまざまなゲームをチーム対抗で競い合うことで、チームメンバーについて知り、協力関係を築きつつ、英語発話を自然に行えるようにする。							
6	BH(3) Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。							
7	BH(4) Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。							
8	BH(5) British Wedding : イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。							
9	BH(6) World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。							
10	BH(7) Travel in UK : 英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。							
11	BH(8) Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。							
12	BH(9) Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。							
13	BH(10) Group presentation 3: 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。							
14	BH(11) Group presentation 4: 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。							
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身に付ける。 ③英語運用力測定。			BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。	
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている ③指示された文字数等分量を書いている。			事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。	
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]					随時行う。			
受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。				教科書・テキスト	Akira Morita他、『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249		
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。 ②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情により研修での研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名	LE170C アクティブ・イングリッシュB			開講学科	短大	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・草名 理恵（代表教員 伊藤 雄二）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 2023年8月中旬～8月下旬に16日間の予定でオーストラリア、ニューサウスウェールズ州、シドニー市のウェスタン・シドニー大学(Western Sydney University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、オーストラリアの文化と社会について学びます。 事前学習では海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学びながら準備を整え、海外研修中は毎日、英文日誌をつけます。帰国後には事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会では英語でプレゼンテーションを行う。				①海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。 ②英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。 ③異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介できるようになる。 ④ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。 ⑤語学研修・ボランティア活動を通じて、オーストラリアの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。 ⑥語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告できるようになる。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動						
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する（している）ことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。						伊藤・草名
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。教科書の自己紹介スクリプトを参考にプレゼンの準備をし、プレゼン用ソフトを用いて英語で自己紹介を行う。						伊藤・草名
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。日本文化についてのトピックを一つ設定し、外国人に説明するためのプレゼンを行い、事後学習（発表会）の練習をする。						伊藤・草名
4	ウェスタン・シドニー大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
5	ウェスタン・シドニー大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
6	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
7	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
8	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
9	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
10	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
11	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
12	ウェスタン・シドニー大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
13	ウェスタン・シドニー大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
14	ウェスタン・シドニー大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						草名
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュB」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。						伊藤・草名
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、聞き手に分かりやすく発表する。 ②事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。		オーストラリア研修参加態度	40	①オーストラリア、ウェスタン・シドニー大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。	
英文日誌と事後レポート	20	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ②どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ③集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験すること多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。				随時行う。			
受講生に望むこと	①渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ②どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。 ③集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験すること多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentations』 Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN: 978-4791934249		
指定図書参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）			その他・特記事項	①履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ②事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ③事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 ④事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。 ⑤対面授業（事前・事後）ができない場合はClassroomを用いて課題を提示することがある。 ⑥事前授業の際はchromebookを持参すること。		
実務経験を活かした授業の概要							
3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活（約2週間）を実現するための一助としている。							

授業科目名		LE175C アクティブ・イングリッシュC		開講学科		短大		必修・選択		選択					
担当教員名		宮浦 国江													
標準履修年次		2年		開講時期		通年		単位		3単位		授業形態		演習	
他学科の履修		可		関連資格		なし									
授業の概要							授業の到達目標								
本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階(事前学習)から実施(留学)及び終了段階(事後学習)まで見直しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。							・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。								
教授方法		渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)													
履修条件		英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標										担当教員			
1		事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。													
2		事前学習② 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。													
3		事前学習③ 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。													
4		提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在													
5		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
6		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
7		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
8		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
9		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
10		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
11		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
12		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
13		提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在													
14		事後学習① 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)													
15		事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
事前学習		10		①留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定				留学先での英語学習・調査研究に関する評価		60		研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する			
留学中の報告書		10		定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する				事後学習		20		①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定			
授業外における学習(事前・事後学習等)								課題(試験やレポート等)に対するフィードバック							
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]								適宜行う							
受講生に望むこと		現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。						教科書・テキスト		なし					
指定図書・参考書等		なし／『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)						その他・特記事項		・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		HC110C キャリアデザインII		開講学科		コミ	必修・選択	選択必修
担当教員名		草名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習	
他学科の履修	不可	関連資格	なし					
授業の概要				授業の到達目標				
卒業後の新たなスタートの準備を迎えるために、実際のキャリアについての事例を知ることにより、今後の生き方について考える（動画、記事など）。				多くの人生を知り、自分の今後の生き方について深く考え、あらためてキャリアデザインを行う。				
教授方法	講義とディスカッション							
履修条件	なし							
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	オリエンテーション							
2	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える①（動画視聴とディスカッション）							
3	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える②（動画視聴とディスカッション）							
4	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える③（動画視聴とディスカッション）							
5	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える④（動画視聴とディスカッション）							
6	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑤（動画視聴とディスカッション）							
7	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑥（動画視聴とディスカッション）							
8	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑦（動画視聴とディスカッション）							
9	特別講義①「ライフプラン・キャリアデザインセミナー」							外部講師
10	特別講義② ふりかえりとグループワーク							外部講師
11	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑧（動画視聴とディスカッション）							
12	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑨（動画視聴とディスカッション）							
13	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑩（動画視聴とディスカッション）							
14	まとめと振り返り							
15	最終課題「10年後の自分」作成と提出							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
振り返りシート	50	動画視聴後の小レポート（10回分）を評価する			最終課題	40	提出課題を遅延なく作成、提出することとその内容を評価する	
授業の参加態度	10	発表、ディスカッションなど授業への取り組み状況。						
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。[30分] ②授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]					提出された小レポートの一部のフィードバックを授業内で実施する。			
受講生に望むこと	卒業までの大切な時期に、自分のミッションについてあらためて考え、有意義な人生を送る準備をしてほしい。				教科書・テキスト	授業内で適宜提示する。		
指定図書／参考書等	なし／「キャリアデザイン入門Ⅰ（基礎力編）」大久保幸夫 日経文庫 2006年3月 ISBN978-4-532-11096-3				その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名		FB200C 人間の探究 I				開講学科		食栄		必修・選択		必修			
担当教員名		矢澤 励太													
標準履修年次		2年		開講時期		前期		単位		1単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要								授業の到達目標							
キリスト教的人間観を理解し生涯にわたって、自分に与えられた使命 (Mission)を発見し、実現しようとする力を身につけるために、キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、助けとなる素材と考え方を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。 ※SDGsゴール2，5関連科目								①北陸学院の「建学の精神」を理解し本院院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。							
教授方法		レジュメに基づく講義													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標												担当教員	
1		・本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。Google Classroom 設定クラス参加手続。 ・「キリスト教人間学」とは：内容・意味・目的													
2		・「建学の精神」と北陸学院の歩み：学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。 ・「本当の友とは」（ヨハネ15:11-17）：主イエスが私たちの本当の友となってくださることを発見する。													
3		・「主の祈り」（ルカ11:1-13）「主の祈り」を理解し、祈り始める。 ・「赦し」（マタイ18:21-35）：神の御前で赦しを必要とする存在として自己を見つめ直す。													
4		・小テスト①：「主の祈り」 ・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて理解し実践する。花の日献金準備。													
5		・「聖書」という書物（テモテニ3:14-17）：聖書の成り立ちやジャンルを学ぶ。 ・「環境と飢餓」（申命記24:19-22）：世界の環境・飢餓問題について聖書から語りかけられるメッセージに聴く。													
6		・「十戒」：神が授けられた自由の道しるべとしての十戒を知る。 ・「労働と余暇」（ローマ12:1-8）：働くことにはどんな意味があるのかを問い、使命探求型人生を発見する。													
7		・小テスト②：「十戒」 ・「人格的交わりとしての性」（エフェソ5:21-33）：真に相手を人格として受け止め、尊敬をもって互いに接することができるようになる。													
8		・学期末授業評価アンケート ・期末試験準備説明													
成績評価方法及び基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
授業参加度・理解度		20		「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。				教会出席レポート		20		教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			
小テスト		20		学期中2回（①「主の祈り」②「十戒」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。				学期末試験		40		講義内容の理解度を測る期末試験で評価。			
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確認するために、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的な参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにさがられる献金への参加準備をする。[15分]								「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」はコメント付してオンライン返却する。「学期末試験」については全体講評をメソファ等で告知する。							
受講生に望むこと		①本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとじていくこと。 ②聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ④本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。						教科書・テキスト		なし					
指定図書／参考書等		なし／『神学のよることばーはじめの人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・E・マグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0 『聖書は何を語るか』、大島力、日本キリスト教団出版局、1998年。ISBN: 978-481840316 その他、授業内で紹介する。						その他・特記事項		・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的な社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・指定された日にはノートパソコンを持参。					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名	FB210C 人間の探究Ⅱ				開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太							
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義	
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士					
授業の概要				授業の到達目標				
キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになることである。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。 ※SDGsゴール8関連科目				①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三要件を身に着けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。 ③聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることを理解できるようになる。				
教授方法	レジュメに基づく講義							
履修条件	なし							
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	・イントロダクション：本コースの概要説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。 ・「キリスト教人間学」とは：内容・意味・目的							
2	天地創造と墮罪の物語ー人間の栄光と悲惨を知り、神によって霊を吹き込まれ生きようになった特別な存在としての自己を発見する。							
3	アブラハムの信仰物語ー人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる視点を発見する。 ・小テスト①：使徒信条							
4	預言者の召命ー自分の賜物をもって神から示された使命に生きる人生観を発見する。 ・収穫感謝献金準備。							
5	聖書の人間観ー「魂」・「霊」・「肉」の諸次元について理解し、神に「祈る」ことを発見する。							
6	・「運命ではなく摂理」（創世記45:1-8）：運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。 ・小テスト②：キリスト教史							
7	・パウロの人間観ー罪を赦され「新しく造りかえられた」存在としてのアイデンティティを発見する。 ・クリスマス礼拝賛美練習・献金準備							
8	・学期末授業評価アンケート ・期末試験準備説明							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
授業態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。			小テスト	20	学期中2回（①「使徒信条」②「キリスト教史」）行う小テストで評価。	
教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、メッセージ内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			学期末試験	40	講義内容の理解度を測る記述試験により評価。	
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにさげられる献金への参加準備をする。[15分]					「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」はコメントを付してオンライン返却する。「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。			
受講生に望むこと	①コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとじていくこと。 ②聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ④本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。				教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／金子晴勇『キリスト教人間学入門』（教文館、2016年）。アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）『神学のようにーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版（キリスト新聞社、2017年）。その他、授業で紹介する。				その他・特記事項	・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・指定された日にはノートパソコンを持参。		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名	FB220C 栄養士への道C			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・茶谷 信一・田中 弘美・俵 万里子・西 正人・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
1年次の学びを受けて、栄養士としての専門科目を学ぶための基礎となる知識を確認し、専門的なスキルを習得するために必要な技能を理解する。また、より専門的な体験学習をとおして現代の食生活での問題を見つけ、それに対処できる能力を修得する。				①栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 ②栄養士の社会的な役割を理解できる。			
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養士に必要な基本的態度の学び①：栄養士の活動分野への理解を深める。						全員
2	栄養士に必要な基本的態度の学び②：栄養士に求められる接遇について理解する。						全員
3	栄養士に必要な基本的態度の学び③：栄養士に求められる文章作成を習得する。						全員
4	栄養士に必要な基本的態度の学び④：栄養士に求められる表現力を深める。						全員
5	栄養士業務実践のための演習①：校外実習に向けて総合的な振り返りをする。						田中
6	栄養士業務実践のための演習②：特別講義を通して校外実習への心構えをする。						田中
7	栄養士業務実践のための実習①：食育活動を通して実践力を身につける。						田中
8	栄養士業務実践のための知識①：1年次の学習範囲について、演習問題を通して振り返る。						全員
9	栄養士業務実践のための知識②：1年次の学習範囲について、演習問題を通して振り返る。						全員
10	栄養士業務実践のための知識③：1年次の学習範囲について、演習問題を通して振り返る。						全員
11	栄養士業務実践のための知識④：1年次の学習範囲について、演習問題を通して振り返る。						全員
12	栄養士業務実践のための知識⑤：1年次の学習範囲について、演習問題を通して振り返る。						全員
13	栄養士業務実践のための知識⑥：1年次の学習範囲について、演習問題を通して振り返る。						全員
14	栄養士業務実践のための実習②：地場産の食材を使ったレシピ検討を通して実践力を高める。						全員
15	栄養士業務実践のための実習③：地場産の食材を使ったレシピの考案やレシピ集の作成によって地域貢献への関心と実践力を高める。						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	50	①授業に積極的に関わる ②授業に向けて十分準備する			課題提出	50	①量的・質的に適切である ②提出期日までの提出
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]					レポートは返却しないこともある。		
受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。				教科書・テキスト	担当者が配布する資料	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	特になし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FB230C 栄養士への道D			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・茶谷 信一・田中 弘美・俵 万里子・西 正人・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
卒業に向けて、これまでに学んだ栄養士としての専門知識を確認し、より専門的な技能と様々な課題に対処できる能力を修得する。				①栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 ②栄養士の社会的な役割を理解できる。 ③栄養士業務に必要な知識を総合的に理解している。			
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養士の専門知識①②：食品学総論、公衆衛生学について理解を深める。						坂井、俵
2	栄養士の専門知識③④：基礎栄養学、公衆栄養学について理解を深める。						新澤、三田
3	栄養士の専門知識⑤⑥：栄養指導論、調理学について理解を深める。						三田、新澤
4	栄養士の専門知識⑦⑧：応用栄養学、食品衛生学について理解を深める。						俵、坂井
5	栄養士の専門知識⑨⑩：給食管理、臨床栄養学について理解を深める。						田中、外部講師
6	栄養士の専門知識⑪⑫：食品学各論、社会福祉概論について理解を深める。						坂井、俵
7	栄養士業務実践のための演習①：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（ガイダンス）						全員
8	栄養士業務実践のための演習②：校外実習の報告を通して、栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（スライド、ポスター作製）						全員
9	栄養士業務実践のための演習③：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（スライド、ポスター作製）						全員
10	栄養士業務実践のための演習④：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（スライド、ポスター作製）						全員
11	栄養士業務実践のための演習⑤：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（発表準備から発表へ）						全員
12	栄養士業務の実際①：先輩栄養士の講義より、栄養士業務の実際について理解を深める。						全員
13	栄養士業務の実際②：先輩栄養士の講義より、栄養士業務の実際について理解を深める。						全員
14	栄養士業務のための実習①：食育活動を通して実践力を身につける。						全員
15	栄養士業務のための実習②：食育活動を通して実践力を身につける。						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	50	①授業に積極的に関わる ②授業に向けて十分準備する			課題提出	50	①量的・質的に適切である ②提出期日までの提出
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]					レポートは返却しないこともある。		
受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。				教科書・テキスト	担当者が配布する資料	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		FH200C 社会福祉概論		開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名		前川 直樹					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、制度や実施体制等の現状について、広く学びます。高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改革の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざします。				①社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。			
				②社会福祉の援助と視点を理解する。			
				③社会福祉分野における栄養士の役割を理解できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。						
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。						
3	社会保障制度の概要Ⅰ：社会保障制度の全体像を学ぶ。						
4	社会保障制度の概要Ⅱ：社会保険制度について学ぶ。						
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原則・原則、生活保護の実際について学ぶ。						
6	高齢者の福祉Ⅰ：高齢者を取り巻く状況について学ぶ。						
7	高齢者の福祉Ⅱ：介護保険制度の概要について学ぶ。						
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。						
9	障害者の福祉Ⅰ：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。						
10	障害者の福祉Ⅱ：障害者総合支援法の概要について学ぶ。						
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。						
12	社会福祉基礎構造改革と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。						
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。						
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。						
15	社会福祉分野における栄養士：社会福祉分野で働く栄養士の立場と役割を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価します。			授業参加状況	20	意見や質問を行い積極的に授業に参加しているか等、受講態度を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めてください。[60分]					課題ではありませんが、講義後に提出された意見や質問には、次の授業でコメントを行います。		
受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでください。				教科書・テキスト	「六訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 岩松珠美・三谷嘉明 編 株式会社 みらい ISBN 9784860155056	
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜紹介します。				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							
社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。							

授業科目名		FP200C 生理学（含運動生理学）		開講学科		食栄		必修・選択		必修					
担当教員名		西 正人													
標準履修年次		2年		開講時期		前期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要						授業の到達目標									
健康な生活を生涯にわたって続けるには、生活に適切な運動を取り入れ、栄養状態の改善を図るなどの生活習慣の確立が重要である。また、スポーツ栄養、健康維持増進、高齢者や病人の介抱や日常生活を助ける専門家は運動を含めた栄養生理を学ぶ必要があることから、本科目では運動生理や栄養生理について学習する。						運動、トレーニングと生理的適応に関するメカニズムを理解する。また、食事と継続的な食生活が人体に及ぼす影響についてそのメカニズムを理解する。これらの理解をとおして様々な個人に対する適切な運動や食生活を処方するための考え方を習得する。									
教授方法		講義と演習課題などによる学習、視聴覚教材を使用する場合もある。													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標										担当教員			
1		消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸收機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する①。													
2		消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸收機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する②。													
3		呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する①。													
4		呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する②。													
5		運動時の呼吸・循環機能と運動時の酸素摂取の問題について理解することにより、エネルギー代謝における問題、健康の保持増進のための運動処方の考え方について学ぶ。													
6		泌尿器系と排泄：泌尿器系の臓器と組織の構造と働き。泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する①。													
7		泌尿器系と排泄：泌尿器系の臓器と組織の構造と働き。泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する②。													
8		内分泌系1 ホルモンの受容体と作用機序について理解する。ヒトにおける内分泌器官や組織の働きと調節機構について理解する。													
9		内分泌系2 外部環境の変化や運動などにおける内分泌系の生体調節作用について理解する。													
10		神経系 自律神経系の働きや運動器系と神経の関係を分子レベルで理解する。													
11		運動（身体的トレーニング）による身体各組織・器官の生理的効果について理解する。													
12		筋肉の収縮機構とエネルギー代謝について分子レベルで理解する。													
13		健康や体力の維持・増進において栄養や運動が及ぼす影響や関連性とそのしくみについて学ぶ。運動と各栄養素との関連や働きなどを理解する。													
14		免疫とその働き①：免疫とその働き、免疫の種類とその特徴などについて学習する。免疫に関わる細胞、生理活性物質それぞれの働きについて学習する。													
15		免疫とその働き②：獲得免疫に関わる細胞と生理活性物質、獲得免疫の成立過程とその特徴などについて学習する。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
定期試験		60		授業内容の理解度を評価する。				課題レポート		40		授業内容の理解度と実践力を演習課題によって評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
テキストや配布されたプリントで、疑問や理解できないことは質問または、専門書で調べておく。[40分]							課題レポート提出後に解答、考え方について解説する。								
受講生に望むこと		人体構造学や栄養生化学で学んだことも必要に応じて復習しながら取り組むこと。					教科書・テキスト		『栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能』第3版 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 羊土社 ISBN978-4-7581-1362-5 C3047 系統看護学講座 専門基礎分野『人体の構造と機能[2] 生化学』第14版第3刷 島山鎮次著 医学書院 ISBN978-4-260-03556-9 （1年次の「人体構造学」と「栄養生化学」のテキストを使用します。）						
指定図書／参考書等		なし／なし					その他・特記事項		なし						
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		FP210C 病気のしくみ		開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名		中谷 壽男					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
病気の原因（病因）、病気による生体の形態的・機能的変化（病態）について理解し、さらに病気の症状、診断、予防や治療について学ぶ。広範な医学知識、専門用語を要領よく的確に身につけることが必要である。特に食事や生活習慣と病気の関連に注目し、栄養指導を通じて社会における疾病予防、健康増進に貢献するための基本的知識を習得する。				①主な病気について病因、病態、症状、診断、予防や治療を理解する。 ②食事や生活習慣と病気の関係を理解する。 ③病気の予防・治療に必要な指導の基本を理解する。			
教授方法	テキストなどをスクリーンに描写して講義を行う。必要ならば別に資料を配布したり、小テストを課すようにする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	病気とは何か：病因と病態、症状、診断、予防と治療について学ぶ。（テキスト第1～3章）						
2	栄養・代謝系疾患Ⅰ：糖尿病、脂質異常症を中心に学ぶ。（テキスト第4章）						
3	栄養・代謝系疾患Ⅱ：肥満、メタボリックシンドロームを中心に学ぶ。（テキスト第4章）						
4	内分泌系疾患：内分泌系疾患について学ぶ。（テキスト第5章）						
5	消化管疾患：口腔から肛門までの消化管の疾患について学ぶ。（テキスト第6章）						
6	肝・胆・膵疾患：消化器の付属腺である肝臓、胆道系、膵臓の疾患について学ぶ。（テキスト第7章）						
7	循環器系疾患：心臓病、動脈硬化、高血圧について学ぶ。（テキスト第8章）						
8	腎・尿路系疾患：腎臓および尿路の疾患について学ぶ。（テキスト第9章）						
9	神経・精神系疾患：神経・精神系疾患について学ぶ。（テキスト第10章）						
10	呼吸器系疾患：呼吸器系疾患について学ぶ。（テキスト第11章）						
11	血液・造血器系疾患：血液・造血系の疾患について学ぶ。（テキスト第12章）						
12	婦人科疾患：女性生殖系および乳腺疾患について学ぶ。（テキスト第16章）						
13	免疫アレルギー系疾患、感染症：免疫アレルギー系疾患および感染症について学ぶ。（テキスト第15、17章）						
14	運動器系疾患、皮膚系疾患：運動器（骨格系と筋系）および皮膚系の疾患について学ぶ。（テキスト第13、14章）						
15	まとめ。前回までの講義で不足分を補講するために使用することもある。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	20	小テストを点数化する。		期末試験	80	全範囲をまんべんなく出題し、最低6割以上正答するかで理解を判断する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストは全ページを読み終え、何度もいきつ戻りつつ反復して読み理解するようにする。予習は講義範囲のテキスト内容を最低限読んで、自分なりに質問事項などを考えておく。（90分） 事後学習として、再度テキストに目を通したり、小テストを検討してみる。（90分）				小テストと期末試験の答えは返却する。解答はGoogle classroomを通じて開示する。			
受講生に望むこと	病気のしくみは学習範囲が広く、授業ではカバーできない部分も多い。よって、テキストや配付資料に基づいた講義の予習復習はもとより、日頃から健康問題に関心を持ち、新聞等のマスメディアの記事にも積極的に目を通すことを望みます。			教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド「臨床医学 疾病の成り立ち」第3版 田中 明、藤岡 由夫(編集) 羊土社 ISBN 978-4-7581-1367-0		
指定図書／参考書等	なし 必要ならば講義で紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FP220C 生理学実習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
食物栄養科学を学ぶものにとって、食物という供給物質について学ぶことはもとより、供給される側の人体の基本的な構造と機能を理解することも大切である。ヒトが食物を摂取することは、消化、吸収、排泄の一連の過程と関連しており、栄養となることは、すべての器官、組織、細胞の構造と機能の健全な成長及び維持に役立っている。すでに学んだこれらの構造と機能について、実習を通して理解を深めることをねらいとしている。実習では、骨標本、人体模型、組織標本などを観察しながら構造や機能的特徴などを学修する。				①人体の構造を巨視的（系統的）及び微視的（顕微鏡的）に説明できる。 ②人体の臓器や組織、細胞における特徴的な構造とその機能を関連づけて理解する。人体の構造と機能について体系的に理解する。			
教授方法	講義と実習、視聴覚教材を用いる場合もある。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、人体の成り立ちと構造と機能を関連付け、体系的に学んでいくことを理解する。						
2	人体の組織とその特徴：ヒトの臓器はどのような組織がみられるか、またそれらの組織の特徴や働きなどについて学習する。						
3	消化器系①：消化管と付属器官にはどんなものがあるか、また消化管における組織の基本構造や組織それぞれの働きについて学習する。						
4	消化器系②：咀嚼、嚥下、消化と吸収におけるメカニズムとそれぞれの器官と働きについて学習する。						
5	循環系①：心臓の構造と組織の特徴と働きとその調節について学習する。						
6	循環系②：血管系の構造と組織の特徴と働き、血圧の調節について学習する。						
7	呼吸器系①：呼吸器系の構造と組織の特徴と働きについて学習する。						
8	呼吸器系②：肺機能検査の内容と意義について学習する。呼吸運動のメカニズムと調節について学習する。生体における酸素と二酸化炭素の運搬のメカニズムについて学習する。						
9	泌尿器系①：腎臓や腎臓の組織の構造と特徴や働きについて学習する。腎臓における血液の濾過、再吸収と分泌を経て尿が生成されるまでのシステムを学習する。腎臓と細胞外液の調節機構について学習する。						
10	泌尿器系②：組織標本の観察（腎臓）：腎臓の構造と働きを理解する。腎小体の組織的な特徴と働きを理解する。また、尿生成の仕組みや尿生成以外の腎臓の働きを理解する。						
11	内分泌系①：ホルモン分泌の調節について学習する。内分泌器官の構造とホルモンの機能について学習する。						
12	内分泌系②：内分泌系の器官、組織、細胞の構造や働きについて理解する。また、内分泌の調節機構、自律神経との関連性などについて理解し、説明できるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	50	実習内容の理解度と実践力を評価する。			定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
実習内容と関連性のある「人体構造学」や「生化学」の項目についてあらかじめ読んでおく。[30分]					課題や演習問題については授業で解説を行う。		
受講生に望むこと	課題に取り組む過程で生じた疑問などは実習中に調べる、質問などし、解決しておく。				教科書・テキスト	「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能」第3版 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 羊土社 ISBN978-4-7581-1362-5 C3047 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 第14版 第3刷 島山鎮次著 医学書院 ISBN978-4-260-03556-9 (1年次の「人体構造学」と「栄養生化学」のテキストを使用します)	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FP230C 栄養生化学実験			開講学科	食米	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
タンパク質・糖質・脂質・ビタミン・無機質などの栄養素を実験試料としてそれぞれの定性・半定量実験について学ぶ。栄養素を分解する消化酵素を使った実験も行う。それらの実験を通して各栄養素の構造や性質、体内での働きへの理解を一層深める。実験に慣れるために身近なもの、現象を対象にした平易なものからスタートし、未知試料を同定させるなどのクイズ形式のまとめ実験などを組み込み、学生が興味・関心を失わないように工夫する。				①実験器具の名称を覚える。 ②実験機器の使用法を覚える。 ③各栄養素の化学変化に興味を持つ。 ④実習書の書かれてあることを具体的な操作へと具現化できる様にする。 ⑤段取り、手順をたてられる様にする ⑥安全に実験を行うことを身につける。			
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日内にレポートを提出するものとする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	実験に際しての注意 実験を行う際の最低限の基礎知識を身につける。						
2	pH による野菜色素の呈色変化 自然界にある様々な化学物質が色素として使えることを知る。						
3	タンパク質の性質 - 等電点、加熱変性 - タンパク質の基本性質を知る。						
4	タンパク質の性質 -凝固・沈殿- タンパク質の基本性質を知る。						
5	タンパク質、アミノ酸の呈色反応 タンパク質、アミノ酸の基本性質を知る。						
6	糖の定性 糖の基本性質を知る。						
7	まとめⅠ - タンパク質、糖の未知試料の同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。						
8	脂質、脂溶性ビタミンの定性 脂質、脂溶性ビタミンの基本性質を知る。						
9	まとめⅡ -脂質、脂溶性ビタミンの同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。						
10	水溶性ビタミン、無機質の定性 水溶性ビタミン、無機質の基本性質を知る。						
11	まとめⅢ -水溶性ビタミン、無機質の同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。						
12	酵素・アミラーゼによるデンプン分解反応 代表的な消化酵素の働きを知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。			取り組む姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化し加点する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1年次に履修した栄養生化学、栄養学の知識を再確認することを実習と平行して行うこと。〔30分〕 実習書をよく読んで、文章で書かれたことを、操作に変換する訓練をする。〔30分〕 また期末試験のためにレポート整理、データ整理などを怠りなく行う習慣をつける。〔30分〕					毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。		
受講生に望むこと	はじめて化学実験を行う人は、化学実験の楽しさを知って欲しい。栄養素の化学的性質を知ること、栄養学の理解を深めてもらいたい。				教科書・テキスト	なし（適宜資料を配布する）	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと 密を避けるために、実施者グループと見学者グループに隔週で分ける。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FP240C 食品学Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	榎本 俊樹						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
本科目は、1年時に学習した食品学Ⅰの知識を基礎に、食品の分類や各食品の特性を学習、理解することを目的とする。具体的には、植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料など）の分類や特性について学習する。また、食品の三次機能に関与する成分が健康に与える影響について述べるとともに、これらの特性を活用した保健機能食品などの新規食品についても解説する。なお、本科目を通して食品を総合的に考える能力を養うため、14回目、15回目の講義においてグループワーク及びディスカッションを実施する。また、講義ごとに課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。				①食品成分表について理解することができる。 ②植物性食品の分類や特性について理解することができる。 ③動物性食品の分類や特性について理解理解することができる。 ④その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料など）の分類や特性について理解することができる。 ⑤保健機能食品について、表示の規格を含め説明できる。また、いわゆる健康食品との違いについて説明できる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食品の分類・食品成分表						
2	植物性食品（穀類）						
3	植物性食品（いも類）						
4	植物性食品（豆、種実類）						
5	植物性食品（野菜類）						
6	植物性食品（果実類）						
7	植物性食品（キノコ類、藻類）						
8	動物性食品（肉類）						
9	動物性食品（魚介類）						
10	動物性食品（乳類、卵類）						
11	その他の食品（油脂類、甘味料、調味料、嗜好飲料など）						
12	機能性食品とその素材						
13	少子高齢化社会の食品産業						
14	グループワーク及びディスカッション・食品科学Ⅱで学んだ知識の総合的理解						
15	グループワーク及びディスカッション・食品科学Ⅱで学んだ知識の総合的理解						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	レポート課題に関して、適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。			期末試験	70	選択肢で回答する問題と論述する問題を出題する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業で使用するレジュメ（資料）は、Google Classroomを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ②講義ごとに関連した内容の課題を提示する。課題に対するレポートは提示した期日までにGoogle Classroomを通じて提出すること。[40分]					期日内にレポートを提出すること。また、レポートの記載内容については、インターネット情報の切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。		
受講生に望むこと	講義で不明な点などについては、必ず質問し、理解すること。				教科書・テキスト	『食品学各論』第3版、瀬口正春・八田一編、化学同人、2016年、ISBN：9784759816419	
指定図書／参考書等	特になし				その他・特記事項	資料の配布及びレポートの提出はすべてGoogle Classroomを通して行う。なお、配布された資料は、講義日までに各自印刷し持参するか、PCやタブレットを持参し講義時に表示・利用すること。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FP250C 食品衛生学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	矢野 俊博						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
本教科では、食の安全安心を確立するための食品衛生行政と関連法律を理解し、その対象となる微生物による腐敗・変敗、食中毒、感染症や寄生虫に加え、食品添加物、有害化学物質等新しい食品の安全性について理解する。さらに、安全な食品製造に欠かせないHACCP並びに食の安心に関連する食品表示についても理解する。これらにより食品衛生を総合的に理解できることを目標とする。 ※SDGs目標番号2関連科目				*食品衛生と関連法律について理解する。 *微生物について理解するとともに食品の腐敗・変敗、食中毒について理解する。 *食品添加物や有害化学物質について理解する。 *HACCP・一般的衛生管理プログラムなど食品衛生管理手法を理解する。 *食品表示および食品の規格基準について理解する。			
教授方法	授業は教科書をもとに、板書を使って講義形式により行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食品安全行政Ⅰ：食品安全行政の対象、食品の安全性の考え方について理解する						
2	食品関連法規：食品安全基本法、食品衛生法、食品表示法等について理解する						
3	食品の変質：微生物の種類や分類、食品の腐敗・変敗による食品成分の変化およびその防止方法について理解する						
4	食中毒Ⅰ：食中毒の分類と発生、細菌性食中毒の種類、特徴、症状を理解する						
5	食中毒Ⅱ：細菌性食中毒の種類、特徴、症状を理解する						
6	食中毒Ⅲ：ウイルス、自然毒による食中毒を理解する						
7	食中毒Ⅳ：寄生虫食中毒および人獣共通感染症の感染経路、予防法を理解する						
8	食品の汚染物質：カビ毒、農薬、ダイオキシン、重金属等について理解する						
9	食品の包装：容器包装の素材と衛生および環境汚染について理解する						
10	食品添加物Ⅰ：食品添加物の安全性の評価、使用基準の設定について理解する						
11	食品添加物Ⅱ：食品添加物の成分規格と表示および食品添加物の種類と用途を理解する						
12	新しい食品の安全性：遺伝子組換え食品、遺伝子修飾食品、放射線照射食品等について理解する						
13	食品衛生管理Ⅰ：コーデックス委員会、HACCPシステムについて理解する						
14	食品衛生管理Ⅱ：一般的衛生管理プログラムおよびその管理方法を理解する						
15	食品の表示と規格：食品表示法の概略、食品の規格基準、成分規格を理解する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	筆記テストにより、学習したことが身についているか確認する。			講義終了後の小試験	20	毎講義時間の講義終了後に行う小試験の成績
取り組む姿勢・態度	10	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
この講義の開始前に高校で履修した理科（化学、生物）に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。〔30分〕					特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。		
受講生に望むこと	食品衛生に関する基礎的な事項を理解し、さらにその内容が私たちの日々の生活にどのように関連しているかを考える。そして、本講義における学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。				教科書・テキスト	『イラスト食品の安全性』小塚諭 編 東京教学社 ISBN-13 978-4808260781	
指定図書／参考書等	なし／教科書以外の「食品衛生学」の教科書				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		FP260C 食品学実験		開講学科		食栄		必修・選択		必修					
担当教員名		坂井 良輔													
標準履修年次		2年		開講時期		後期		単位		1単位		授業形態		実験	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士・フードスペシャリスト									
授業の概要								授業の到達目標							
食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで学んだ各食品に含まれる栄養素と食品成分とを定量する。そして食品成分表に載っている値もしくは食品に表示されている値と比較検討考察して、食品と栄養素への認識を新たにする。食品学Ⅰと食品学Ⅱで学んだことを実際に確認してみる。								栄養生化学実験で学んだことを踏まえ、①使用器具の名前と使い方を覚える②試薬の性質と扱い方を注意する③どんな栄養素がどのような食品に含有されるのかを知る。							
教授方法		実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日内にレポートを提出するものとする。													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		化学実験の基礎知識説明 中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定 今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算が出来るようになる。													
2		中和滴定による酸力価検定 食酢中の酢酸の定量① 中和滴定により、さらに実験技法を高める。													
3		酢酸の定量② 塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量出来ることを知り、実験技法のさらなる上積みをする。													
4		水酸化ナトリウム再滴定 総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する、蒸留装置を組める。													
5		菓子類と栄養 パン、ケーキ、クッキー類に使われているバター、マーガリンのケン化価、ヨウ素価による油脂の化学特数の測定 環流装置を組めるようになる。													
6		ソモギー変法による清涼飲料水 機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつける。													
7		牛乳、乳飲料 機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、微妙な色の変化を識別出来る様になる。													
8		ハウレン草中の鉄の定量① シュウ酸の定量① 灰化操作、化学成分の抽出を習得する。													
9		ハウレン草中の鉄の定量② 光度計の原理と使い方を習得する。													
10		食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、その仕組みと防止する条件を探る。													
11		菓子類と栄養 菓子類に使われているイチゴ、柑橘類にビタミン C が本当に多いのか？数種類をものを対象に測定し、比較する。													
12		ワインのアルコールの定量 ワインを対象として選び、記載濃度と測定結果を比較し、考察する。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
レポート		70		各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。				取り組み姿勢・態度		15		私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。			
レポート提出状況		15		提出状況・枚数を点数化する。											
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
この実験で扱う食品の多くは、日常の食生活や実習で使用するものである。日々、それらを食品学実験から得た知識の上にたって、扱い、活用する習慣をつける。[30分]								毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。							
受講生に望むこと		目に見えない化学成分で栄養素の含有を実感してもらいたい。成分表が栄養素の化学成分測定・定量から成り立っていることを再認識してもらいたい。						教科書・テキスト		なし（適宜資料を配布する）					
指定図書／参考書等		なし／なし						その他・特記事項		白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと 密を避けるために、実施者グループと見学者グループに隔週で分ける。					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名			FP270C 食品衛生学実験		開講学科		食栄		必修・選択		必修					
担当教員名			西 正人													
標準履修年次			2年		開講時期		前期		単位		1単位		授業形態		実験	
他学科の履修			不可		関連資格		栄養士									
授業の概要								授業の到達目標								
食品の安全性を担保することは食品を扱う者にとって人の命に関わる最も重視すべき事柄であるといえる。食の安全を保証する手段として、試験・検査を行い、適切な判断を下して正確な情報を提供することが栄養士の業務において要求されるといえる。実習では市販の食品を試料として実験を展開する。その内容は微生物やその代謝産物に関する項目、食品添加物、水質基準、食品の物理化学的性質と保存性との関連などをテーマとして扱い、食品衛生に関する基礎的な知識の獲得さらに、実験的手法を通して食品衛生の理解や実践能力を養う。								①食品の試験や検査には「食品衛生検査指針」や「衛生試験法・注解」に収載されている公定法や最適法が用いられている。これらの基本的な原理や方法の概要の理解さらに、食品衛生に関する「試験・検査」および「判定」の目的と意義を理解する。 ②実験では大きく分けて微生物学的実験と理化学の実験を行うが、両実験をとおしてサンプルの扱い方や器具、試薬、操作方法の基礎を習得する。 ③ 実験後のレポート作成を通して、データ整理や統計処理など実験・研究において必要な報告書作成の基本を習得する。 ④本実験を通じて食品衛生学の基本的な知識の確認を行う。								
教授方法			講義と実験													
履修条件			なし													
授 業 計 画																
実施回		授業内容・目標												担当教員		
1		理化学実験における注意事項、実験器具と操作方法、実験結果の統計処理など実験データなどの数値の扱い方などを学習する。														
2		水分活性の測定：水分活性の測定原理と実験操作、実験データから食品の保存性などの判定について学習する。														
3		水質検査の意義や測定原理について学習する。水道法の水質基準、各項目が示す水質の指標について学習する。水質検査の測定における操作データの扱い方などを習得する。														
4		生食野菜の一般生菌数の測定をとおして、食品の衛生指標としての一般生菌数データがもつ意義や評価方法などを学習する。また、一般生菌数測定の実験操作を習得する①。														
5		生食野菜の一般生菌数の測定をとおして、食品の衛生指標としての一般生菌数データがもつ意義や評価方法などを学習する。また、一般生菌数測定の実験操作を習得する②。														
6		魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物の代謝によって生じる揮発性塩基窒素化合物をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する①。														
7		魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物の代謝によって生じる揮発性塩基窒素化合物をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する②。														
8		市販の食品から漂白剤として使用されている二酸化硫黄を抽出し、定量する。実験をとおして蒸留法による抽出操作を習得し、二酸化硫黄の化学的性質や漂白剤としての作用、健康への影響について学習する。														
9		着色料の分析①：市販の食品から酸性タール色素を羊毛染色法により抽出し、ペーパークロマトグラフィー法により色素の推定を行う。実験をとおして、酸性タール色素の化学的性質や羊毛染色法による色素抽出の操作、ペーパークロマトグラフィーの原理について学習する。														
10		着色料の分析②：市販の食品から抽出した色素の同定を分光光度計による吸収スペクトルの極大波長の測定により行う。実験をとおして分光光度計による測定を習得する。また、酸性タール色素の化学的性質や添加物として利用されている着色料の健康への影響などについて調べ、使用における注意点や課題などを考察する。														
11		保存料の測定①：市販の加工食品からソルビン酸またはソルビン酸Kを水蒸気蒸留によって留出・精製する。水蒸気蒸留の原理や水蒸気蒸留装置の組み方や実験操作などを習得する。														
12		保存料の測定②：水蒸気蒸留によって精製したソルビン酸をチオバルビツール酸と反応させ比色定量する。ソルビン酸の理化学的性質や比色計を使った測定法などを習得する。また、ソルビン酸と他の食品添加物や食品成分との反応生成物についても学習する。														
成績評価方法と基準																
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準				
定期試験		50		授業内容の理解度を評価する。				実験レポート		50		実験の原理や実験の対象となる物質の化学的性質、食品衛生に関する専門的な知識の理解度を総合的に評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート作成時に食品衛生学で学んだことや食品衛生学のテキストなども参考にすることでより食品衛生に関する理解が深まる。[40分]								対面授業時に分析の原理や目的とする物質の化学的性質などを解説します。								
受講生に望むこと		わかりにくいところや疑問が生じた場合などは専門書などで調べるか、質問してください。						教科書・テキスト		『食品衛生学実験』 杉山章 岸本満 和泉秀彦 編 みらい 2020年 ISBN 978-4-86015-396-0						
指定図書／参考書等		なし／なし						その他・特記事項		なし						
実務経験を活かした授業の概要																
食品機械メーカーにおける勤務経験をもとに、様々な食品の一般生菌検査における実例や注意すべきポイント、クリーンベンチがない場合の無菌的操作などにおける注意点などを説明している。																

授業科目名	FD200C 応用栄養学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	俵 万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
応用栄養学では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。まず、栄養管理の基本的な手技の習得を目指す。次に、日本人の食事摂取基準（2020年版）の考え方を理解し、ライフステージの変化に伴う生理的特徴や栄養状態に対応した栄養管理の考え方や方法を学習する。さらに、運動時及び特殊環境における栄養管理の習得を目指すこととする。				①身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケアマネジメント）の考え方を理解する。 ②日本人の食事摂取基準（2020年版）の考え方を理解する。 ③各ライフステージにおける生理的な変化や栄養状態の特徴、それらに対する栄養管理のあり方を理解する。 ④運動時や特殊環境下での代謝変化やその際の栄養摂取方法を理解する。			
教授方法	講義。教科書、パワーポイント、プリントを用いて行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養ケアマネジメント：①栄養ケアマネジメントの定義やプロセス②栄養スクリーニング③栄養ケア計画の実施・モニタリング・評価、について理解する。						
2	日本人の食事摂取基準（2020年版）：食事摂取基準の①目的と策定の基本方針、活用のための理論と方法②各指標の定義、について理解する。						
3	日本人の食事摂取基準（2020年版）：エネルギーおよび各栄養素の算定根拠について理解する。						
4	妊娠期：妊娠期の生理的特徴を理解する。						
5	妊娠期：妊娠期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する						
6	授乳期：授乳期の生理的特徴を理解する。						
7	授乳期：授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
8	新生児・乳児期：新生児・乳児期の生理的特徴を知り、その未熟性を理解する。						
9	新生児・乳児期：新生児・乳児期の栄養ケアマネジメントと栄養補給方法を理解する。						
10	成長期：成長期の生理的特徴を理解する。						
11	成長期：成長期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
12	成長期：成長期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
13	高齢期：①高齢期の生理的特徴②高齢期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメント、について理解する。						
14	運動・スポーツと栄養：①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝②運動と栄養ケアマネジメント、について理解する。						
15	環境と栄養：ストレスおよび特殊環境条件下における生理的特徴と栄養ケアマネジメントについて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	80	講義内容についてどれだけ理解しているか			授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習：教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] 事後学習：教科書・配布プリントを参照し、授業で扱った内容の理解を深める。[30分]					毎回、前回の授業内容について質問をし、理解できているか確認を行う。		
受講生に望むこと	応用栄養学は栄養士の実践活動の根幹をなすものです。将来、様々な状況に対応できる応用力のある栄養士となれるよう、栄養管理の基礎を意欲的に学んでください。				教科書・テキスト	『Visual 栄養学テキスト 応用栄養学』 小切間美保・栗原晶子編著、中山書店、2020年 ISBN 978-4-521-74291-5	
指定図書／参考書等	なし/日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		FD210C 臨床栄養学Ⅰ		開講学科		食栄		必修・選択		必修					
担当教員名		中川 明彦													
標準履修年次		2年		開講時期		前期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要							授業の到達目標								
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。 実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。							①各病態の栄養管理を理解し、食事量、食形態などの制限により不足する栄養素を理解し、代替食品の利用方法を習得する。 栄養管理の栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 ③臨床栄養学で習得した各疾患の献立の作成に活かし、約束食事箋（施設の食事栄養基準）を理解する。 ④特に多職種との連携が必要であり、栄養指導では優れた感性、コミュニケーション能力が要求される。その技法を習得する。								
教授方法		講義													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		医療法に基づいた医療施設、介護福祉施設の栄養部門の業務体制、医療法に準じたチーム医療の栄養管理についての帳票の作成・保存、診療・介護報酬改定による業務の対応について：臨床栄養の意義、基礎を理解する。													
2		医療施設、介護福祉施設の疾病者・要介護者の栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスの概要について：栄養管理の手法①栄養アセスメント 栄養診断③栄養介入④栄養モニタリングと評価、栄養ケア計画について理解する。													
3		栄養アセスメントと栄養量の算出について：栄養スクリーニング、栄養パラメータ、検査値について理解する。													
4		栄養補給法について：経口栄養 経管栄養（経鼻アクセス・消化管瘻アクセス）、経静脈栄養（末梢静脈栄養・中心静脈栄養）について理解する。													
5		栄養管理記録について：問題指向型システム（POS、POMR、SOAP）、PDCAサイクル（業務管理における継続的な改善方法）について理解する。													
6		各医療・介護福祉施設の治療食の約束食事箋（食事栄養基準）について：各疾患による栄養管理の基準を設定、薬と栄養素・食物の相互作用による摂取禁止となる治療食について理解する。													
7		食品の栄養素と機能について：食品の機能を理解し、栄養補助食品、特定保健用食品、特別用途食品（アレルギー除去食品等）、育児用調整粉ミルク、調整濃厚流動食品、経腸栄養剤を理解する。													
8		栄養教育（栄養食事指導）の意義と目的について：栄養指導システムを理解する。													
9		栄養教育（栄養食事指導）の手法について：栄養指導に必要な知識（行動科学理論、カウンセリングの応用）と栄養指導に用いる媒体、配布する資料の必要性を理解する。													
10		代謝疾患（糖尿病、妊娠糖尿病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。													
11		代謝疾患（脂質異常症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。													
12		代謝疾患（肥満症、メタボリックシンドローム）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。													
13		代謝疾患（高尿酸血症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。													
14		代謝疾患（低栄養）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。													
15		消化器疾患（口腔・歯科疾患、胃・十二指腸疾患）：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
期末レポート		50		各回の講義内容のポイントを理解しているか。範囲、形式、評価基準は後日掲示する。				授業参加状況態度		20		出席状況、授業への取り組み姿勢。			
毎回のレポート提出		30		指定の用紙を用いてテーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。											
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
①シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] ②レポートを記載する際には、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]							①レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②評価やコメントに対しての質疑にはその都度、対応する。								
受講生に望むこと		臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。将来、管理栄養士を目指す学生にとっても、臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。					教科書・テキスト		栄養科学イラストレイテッド（羊土社） 臨床栄養学 基礎編 第3版 本田佳子他編 ISBN978-4-7581-1369-4 臨床栄養学 疾患別編 第3版 本田佳子他編 ISBN978-4-7581-1370-0						
指定図書／参考書等		改訂新版 栄養管理プロセス 栄養管理プロセス研究会/監修 2022年発行（第一出版）ISBN：9784804114453 日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版）ISBN:978-4-8041-1408-8					その他・特記事項		なし						
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		FD220C 臨床栄養学Ⅱ		開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名		中川 明彦					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。 実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。				①各病態の栄養管理を理解し、食事量、食形態などの制限により不足する栄養素を理解し、代替食品の利用方法を習得する。 栄養管理の栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 ③臨床栄養学で習得した各疾患の献立の作成に活かし、約束食事箋（施設の食事栄養基準）を理解する。 ④特に多職種との連携が必要であり、栄養指導では優れた感性、コミュニケーション能力が要求される。その技法を習得する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	消化器疾患（下部消化管疾患）：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
2	消化器疾患（肝疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
3	消化器疾患（膵・胆道系疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
4	循環器疾患（高血圧症、妊娠高血圧症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
5	循環器疾患（動脈硬化症、心疾患、脳血管疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
6	腎・尿路系疾患（慢性腎臓病、糸球体腎炎、腎不全、糖尿病性腎症、末期腎不全による透析療法、尿路系疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
7	内分泌系疾患（甲状腺異常）、神経・精神系疾患（認知症、摂食障害）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
8	呼吸器疾患（肺疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
9	血液・造血器系疾患（貧血、造血器系腫瘍）、運動器〔骨格系〕疾患（骨粗鬆症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	免疫・アレルギー系疾患（食物アレルギー）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	がん（食道、胃、大腸）とターミナルケア、周術期の管理について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	摂食機能障害（嚥下機能障害）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	嚥下機能障害（嚥下障害）、障害者ケアについて：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
14	小児疾患（先天性代謝異常症、アレルギー疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
15	高齢期疾患（低栄養、褥瘡）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末課題	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。課題の範囲、形式、評価基準は後日掲示する。			授業参加状況態度	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。
毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] ②レポートを記載する際は、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]					①レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②評価やコメントに対しての質疑にはその都度、対応する。		
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。将来、管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。				教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド（羊土社） 臨床栄養学 基礎編 第3版 本田佳子他編 ISBN978-4-7581-1369-4 臨床栄養学 疾患別編 第3版 本田佳子他編 ISBN978-4-7581-1370-0	
指定図書／参考書等	改訂新版 栄養管理プロセス 栄養管理プロセス研究会/監修 2022年発行（第一出版）ISBN：9784804114453 日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版） ISBN:978-4-8041-1408-8				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		FD230C 応用栄養学実習		開講学科		食栄		必修・選択		必修					
担当教員名		俵 万里子													
標準履修年次		2年		開講時期		後期		単位		1単位		授業形態		実習	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要								授業の到達目標							
「応用栄養学」で学んだ知識を基に、各ライフステージの身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理について、講義、献立作成、調理実習を通して理解し、実践的な技術、知識を身につける。実習は特に配慮が必要な乳幼児期、高齢期を中心に行う。								①各ライフステージにおける特性と問題点を理解する。 ②各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。 ③対象者の身体状況、食生活状況を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。							
教授方法		講義、調理実習、献立演習													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		実習：調乳・冷凍母乳・離乳食；生後5,6ヵ月頃（無菌操作法による調乳法を習得する。冷凍母乳の方法を理解する。離乳食を調理し、進め方の目安を理解する。）													
2		実習：離乳食；生後7,8ヵ月頃（生後7,8ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）													
3		実習：離乳食；生後9～11ヵ月頃（生後9～11ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）													
4		実習：保育所給食3歳未満児（3歳未満児の昼食と間食を調理する。3歳以上児との給食形態の違いや調理法、分量などを理解する。）													
5		実習：保育所給食3歳以上児（3歳以上児の昼食と間食を調理するとともに、その献立材料から各班自由に離乳食を展開してみる。）													
6		実習：幼児の間食（幼児期の間食の必要性和与え方を学び、子どもの心と体を育む間食を考える。）													
7		実習：幼児の弁当（弁当の特徴や調理上の留意点を学ぶ。調理法、詰め方は各班で工夫する。）													
8		実習：食物アレルギー対応食（幼児期の食物アレルギー対応食の特徴や調理上の留意点などを調理実習を通して理解する。）													
9		演習：幼児食の献立作成（グループごとに幼児食の献立を作成する。）													
10		実習：高齢者の食事（高齢者の身体面、精神面の変化を理解し、健康な高齢者を対象としたメニューを実習する。）													
11		実習：高齢者の食事（高齢者の食生活に変化と潤いを与える行事食について理解する。）													
12		実習：作成献立の実習・評価（班ごとに作成献立の調理を行い、試食と評価を行う。）													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
実習のレポート		80		指定の用紙を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。				授業参加状況		20		受講態度、調理実習中の取り組み。			
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
①応用栄養学で学んだ知識を生かせるよう復習しておく。[30分] ②作成献立による実習は事前に試作を行う。[90分] ③レポートをまとめ、1週間以内に提出する。[60分]								レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。							
受講生に望むこと		①実習の目的と内容を十分理解して授業に臨んで下さい。 ②提出物は期限までに必ず提出すること。 ③返却されたレポートは保管すること。						教科書・テキスト		プリント配布					
指定図書／参考書等		なし/日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版）						その他・特記事項		なし					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		FD240C 臨床栄養学実習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名		中川 明彦						
標準履修年次		2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修		不可	関連資格	栄養士				
授業の概要					授業の到達目標			
臨床栄養学は医学・栄養学の進歩に伴う食事療養の在り方を常に考慮していかなければならない。臨床栄養学の講義で学んだ基礎知識を踏まえ、疾病の改善に欠くことのできない栄養ケアの実践について学ぶ。調理実習や献立演習を通して、個々の患者のニーズに合わせるとともに、病態や栄養状態に基づいて適正な栄養管理ができるよう学びを深める。疾患別の栄養ケアの先に、栄養ケアの概念及び基礎（栄養補給法や基礎実習）を学ぶ。					①栄養ケアの概要を理解する。 ②栄養補給法について、種類や適応を理解する。 ③疾患別の栄養ケアについて、各疾患の概要を理解する。 ④「糖尿病治療のための食品交換表」を理解し、患者に指導ができるようになる。 ⑤調理実習では、まず基礎実習をしっかりと身につける。さらに各疾患の特徴を十分に理解したうえで、そのニーズに合わせた実習を行い、試食により味や舌触りを体験する。 ⑥グループワークにより、摂食・嚥下障害の実践を理解する。			
教授方法		講義、調理実習（プリントを配布する）、献立演習						
履修条件		なし						
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	【講義】病院・栄養部門の組織と業務・制度、入院時食事療養費・入院児生活療養費の基本構造、病院食の分類（一般食と特別食）、栄養PCシステムの栄養管理と給食管理の業務の帳票、医療監視に審査について理解する。							
2	【講義】医療施設の食事栄養基準の一般食、特別治療食、栄養補助食品、特定保健用食品、特別用途食品（アレルゲン除去食品等）、育児用調整粉ミルク、調整濃厚流動食品、経腸栄養剤、嚥下既製品などを総合的に理解する。							
3	【講義】食事栄養基準に準じた一般食、特別治療食、各摂取機能の状況による食事形態種類と塩分量、基本献立から各献立への展開を理解する。【実習】一般食の献立作成、全粥へ展開し、献立作成をする。							
4	【講義】食事栄養基準に準じた一般食、各摂取機能の状況による食事形態種類と塩分量、基本献立から各献立への展開を理解する。実習：全粥から5分粥、3分粥に展開し、献立を作成する。							
5	【講義】食事栄養基準に準じた一般食、特別治療食、各摂取機能の状況による食事形態種類と塩分量、基本献立から各献立への展開を理解する。【実習】全粥から潰瘍食、消化管術後食へ展開し、献立作成をする。							
6	【講義】食事栄養基準に準じた一般食、特別治療食、各摂取機能の状況による食事形態種類と塩分量、基本献立から各献立への展開を理解する。【実習】常食から糖尿病食（塩分6g未満）へ展開し、献立作成をする。							
7	【講義】食事栄養基準に準じた特別治療食の基本献立から各献立への展開を理解する。【実習】糖尿病食（塩分6g未満）から腎臓病食（たんぱく質制限食）へ展開し、献立作成をする。〔グループワーク〕							
8	【治療食調理実習】糖尿病食3食/1日（塩分制限なし/塩分6g未満）を調理、試食を体験し、糖尿病食（エネルギーコントロール食）、塩分量の違いによる味覚などを認識し、技能を身につける。〔グループワーク〕							
9	【講義】介護食の栄養管理：口腔障害、摂食・嚥下障害の概要及び介護食（嚥下調整食学会分類2021/食事態段階、分類との対応、段階毎で必要とされる咀嚼能力）を学び、摂取低下の改善の必要性を理解する。							
10	【治療食調理実習】日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021/食事形態段階：嚥下食ピラミッド5段階の形態を調理し、とろみ剤の使い方、とろみの違いを体験し認識し、技能を習得する。〔グループワーク〕							
11	【講義】症例検討会 内分泌・代謝疾患—糖尿病の検査、検査値、医師からの栄養食事指導の依頼に基づく、対面による聞き取り、栄養指導、栄養指導の媒体、栄養指導記録を学び、栄養指導を体験する。〔グループワーク〕							
12	【講義】医療・介護福祉施設の給食管理の1日の各担当のタイムスケジュールと業務と栄養士の役割について 【実習】栄養士として、心構え、人のコミュニケーション、基礎知識などを自分の将来像を考察する。							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
実習レポート評価	60	指定の様式を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考に必ず記載する。調理実習のポイント、感想、盛付図、振り返りなどを記載する。			授業参加状況	20	受講態度、調理実習中の取り組み。	
糖尿病の献立演習	20	糖尿病の栄養ケアについて講義及び実習で学んだことを生かし、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて1日分の献立を立てる。						
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①初回授業において「臨床栄養学実習予定表」を配布するので、テキストにより予習して授業に臨む。[30分] ②定期試験を行わず、レポートにより評価するので、レポートを記載する際は、テキスト以外に図書館にある参考書などを参考に自分の覚書でなく、提出することを意識して作成しましょう。[60分] ③献立演習は、2週間後までの課題とするので時間をかけてしっかり取り組むこと。[120分]					①レポートは3週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②献立演習は4週間以内に添削をして返却する。献立作成の狙いの理解がみられるまで再提出と添削・返却を繰り返す。 ③評価やコメント等に関する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	①疾患ごとの病態や食事療法の方法を理解し、個々のニーズに合わせた栄養ケアをしっかりと学んでください。 ②実習はまず出席し、グループの仲間と計画的・能率的に行うことが大切です。積極的に取り組んでください。 ③提出物は必ず期限を守ってください。 ④返却されたレポートは保管してください。				教科書・テキスト	実践 臨床栄養学実習 長浜幸子 西村一弘 宮本佳世子 編 2022年発行（第一出版）ISBN：9784804114514 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版日本糖尿病学会編（文光堂）2013年（ISBN:978-4-8306-6046-7）		
指定図書参考書等	・腎臓病食品交換表 第9版 治療食の基準 黒川清監修（医歯薬出版）2016年 ISBN978-4-263-70674-9・日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021/日本摂食嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食委員会/ ・日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版）2020年（ISBN:978-4-8041-1408-8） ・大量調理施設衛生管理マニュアル（最終改正：平成 25 年2月1日付け食安発 0201 第2号） ・栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学実習 中村丁次監（羊土社）ISBN978-4-7581-1371-7				その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名		FG210C 公衆栄養学		開講学科		食栄		必修・選択		必修					
担当教員名		長井 直子													
標準履修年次		2年		開講時期		後期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要								授業の到達目標							
地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。集団の健康増進・栄養改善に必要な公衆栄養プログラムを展開するために、公衆栄養マネジメントの概念、プログラム計画策定・実施の手法、栄養疫学・栄養アセスメントの手法、プログラム評価のための指標・情報収集の方法を学ぶ。また、わが国の健康・栄養政策、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題等も学習する。								①地域等の健康・栄養問題に関心が持てるようになる。 ②公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する手法を理解する。 ③わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題、政策について理解する。 ④栄養関係法規を理解する。							
教授方法		講義													
履修条件		公衆栄養学と関連の深い『公衆衛生学』を履修していることが望ましい。													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標										担当教員			
1		公衆栄養の概念と活動の基本（公衆栄養活動の意義・目的・歴史）													
2		公衆栄養の政策と関連法規（地域保健法・健康増進法・食育基本法・母子保健法・高齢者医療確保法）													
3		食育推進基本計画と食育白書（第4次食育推進基本計画・食育白書・自治体計画）													
4		公衆栄養マネジメント・アセスメント（自治体における活動の進め方・プリシード・プロシードモデルの概念・アセスメント・地域診断）													
5		公衆栄養プログラム計画・評価と健康日本21（住民参加・政策との調整・評価の種類とフィードバック・健康な食事）													
6		国民健康・栄養調査（目的・沿革・体系・調査のフロー・調査の方法・結果の概要）													
7		栄養政策に関連する指針及びツールと特定健診・特定保健指導（食生活指針・食事バランスガイド・休養/運動/睡眠の各指針）													
8		健康・栄養問題の現状と課題Ⅰ（国民の健康状態・少子化社会の健康政策）													
9		健康・栄養問題の現状と課題Ⅱ（高齢社会の健康及び栄養問題）													
10		食環境の整備と食料需給（食品表示・栄養成分表示・特別用途食品・機能性表示食品・食料需給と食品ロス）													
11		食事摂取基準の概要と活用Ⅰ（日本人の食事摂取基準2020年版の概要）													
12		食事摂取基準の概要と活用Ⅱ（日本人の食事摂取基準2020年版の演習）													
13		栄養疫学の概要（各種指標・疫学研究事例）													
14		栄養疫学における食事摂取量の測定（食事摂取量の調査法・評価）													
15		諸外国の健康・栄養政策（国際連合・世界保健機関・国連食糧農業機関・世界栄養会議）													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
課題レポート		45		レポートを正確に作成、提出期限を厳守する				授業参加意欲		35		授業受講態度・学習への取り組み姿勢			
定期試験		20		授業内容の理解度を判定する											
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
①教科書予習をして授業に臨む。〔30分〕 ②課題レポート作成に取り組む。〔30分〕 ③健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する情報を収集する習慣を身につける。〔30分〕								課題レポートは、解答例を添えて随時返却する。							
受講生に望むこと		・配付資料や課題レポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。						教科書・テキスト		エスカパーシク『公衆栄養学概論 2023/2024』 古畑 公・田中弘之 編著 同文書院 2023年3月刊行 ISBN978-4-8103-1521-9					
指定図書参考書等		なし／『国民健康・栄養の現状』国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修 第一出版						その他・特記事項		各授業で参考資料の配付あり。					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		FC200C 給食実務論(含計画)			開講学科	食栄	必修・選択	必修	
担当教員名		田中 弘美							
標準履修年次		2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義	
他学科の履修		不可	関連資格	栄養士					
授業の概要					授業の到達目標				
給食とは、特定の人に対し継続的に提供される食事であり、単なる栄養補給のための食事提供ではなく、実際に食べる量・味・盛り付けなども栄養教育の媒体となり栄養管理の一環として大切である。特定給食施設での食事は、主に対象者の健康の保持増進を目的としていることを理解した上で、病院、学校、事業所、福祉施設等の各特定給食施設における給食の計画、実施、評価までの一連の業務内容を学習し、対象者の栄養改善に寄与できる適切な栄養管理を行うための知識を習得する。また関係法令や行政指導等を学び、栄養士・管理栄養士の役割を理解する。 ※SDGsターゲット12.5関連科目					①特定給食施設における給食の目的や栄養士の役割について説明できる。 ②関連法規について説明できる。 ③大量調理施設衛生管理マニュアルを理解し、作業工程や作業動線を考えられるようになる。 ④調理従事者の衛生管理や衛生事故の予防と対策が説明できる。 ⑤給食施設ごとの給食の目標や特徴、栄養管理の方法を説明できる。				
教授方法		講義							
履修条件		なし							
授 業 計 画									
実施回	授業内容・目標							担当教員	
1	給食の定義を理解し、給食の意義や歴史と現状を知り、特定給食施設における給食の位置づけについて学ぶ。								
2	栄養・食事管理の目的を理解し、給与栄養目標量の設定、献立計画及び評価について学ぶ。								
3	栄養・食事管理の目的を理解し、給食と栄養教育・栄養指導について学ぶ。								
4	給食の安全・衛生管理について、HACCPに基づく衛生管理手法と大量調理施設衛生管理マニュアルを通して理解を深める。								
5	事故・災害対策への対応や食物アレルギー対応について学ぶ。								
6	給食の調理管理として、食材管理について学ぶ。								
7	給食の調理管理として、調理作業管理について学ぶ。								
8	給食の調理管理として、新調理システムについて学ぶ。								
9	給食の施設・設備管理として、給食施設内のいろいろな設備について学ぶ。								
10	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、学校給食、病院給食について学ぶ。								
11	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、保育所給食、高齢者福祉施設給食について理解する。								
12	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、事業所給食、その他の給食について理解する。給食の業務委託と配食サービスについて学ぶ。								
13	給食の組織と機能におけるPDCAサイクルの理解と連携及び人事・労務管理を学ぶ。								
14	給食の情報処理管理として事務管理の実践について学ぶ。								
15	給食の会計・原価管理の目的を知り、原価構成や財務諸表について学ぶ。								
成績評価方法と基準									
評価項目		割合(%)	評価基準			評価項目		割合(%)	評価基準
単位認定試験		60	試験形式で、栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。			課題		30	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
授業参加意欲		10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。						
授業外における学習（事前・事後学習等）						課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習してください。[30分] ②関連科目とリンクさせ、主体的に学ぶことが大切です。とくに、課題の取り組みでは、図書館を利用して知識を定着させる努力をしてください。[60分]						授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと		校外実習ならびに栄養士免許取得に向けて、基本的なことはしっかり理解できるように努力してください。				教科書・テキスト		『改訂 給食の運営・栄養管理・経営管理―』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建帛社 ISBN978-4-7679-0663-8 『給食経営管理用語辞典 第3版』日本給食経営管理学会監修 第一出版 ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 2021年度版 第一出版 ISBN:978-4-8041-1409-5	
指定図書／参考書等		なし／『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社ISBN978-4-0651-4066-6 日本人の食事摂取基準 [2021年版] 第一出版 ISBN978-4-8041-1408-8 食事療養のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編 ISBN978-4-8306-6046-7				その他・特記事項		代替授業はGoogle Classroomから課題を配信またはGoogle Meetによるオンライン授業を行います。	
実務経験を活かした授業の概要									

授業科目名		FC210C 給食管理実習Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名		田中 弘美						
標準履修年次		2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修		不可	関連資格	栄養士				
授業の概要					授業の到達目標			
給食管理実習Ⅰで学んだ知識をもとに計画（plan）、実施（do）、検討（check）、修正のための実行（action）のPDCAサイクルを活用し、給食対象者に適切で、豊かな食事を提供できるように、自主的に実習する。給食の運営管理の理論を実践し、給食施設の栄養士業務の計画、実施、評価を体得し、給食施設を管理するための技能と栄養士の役割について学習することを目的とする。講義・演習以外は、クラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。					①給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できる。 ②栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、実践することができる。			
※SDGsターゲット12.5関連科目								
教授方法		講義・演習と実習						
履修条件		学科指定の者						
授 業 計 画								
実施回		授業内容・目標						担当教員
1		調理作業計画：栄養管理（実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ）を理解する。						
2		調理作業計画：食材管理（食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理）を理解する。						
3		目標:食数管理（発注作業など）、栄養指導媒体作成を行う。						
4		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
5		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
6		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
7		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
8		目標:評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。						
9		目標:食数管理（発注作業など）、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。						
10		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
11		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
12		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
13		計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
14		目標:評価、振り返り。						
15		目標:グループ発表と相互評価を行う。						
成績評価方法と基準								
評価項目		割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
単位認定試験		50	試験形式で、栄養士として必要な知識が理解できているかを評価する。		献立作成演習・実習	20	①献立作成と栄養評価の確認。 ②実習時における積極的な姿勢。 ③挨拶、身なりなどの基本的な態度。 ④実習後のレポートの指定期日までの提出。	
課題		20	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。		授業への参加態度	10	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。	
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①栄養比率を理解して対象者に合わせた献立作成ができるようにしてください。〔30分〕 ②媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。〔60分〕 ③実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため丁寧に やすく書いてください。〔30分〕 ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。					実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと		①グループ作業が多いため役割分担するので、常に協力して行う姿勢で取り組んでください。 ②実習中の私語は慎んでください。 ③調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。 ④食事や睡眠を意識して体調管理をしてください。 ⑤実習時は、持ち物を確認して出席してください。			教科書・テキスト		『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著（株）みらい ISBN978-4-86015-343-4 『改訂 給食の運営・栄養管理・経営管理一』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建邦社 ISBN978-4-7679-0663-8 『給食経営管理用語辞典』第3版 日本給食経営管理学会監修 第一出版 ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携 2021年度版』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1428-6	
指定図書／参考書等		なし／『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-065-14066-6 日本人の食事摂取基準[2021年版] 第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献			その他・特記事項		授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。	
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名		FC220C 校外実習		開講学科		食栄		必修・選択		選択					
担当教員名		田中 弘美・三田 陽子（代表教員 田中 弘美）													
標準履修年次		2年		開講時期		後期		単位		1単位		授業形態		実習	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養士									
授業の概要						授業の到達目標									
医療施設・福祉施設・学校などの特定給食施設における、給食業務を行うための給食サービス提供に関し、栄養士として必要な知識及び技能を習得することが目的である。特定給食施設の実際を通して、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術・概要について理解し、給食の実務等を習得することをねらいとする。						①栄養士免許取得のために必要な専門科目の授業・実習で学んだ知識技術を実習先で確認できる。 ②実際の現場で学んだ貴重な体験から課題を見つけ、今後の学習に結びつけることができる。									
教授方法		講義及び実習													
履修条件		「1年次に開講された栄養士免許取得のために必要な科目」の単位を履修済みの者													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標									担当教員				
1		実習前の指導：実習に向けての心得について確認する。									田中				
2		実習先：施設別給食施設の概要と特徴を理解する。									担当栄養士				
3		実習先：施設別給与栄養目標量の算出について理解する。									担当栄養士				
4		実習先：オーダーリングシステムを理解する。									担当栄養士				
5		実習先：給食の食数管理を理解する。									担当栄養士				
6		実習先：食材料管理を理解する。									担当栄養士				
7		実習先：大量調理について理解する。									担当栄養士				
8		実習先：機械、機具の取り扱いについて理解する。									担当栄養士				
9		実習先：衛生管理について理解する。									担当栄養士				
10		実習先：給食関係諸報告書等の作成について理解する。									担当栄養士				
11		実習先：対象者に対する栄養教育及び栄養指導について理解する。									担当栄養士				
12		実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計する。									担当栄養士				
13		実習先：対象者の栄養アセスメント・ケアプランを理解する。									担当栄養士				
14		反省とまとめ									全員				
15		実習報告会									全員				
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
実習先からの評価		60		担当栄養士による評価となる。				報告会の準備・発表		20		報告会の準備を積極的に行ったか、実習における反省を活かし、今後の課題を見つけ、社会に貢献しようとしているか。			
事前レポート及び準備		10		取り組み姿勢（事前訪問も含む）。				報告書の提出		10		実習後の整理がきちんとできているか（実習先へのお礼状を含む）。			
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
1年次に履修済みの栄養士免許取得に必要な科目の復習を十分行ってください。 〔120分〕 図書館などを利用して疑問点を解決できるように努力してください。〔60分〕							課題及びレポートについては、内容に不備がある場合は添削後再提出、返却を繰り返します。 校外実習に関する質問には随時応じます。								
受講生に望むこと		・実習生としての立場を忘れず積極的に取り組んでください。 ・事前訪問で指示されたことはきちんと守ってください。 ・包丁がうまく使えるように努力してください。					教科書・テキスト		『臨地・校外実習のてびき』木戸詔子・福井富穂編 ISBN978-4-7598-1195-7 『改訂 給食の運営・栄養管理・経営管理一』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建邦社 ISBN978-4-7679-0611-9 『給食経営管理用語辞典』日本経営管理学会 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1409-5						
指定図書参考書等		『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-06-14066-6 ／日本人の食事摂取基準〔2021年版〕 第一出版 ISBN978-4-8041-1408-8 食事療養のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編 ISBN978-4-8306-6046-7					その他・特記事項		授業参加態度や課題提出等の問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。 実習先の栄養士による評価が「不可」の場合は、単位認定されません。						
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		FS200C 食品の消費と流通		開講学科		食米		必修・選択		選択					
担当教員名		新澤 祥恵													
標準履修年次		2年		開講時期		後期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		フードスペシャリスト									
授業の概要								授業の到達目標							
食は人間の生命維持に不可欠であり、食料の安定供給は、我々の日常生活においては重要な課題である。今日、様々な技術の進歩により、食料の生産から消費者に至るまでの流通過程は拡大し、一方で、社会環境、生活環境の変化に伴い、消費者の食生活は大きく変容している。現在の我が国における食品の流通構造を理解し、そこからもたらされる様々な課題を考える。								①今日の食市場を理解する。 ②食品の生産から消費者に至る流通過程を理解する。 ③外食・中食産業を理解する。 ④フードマーケティングの考え方を理解する。 ⑤食料消費に関わる問題を理解する。							
教授方法		講義													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		食市場の変化1：現代の食生活を支える食市場の概況を理解する。													
2		食市場の変化2：食品消費の変化と食生活の多様化を検証する。													
3		卸売流通の役割とそのシステム、さらに中央卸売市場の仕組みを理解する。													
4		様々な小売り流通の形態を理解する。													
5		外食・中食産業のマーチャндаイジングを理解する。													
6		商品の分類における食品の位置づけを理解する。													
7		個々の主要食品（米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類、食肉）の流通を理解する。													
8		個々の主要食品（鶏卵、乳・乳製品、大豆加工品、漬け物、佃煮）の流通を理解する。													
9		個々の主要食品（食用油脂、調味料、菓子、茶・コーヒー、清涼飲料水、酒類）の流通を理解する。													
10		フードビジネスとフードマーケティングを理解する。													
11		食料消費における環境問題を理解する。													
12		食品流通の安全確保の仕組みを理解する。													
13		食料消費を取り巻く課題を理解する。													
14		食と農・水産業の課題を考える。													
15		これからの食品の消費の在り方を考える。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
期末試験		70		記述式として記載内容の適切度を評価する				授業参加		30		毎授業への取組姿勢			
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
①テキストにより、事前に学習内容の把握をする ②授業内容をまとめる [各30分]							毎回の小テストは次の授業で返却・解答								
受講生に望むこと		①資格試験科目の授業として、テキストの内容を確実に理解し、修得すること ②様々な統計資料などに関心を持つこと					教科書・テキスト		『三訂食品の流通と消費』日本フードスペシャリスト協会 建帛社 ISDN：978-4-7679-0687-4 C3077						
指定図書／参考書等		なし／なし					その他・特記事項		特になし						
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名		FS210C フードコーディネート論		開講学科		食栄		必修・選択		選択					
担当教員名		田中 弘美													
標準履修年次		2年		開講時期		前期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		フードスペシャリスト									
授業の概要								授業の到達目標							
現代の「食」の営みの環境は流動的に変化しており、それに対応するためにもフードビジネスの担い手となるフードスペシャリストが期待される。フードコーディネート論では、食文化、調理文化、礼儀作法を始め、食に関連したコーディネートの基本知識を学び、消費者の視点に立った快適な食全般を提供できることをねらいとする。								①授業を通して、食に関するコーディネートに必要な知識の習得と実践力を身につけることができるようになる。 ②食生活の諸問題を広い視野に立って考え、問題解決に向けて活動できるようになる。							
※SDGsターゲット12.8関連科目															
教授方法		テキスト及び配布資料による講義。DVD 視聴もある。													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		五感によってとらえられる生理的なおいしさ、その他、おいしさに及ぼす影響、おいしさの本質を理解し、ホスピタリティやアメニティについて学び、フードコーディネートの基本理念であるもてなしの心について理解する。													
2		食事とは何かを概観したうえで、日本人の食生活の歴史的な成り立ちを学ぶことを通して、人間の食事は単に生命維持のためばかりではなく、文化的社会的に大きな役割を担うものであることを理解する。													
3		世界の国々の食事の特徴や進行しつつある食のフュージョン（融合）やスローフード運動などのついて考え、日本人の食事がどのように変化しながら現代に至ったかを理解する。													
4		日本料理、中国料理、西洋料理について、各料理様式の基本的な食器・食具などのテーブルウェアと食卓のコーディネート（テーブルコーディネート）を理解する。													
5		食卓のコーディネートでは、6W3H にふさわしい食事・料理形式に適した食卓のスタイルを構成することを理解する。また、食器・食具の配置（テーブルセッティング）については、国によってそれぞれの決まりごとがあるので、それらの基本知識を身につける。													
6		食卓におけるホスピタリティの精神の重要性及びサービスとマナーについての基本理念と学び、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。													
7		第 6 回に引き続き、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。													
8		ディナーとブッフェ形式およびワインについてやパーティの種類とパーティプランニングの基本事項を理解する。													
9		献立と献立を構成する料理内容の企画立案であるメニュープランニングの目的を学び、各国の料理様式の基本構成を理解する。													
10		各国の料理様式の基本構成を理解する。													
11		食空間のコーディネートの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素それぞれに対応したコーディネートを理解する。													
12		食空間のコーディネートの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素それぞれに対応したコーディネートを理解する。													
13		フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本についての概要を理解したうえで、フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、コンセプトの作成について理解する。													
14		フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐売上高の算出などを事例を通して理解する。													
15		実践現場における食企画の基本的な流れと企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて理解する。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
授業への参加態度		30		①授業に積極的にしかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。				課題		70		①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。			
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[15分] ②フードサービスが身近に感じられるデパートなどの食品売場を題材にしてレポート課題に取り組むときは、自分の目で見たり聞いたり調べたりしてください。[30分] ③図書館を利用し、教養を身につけ視野を広げる努力をしてください。[60分]								授業に関する確認問題を行い、次回に返却します。 質問には随時応じます。							
受講生に望むこと		①毎日の生活に活かすことのできる内容ですから、自分の生活に取り入れてください。 ②興味を持ったことを図書館を利用して積極的に調べるなど、知識を広げていく努力をしてください。						教科書・テキスト		『三訂 フードコーディネート論』（社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2012年 ISBN978-4-7679-0440-5					
指定図書／参考書等		なし／なし						その他・特記事項		なし					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名	FS220C 官能評価・鑑別論			開講学科	食米	必修・選択	選択
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
食品評価の方法には理化学的測定（化学的・物理的）によるものと官能評価がある。現代の食環境は多種多様な食品が流通しており、食品を適切に評価するための知識や技能也多岐にわたっている。本授業では、食の専門家として適切な食品選択が出来るように、食品の評価の中でも官能評価、化学的評価、物理的評価を学ぶ。さらに各食品ごとの鑑別法について理解する。				①官能評価の特徴と方法について理解している。 ②食品そのものを評価するための基準や指標がわかる。 ③食生活の様々な場面で、適切な評価の方法をあてはめて考えることができる。 ④消費者の食品選択において適切な助言をするための知識を習得している。			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食品の品質とは：食品の特性と品質について理解する。						
2	官能評価とは：官能評価の意義と問題点について理解する。						
3	官能評価の実施法：官能評価を実施する際の、パネル構成、試験の管理、手法の選択などを理解する。						
4	官能評価の手法（演習）①：2点比較法を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。						
5	官能評価の手法（演習）②：3点比較法を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。						
6	官能評価の手法（演習）③-1：評点法を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。						
7	官能評価の手法（演習）③-2：実験結果から平均値と標準偏差を求め、評点法の解析方法について理解を深める。						
8	官能評価の手法（演習）③-3：分散分析を行い、評点法の解析方法について理解を深める。						
9	化学的評価①：食品の品質としての水分と色を学び、食品成分と品質との関係について理解する。						
10	化学的評価②：食品の糖度及び酸度や魚の鮮度、油脂の変敗度を学び、食品の品質を化学的に評価する方法を理解する。また、近年登場した新しい評価法を学ぶ。						
11	物理的評価①：食品の物理的な状態について理解する。						
12	物理的評価②：食品のレオロジー、テクスチャーについて理解する。						
13	まとめ①：官能評価を総合的に理解する。						
14	まとめ②：化学的評価、物理的評価を総合的に理解する。						
15	個別食品の鑑別法①（米）：米の品質評価について理解する。						
16	個別食品の鑑別法②（麦）：麦類の品質評価について理解する。						
17	個別食品の鑑別法③（トウモロコシ、雑穀、イモ類）：トウモロコシ、雑穀、イモ類の品質評価について理解する。						
18	個別食品の鑑別法④（豆類、種実類）：豆類、種実類の品質評価について理解する。						
19	個別食品の鑑別法⑤（野菜類、キノコ類）：野菜類、キノコ類の品質評価について理解する。						
20	個別食品の鑑別法⑥（果実類、海藻類）：果実類、海藻類の品質評価について理解する。						
21	個別食品の鑑別法⑦（魚介類）：魚介類の品質評価について理解する。						
22	個別食品の鑑別法⑧（肉類、卵とその加工品）：肉類、卵とその加工品の品質評価について理解する。						
23	個別食品の鑑別法⑨（乳と乳製品）：乳と乳製品の品質評価について理解する。						
24	個別食品の鑑別法⑩（油脂類、菓子類）：油脂類、菓子類の品質評価について理解する。						
25	個別食品の鑑別法⑪（酒類、茶類）：酒類、茶類の品質評価について理解する。						
26	個別食品の鑑別法⑫（コーヒー・ココア、清涼飲料）：コーヒー・ココア、清涼飲料の品質評価について理解する。						
27	個別食品の鑑別法⑬（醸造食品、調味料、香辛料）：醸造食品、調味料、香辛料の品質評価について理解する。						
28	個別食品の鑑別法⑭（その他食品）：インスタント食品、機能性食品などの品質評価を理解する。						

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	まとめ③-1個別食品の鑑別について総合的に理解する。				
30	まとめ③-2個別食品の鑑別について総合的に理解する。				
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	60	官能評価、化学的評価、物理的評価、食品の鑑別についての理解度	実験レポート	30	実験の内容を理解しまとめているか
授業参加状況	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守り、積極的に参加しているか			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
予習：教科書を読み、重要語句を整理する。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[30分]			提出されたレポートや課題は確認が終わり次第返却する。課題によっては返却しないものもある。		
受講生に望むこと	日常生活の中で、食品の品質に関心を持ち、授業で学んだことを応用することに挑戦して下さい。		教科書・テキスト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2018年 ISBN：978-4-7679-0506-8	
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要					

授業科目名	FT150C 日本国憲法			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	土屋 仁美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることにより良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。 ※SDGs目標番号1～17関連科目				①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。			
教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。(授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道德の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。)						土屋仁美
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。(日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。)						土屋仁美
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。(前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。)						土屋仁美
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。(基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。)						土屋仁美
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。(個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。)						土屋仁美
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。(医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。)						土屋仁美
7	すぐそばにある差別：法の下での平等、不合理な差別について学びます。(性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下での平等について理解する。)						土屋仁美
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。(第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。)						土屋仁美
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。(日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。)						土屋仁美
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。(信教の自由、政教分離の原則について理解する。)						土屋仁美
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。(表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。)						土屋仁美
12	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。(表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。)						土屋仁美
13	どうする？ 子どもの貧困：生存権について学びます。(社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。)						土屋仁美
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。(教育を受ける権利の内容及「いじめ」について理解する。)						土屋仁美
15	基本的人権をまもるために:統治機構について学びます。(権力分立と立法、行政、司法の役割について理解する。)						土屋仁美
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト／確認テスト	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。			小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8回)。
期末テスト	25	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。 [20分] 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。 [30分]					小テストの答え合わせは次回の講義時に掲載します。		
受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。				教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿－ 憲法の世界へ』第6版,棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著,有斐閣,2019年,ISBN978-4-641-28147-9	
指定図書／参考書等	なし/なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FT200C 学校栄養教育論			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・畑山 千春（代表教員 田中 弘美）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
栄養士と教員の資格を併せもつ栄養教諭の役割と職務について学ぶ。栄養教諭が食に関する授業を行うにあたって必要な理論や知識を学ぶ。それには、学校給食の歴史・変遷や給食を「生きた教材」とするために日本の食文化の理解も必要である。加えて、児童・生徒の発達や健康状態の把握と実態に合わせた効果的な授業の工夫が必要であり、学校組織としての取り組みを考える全体計画、また家庭や地域との連携・調整も必要であることを学ぶ。				①栄養教諭制度および食育基本法など関連法規を学び、栄養教諭の役割が理解できる。 ②栄養教諭の職務内容である「学校給食の管理」と「食に関する指導」が理解できる。 ③「学校給食の管理」では、栄養管理、衛生管理、物品管理が理解できる。 ④「食に関する指導」では各教科や道徳・特別活動、総合的な学習の時間、給食の時間と食に関する指導内容との関わりが理解できる。 ⑤食に関する全体計画作成とその展開を学び、「生きた教材」としての給食の意義が理解できる。			
教授方法	講義及び演習						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養教諭誕生の背景と意義（食に係わる法令、諸制度、国民栄養の現状について）を理解する。						田中
2	児童・生徒の食に関する指導の現状と課題を学ぶ。						田中
3	日本と世界の食文化とその歴史（学校給食の歴史と意義を含む）を学ぶ。						田中
4	学校組織と栄養教諭について理解する。						畑山
5	食に関する指導の全体計画について理解する。						畑山
6	給食の時間における食に関する指導について学び、理解する。						畑山
7	教科における食に関する指導について学び、理解する。						畑山
8	教科における食に関する指導について学び、理解する。						畑山
9	教科における食に関する指導について学び、理解する。						畑山
10	学校・家庭あるいは学校・地域が連携した食に関する指導（アレルギー、肥満傾向等の個別指導の在り方を含む）について学び、理解する。						畑山
11	食に関する指導とその方法 演習①食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）						全員
12	食に関する指導とその方法 演習②食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）						全員
13	食に関する指導とその方法 演習③食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）						全員
14	食に関する指導とその方法 演習④食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）						全員
15	食に関する指導とその方法 演習⑤食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているかを評価する。			演習	30	発表の内容と相互評価への参加態度を評価する。
課題	20	①質的量的に適切であるかを評価する。 ②指定期日までの提出について評価する。			授業参加意欲	20	指導案作成・教材作成への意欲を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[20分] ②集中講義の開講前に指定図書レポートを提出してください。[120分] ③指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[120分]					指導案作成や教材作成のサポートをします。 授業に関する質問には随時応じます。		
受講生に望むこと	1年次に履修した「教育者論」、「教育方法論」を復習し、教育実習生として授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。				教科書・テキスト	「四訂栄養教諭論 理論と実際」 金田雅代編著 建帛社 ISBN978-4-7679-2116-7、「小学校学習指導要領」 文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-4910-3460-7、「中学校学習指導要領」 文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-8278-1579-5	
指定図書参考書等	「学校見聞録 学びの共同体の実践」 佐藤学 小学館 ISBN978-4-0983-3994-7／「食に関する指導の手引」文部科学省／「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～」 文部科学省				その他・特記事項	集中講義（8月中）	
実務経験を活かした授業の概要							
畑山：教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。							

授業科目名	FT111C 教育原理			開講学科	食米	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
授業の前半では、学校の登場について知るとともに、学校とは何かについてヨーロッパと日本の場合において考える。後半では、学習する意味について知るとともに、学校教育制度と教育評価について理解し、よりよい教育について考える。SDGsの観点からは、すべての子どもを学校で教育していこうとする人間形成のシステムが近代公教育であることや、年齢・性別・障害・人種などに関わりなく、すべての子どもは自分になるべき人間に成長する権利をもっていることを学ぶ。 ※SDGs目標番号10関連科目				①学校とは何かについて理解している。 ②学習する意味を理解している。 ③学校教育制度と教育評価について理解している。 ④よりよい教育について考えることができる。 ⑤「子どもの権利条約」について知る。			
教授方法	講義						
履修条件	栄養教諭二種免許状取得を希望する者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	教育の基本的概念①：学校の登場（学校がなぜ生まれ、どのように発展し、近代学校が準備されたかについて知る。）						
2	教育の基本的概念②：学校とは何か（１）（なぜ、すべての子どもが学校に通うことになったのかを考える。）						
3	教育の基本的概念③：学校とは何か（２）日本の近代化と学校教育（日本においては、学校はどのように成立してきたのかを考える。）						
4	よりよく学び、教えるために：学習することの意味（学ぶ喜びを味わうような学習活動を創り上げるためにはどのような工夫が必要なのかを知る。）						
5	教育評価とは何か：学校教育制度と教育評価（教育の現場にふさわしい教育評価の在り方とはどのようなものか知る）						
6	教師の仕事：教師とは何か（教師はどのように養成されるのか、教師の力量をつくり上げていくためにはどのように努力していけばよいのか知る。）						
7	教育への権利と「子どもの権利条約」：よりよい教育を求めて（子どもの権利がどのように自覚されてきたかについて知る。）						
8	授業のふり返りとまとめ：期末レポート作成（テーマと観点をもとにレポートを作成する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	30	第1回～7回の授業の内容をもとに自分なりの視点で考えをまとめている。		課題解決	50	教育原理に関する課題を解決している。	
授業態度	20	対面授業に積極的に臨んでいる。（計2回分）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。〔30分〕 ②授業で配付するワークシートの問いに答えたりミニッツコメントにコメントする。〔30分〕 ③教育の基本概念、歴史、思想など、教育に関インターネット検索して調べる。〔30分以上〕				①毎授業時のミニッツコメントに対してコメントして返却する。 ②課題解決内容について授業時に解説する。 ③第8回の授業で期末レポートを作成して提出する。			
受講生に望むこと	自分で時間をつくってテキストを読んでください。			教科書・テキスト	『やさしい教育原理』（第3版）、田嶋一・中野新之祐・福田須寿美子・狩野浩二著、有斐閣アルマ、2016年第3版発行、ISBN978-4-641-22081-2		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	課題はClassroomに投稿して提出してください。		
実務経験を活かした授業の概要							
教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子取材し、写真やビデオを学生に提示して理解を促したり、討議材料にしたりしている。 教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解を深めている。							

授業科目名	FT160C 特別支援教育			開講学科	食米	必修・選択	選択
担当教員名	上農 肇						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の学習上・生活上の困難さや個々のニーズに対する支援方法について例を挙げて解説する。				①特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒についての学習上・生活上の困難さを理解する。 ②特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒のニーズに対する支援を進める上で必要となる知識・技能を習得する。			
教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の保護者・関係機関との連携について理解する。						
2	特別支援教育の現行制度、特に就学の仕組み・通級による指導について理解する。						
3	発達障害、特に限局性学習障害と注意欠陥・多動性障害のある幼児・児童・生徒に対する支援について理解する。						
4	個別の指導計画と個別の教育支援計画の考え方と運用について理解する。						
5	発達障害、特に自閉スペクトラム症のある幼児・児童・生徒に対する支援について理解する。						
6	インクルーシブ教育システムをめぐる国内の動向と課題について理解する。						
7	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱のある幼児・児童・生徒に対する支援について理解する。						
8	特別な支援を必要とする多様なニーズのある幼児・児童・生徒に対する支援について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートの内容を評価する。			小課題	30	課題の提出と内容について評価する。
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの参加態度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業内で取り上げられたキーワードについてのまとめと整理 [60分]					提出されたレポートは、評価を行い返却する。		
受講生に望むこと	栄養教諭2種に免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心や学習意欲をしっかりとって参加してほしい。				教科書・テキスト	なし(レジュメを配布する)	
指定図書／参考書等	なし／『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために』 柘植雅義他 2010 有斐閣 ISBN978-4-641-22038-6 『特別支援教育総論 インクルーシブ時代の理論と実践』 川合紀宗他 2016 北大路書房 ISBN978-4-7628-2949-9				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							
特別支援教育の課題について、特別支援教育の教員としての経験や 担当した指導事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。							

授業科目名		FT211C 教育相談（生徒指導法を含む）		開講学科		食栄		必修・選択		選択					
担当教員名		上農 肇													
標準履修年次		2年		開講時期		前期		単位		1単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		栄養教諭二種免許状									
授業の概要								授業の到達目標							
生徒指導・教育相談の基本概念、児童生徒の理解と援助、生徒指導の実践理解について例を挙げて解説する。								①生徒指導、教育相談の意義や原理を理解する。 ②生徒指導、教育相談を進める上で必要となる知識・技能習得する。							
教授方法		講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		生徒指導・教育相談の意義と役割、両者の違いについて理解する。													
2		児童期・青年期の心理と児童生徒理解の方法について理解する。													
3		学校における生徒指導体制と教職員の協働のあり方について理解する。													
4		児童生徒の自己肯定感を高める生徒指導のあり方について理解する。													
5		カウンセリングの基礎知識と基本的態度、具体的方法を理解する。													
6		教育相談の進め方と校内支援体制の整備について理解する。													
7		個別の課題（いじめ・不登校・虐待・非行・ネット・性に関する問題等）への対応を理解する。													
8		保護者や関係機関との連携と生徒指導に関する法制度について理解する。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
レポート課題		60		指定したテーマについてのレポートの内容を評価する。				小課題		30		課題の提出と内容について評価する。			
授業参加態度		10		エクササイズやワーク、ディスカッション等への参加態度を評価する。											
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内で取り上げられたキーワードについてのまとめと整理 [60分]							提出されたレポートは、評価を行い返却する。								
受講生に望むこと		栄養教諭2種に免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心や学習意欲をしっかりとって参加してほしい。					教科書・テキスト		なし(レジュメを配布する)						
指定図書参考書等		なし/授業中適宜紹介する。					その他・特記事項		なし						
実務経験を活かした授業の概要															
教育相談(生徒指導を含む)の課題について、教育委員会指導主事・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した相談事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。															

授業科目名	FT230C 栄養教育実習指導			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・茶谷 信一・畑山 千春 (代表教員 田中 弘美)						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、栄養教育実習の円滑な実施ならびに実習成果の確実な定着のために学ぶ科目である。事前学習では実習に臨むに際しての準備や心構え、学校の実務、学習指導案づくり等を学ぶほか、模擬授業により実際の指導を演習する。事後学習では研究授業の振り返り等による課題の明確化を行うとともに、実習報告書の作成・発表などを通して、必要な実践的指導力を確実に定着させる。				①教育実習の意義や目的、心構えなどを理解する。 ②学習指導案作成、教材・教具の作成など、実習に必須の基本的な知識・技術を習得する。 ③教職に対する自己の適性を再認識し、教職への意識を一層高める。			
教授方法	講義、演習、グループワーク、レポート作成						
履修条件	科目「栄養教育実習」を並行履修している者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション、採用と配置 科目の概要、科目の到達目標、学習方法、評価方法等について理解するとともに、栄養教諭の採用状況や採用の方法等を理解する。						全員
2	教育実習の目的・意義 教育実習の目的や意義を深く理解し、必要な準備に積極的に取り組む。						田中・茶谷
3	教育実習の形態 校種別、教科別の教育実習の一般的な形態及び栄養教育実習特有の形態について理解する。						田中・茶谷
4	教育実習の事前準備 教育実習の開始までに必要な準備と事前打合せ、実習校の概要の調べ方等について理解する。						田中・茶谷
5	教育実習のあらまし 校種別・教科別の教育実習及び栄養教育実習の期間や内容等について、それらの概要を理解する。						田中・茶谷
6	研究授業と整理会の進め方 教育実習における研究授業の位置づけや進め方について学ぶとともに、その重要性を理解する。						全員
7	学習指導案の基本 一時間の授業で使用する学習指導案の構成（形式）や記載内容について、必要な事項を確認する。						全員
8	授業研究 現役の栄養教諭による授業DVDの視聴を通して、研究授業準備の重要性を理解する。						全員
9	栄養教育実習の実務 栄養教諭としての教育実習の実務を中心に、その具体的な内容を理解する。						全員
10	食に関する指導の実際① 授業や給食時間中の食育指導で用いる学習指導案づくりの実務を学ぶ。						全員
11	食に関する指導の実際② 給食時間中における食に関する指導案づくりや、アナウンスによる指導の基本を学ぶ。						全員
12	食に関する指導の実際③ 授業や給食指導で用いる教材・教具の作り方や使い方の基本を学ぶ。						全員
13	先輩の実習に学ぶ① 現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。						全員
14	先輩の実習に学ぶ② 現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。						全員
15	給食指導学習指導案づくり① 給食指導における学習指導案を作成する。講義						全員
16	給食指導学習指導案づくり② 給食指導における学習指導案を作成する。演習						全員
17	給食指導模擬授業① 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。講義						全員
18	給食指導模擬授業② 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。演習						全員
19	学習指導案づくり① 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて検討を進める。						全員
20	学習指導案づくり② 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。						全員
21	学習指導案づくり③ 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。						全員
22	模擬授業① 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。						全員
23	模擬授業② 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。						全員
24	模擬授業③ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。						全員
25	模擬授業④ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。						全員
26	実習成果の振り返り① 教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。						全員
27	実習成果の振り返り② 教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。						全員
28	教育実習報告会準備① 成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。						田中・茶谷

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	教育実習報告会準備② 準備した資料に基づいてリハーサル発表を行い、全員が各自の分担を最終確認する。				田中・茶谷
30	教育実習報告会 資料を提供し実習成果を発表し合う。				全員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート及び演習成果	40	課題レポートの期限までの提出と質的・量的な内容、模擬授業での成果と指導案の完成度	実習成果としての報告や発表	40	実習成果としての報告書、研究授業、成果発表の取組状況や発表技能
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋実習準備			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
課題レポートや模擬授業のための準備等は、期限を守ること。[90分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する		
受講生に望むこと	栄養教育実習で最も重要なのは研究授業に対する周到な準備・実施と事後の振り返りである。このため、時間を惜しまず万全の準備を整えて真摯な態度で模擬授業等に臨むことが大切である。		教科書・テキスト	特に指定せず、適宜資料を配布する。	
指定図書／参考書等	なし／教育実習の常識～事例にもとづく必須66項～ 教育実習を考える会編 蒼丘出版 2008 ISBN 978-4-915442-11-7 栄養教諭養成における実習の手引(第二版) 市場ほか 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1444-6 『栄養教諭養成のための栄養教育実習マニュアル』赤松利恵 他著 現代図書 2009 ISBN 978-4-86299-015-0		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	
実務経験を活かした授業の概要					
茶谷：・学級担任時代や管理職時代に栄養教育実習生を受け入れてきた経験を生かし、学校での実習の在り方や授業の在り方、指導案の書き方等を指導している。 ・模擬授業としてロールプレイの手法を用いたり、グループでの課題解決には、SGEやケーススタディを導入したりしている。 畑山：栄養教諭として学校現場で栄養教育実習生を指導してきた経験を活かし、学校での実習の在り方や食指導の方法について指導する。					

授業科目名	FT240C 栄養教育実習			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・茶谷 信一（代表教員 田中 弘美）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、大学で学んだ知識・技術を実地に応用し、体験を通して確実に習得するための科目である。このため、学校現場での児童・生徒への食に関する指導の基本、校務分掌、給食指導など栄養教諭に求められる様々な知識・技術を、実習を通して深化・総合化する。なお、実習は小学校（中学校）における1週間の校外実習（栄養士資格取得）と1週間の栄養教育実習から成る。				①大学で学んだ知識・技術を学校現場で実際に応用できる。 ②実習校での教育活動及び給食管理実務で基本的な知識・技術を定着させる。 ③児童・生徒との直接の触れ合いを通して、教職への意識を一層高める。			
教授方法	栄養教育実習（研究授業、給食指導、授業参観など）、給食管理実習						
履修条件	科目「栄養教育実習指導」の並行履修						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	実習オリエンテーション及び実習校の学校経営 服務等の諸注意並びに実習校の管理・運営方針等について説明を受ける。						全員
2	学校の概要と校務分掌 児童生徒の現状や校務分掌組織等の説明を受け、実習に関わる連絡等が必要な部署を確認する。						全員
3	教育活動の参観・補助① 学級活動や給食の時間（配膳指導や後片付け指導）等での、食に関する指導の参観、補助を行う。						全員
4	教育活動の参観・補助② 朝の会や終わりの会、担任の授業、特別活動、清掃、他学年の授業などの参観、補助を行う。						全員
5	給食管理作業の参観・補助 厨房における調理作業の確認・補助と、各教室への配送までの経路を参観・補助する。						全員
6	学習指導案づくり① 教育実習校での研究授業テーマの決定と、必要な準備や手順について担任・栄養教諭から指導を受ける。						全員
7	学習指導案づくり② 研究授業用指導案の作成を進め、疑問点を相談するなどして担任・栄養教諭から必要な指導を受ける。						全員
8	教材・教具等の作成① 学習指導案に基く板書計画、教材プリント等について、担当教諭に原案を示して必要な指導を受ける。						全員
9	学習指導案づくり③ 研究授業指導原案を完成させて提出するとともに、関係者に回覧し必要な指導を受ける。						全員
10	学習指導案づくり④ 指摘を受けた箇所を改善して学習指導案を完成させ、校長等への配付を兼ねて当日の参観を依頼する。						全員
11	教材・教具等の作成② 当日の授業をイメージして、教材・教具を完成させ、必要数を期限までに確実に準備する。						全員
12	研究授業の準備 準備した学習指導案および教材・教具、教室等の最終確認と、本番をイメージしてのリハーサルを行う。						全員
13	研究授業の実施 学習指導案に基づいて、参観者を前にして児童・生徒を対象とした45(50)分間の授業を実践する。						全員
14	研究授業反省会 授業終了後、関係者に授業所感を発表するとともに、改善点等の指導を受けて指導力の一層の向上を図る。						全員
15	実習記録簿等の整理 研究授業準備等の実習記録、日々の学びや所感等の記録を行い、毎日放課後に担当者の指導を受ける。						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	70	実習校で誠実に勤務し、かつ研究授業をはじめとする実習プログラムに積極的に取組んで実習成果を得るとともに、学校教職員と望ましい人間関係を保つ。			実習記録簿	15	実習記録簿の各項目及びまとめ報告に正確かつ十分な記載があり、指定期日までに提出する。
実習校での研究授業	15	研究授業における成果、研究授業のために作成した学習指導案					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①期間中における翌日の実習のための事前準備 [60～120分] ②実習中及び実習後の提出課題の作成 [30分]					実習校における研究授業を担当教官が参観するとともに、大学へ戻ってからのクラス報告発表では、課題の整理や指導講評を行う。		
受講生に望むこと	誠実な態度で、時間に余裕をもって教育実習に臨むことが重要である。特に研究授業に必要な学習指導案の作成や教材・教具の準備に関しては万全を期す必要がある。また、児童・生徒や実習校の教員に関わる問題については、自分勝手な判断をしないで、必ず教職員の誰かに速やかに連絡・相談して、指示を受けて対処することが必須である。				教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし／食に関する指導の手引き（文部科学省） 健学社 2019 ISBN 978-4-7797-0496-3				その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	FT250C 教職実践演習（栄養教諭）			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・畑山 千春（代表教員 茶谷 信一）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、2年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題に基づくグループディスカッション、模擬授業、プレゼンテーション等の演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る。				①学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。 ②食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができるようになる。			
教授方法	演習（グループディスカッション、模擬授業等）、レポート作成等						
履修条件	1年次からの全教職科目の履修						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 科目の到達目標、評価方法、授業方法を理解する						全員
2	栄養教諭の意義・役割、職務内容 学校における栄養教諭の実務や役割の重要性等について具体的に理解する。						畑山
3	食に関する指導の意義と内容 学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。						畑山
4	食に関する指導の実際① 給食指導（準備、食事、後片付け）の実践的な方法を学ぶ。						畑山
5	食に関する指導の実際② 栄養指導の実践的な方法を学ぶ。						畑山
6	食に関する指導の実際③ ロールプレイング等を通して、児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を育成する。						畑山
7	学級経営のヒント① 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。						茶谷
8	学級経営のヒント② 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める						茶谷
9	特別支援教育 特別な配慮を要する児童への支援について学び、栄養教諭としての関わり方を考える。						茶谷
10	優れた授業から学ぶ① 優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案と対比しながら指導法を学ぶ。						畑山
11	優れた授業から学ぶ② 優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。						畑山
12	給食指導案と評価表の作成① 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。						茶谷
13	給食指導案と評価表の作成② 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。						茶谷
14	給食指導模擬授業 最も自信が持てるテーマによる5分間の模擬指導を行い、意見交換を通じて指導力の一層の向上を図る。						茶谷
15	まとめと振り返り 子供たちを取り巻く現代の食環境について考察し、食にかかわる社会人としての義務と役割について考える。また、学校における栄養教諭の役割と意義について確認する。						茶谷
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
演習成果	40	模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果			レポート	40	課題レポートの提出状況（期限、量、質）
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋演習準備					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
課題レポートや模擬指導準備等は、期限を守ること。[90分]					原則として、提出をうけた課題は、コメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。また、演習や発表等を行った場合は、その場で指導講評を行う。		
受講生に望むこと	授業では演習に対する積極性や粘り強さ、事前準備の良否等を重視する。このため、これまでに学んだ知識・技術を意図的に演習の中に取込むことが大切である。また、これまでの学びや調べたことを基にして、自分流の方法を工夫することによって、知識や技術、指導力の一層の深化・総合化を図る。				教科書・テキスト	なし(必要に応じて資料を準備する)	
指定図書参考書等	なし／『教育実践の理論と方法』長瀬善雄編 教育出版 2017 ISBN 978-4-316-80450-7				その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	
実務経験を活かした授業の概要							
茶谷：・小学校時代の経験から、給食時間の中様々な事例を紹介し、栄養指導や給食指導の在り方を考えさせ、課題について自分なりの答えを導き出させている。 ・グループでの課題解決には、SGEやケーススタディ、ブレインストーミング等の手法を導入している。 畑山：栄養教諭として学校現場で食指導を行ってきた経験から、食指導の在り方を考えさせ、演習から見えてくる課題について自分なりの解決方法を導きだせるようにする。							

授業科目名	CL200C 初歩教と生活			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教的視点から日常生活における生活環境の課題とあり方について学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,3.d,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.3関連科目				生活の意義について理解している。現代社会における生活課題に気づいている。家庭生活の経済の現状を理解している。環境問題と生活の関係について理解している。			
教授方法	講義と一部演習形式で行う。また、一部教室外活動を取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	生活とは何かについて科学的に考える。 目標：生活の定義、生活の意義について理解できている。						
2	家族と家庭と福祉について考える。 目標：家族と家庭の意義と関係について福祉の視点から理解できている。						
3	家庭における現代的課題について家庭や家族を取りまく現状から考える。 目標：現代社会における家庭の抱えている課題について理解している。						
4	自分流のライフスタイルについて考える。 目標：ライフステージと生活課題について理解し、自分のライフスタイルのあり方について述べるができる。						
5	家庭経営と個人の生活について考える。 目標：家庭経営のあり方と現在における個人の生活への影響を理解できている。						
6	環境破壊の根本的原因について考える。 目標：環境問題についてその原因や解決に向けても意見を述べられる。						
7	自然保護とライフスタイルについて考える。 目標：自然はなぜ守るべきものなのかについて、自然の利用の目的や自然保護がもたらす利益から自分の意見を述べられる。						
8	イエスの時代の生活と私たちの生活について考える。 目標：私たちの生活に根ざすキリスト教的生活観について、比較し述べるができる。						
9	『12の贈り物』から人生に必要なものについて考える。 目標：私たちに与えられた豊かな人生を送るために必要なものを述べられる。						
10	『人生の四季 発達と成熟』から人生のあり様について考える。 目標：ライフステージの各時期を充実したものにするために必要な事について述べられる。						
11	ビジネスとしてのブライダルについて考える。 目標：ブライダル産業における“結婚式”の位置づけについて理解している。 結婚式における装飾準備を体験する（ブートニア作成）						
12	ビジネスとしてのブライダルについて考える。（教室外授業） 目標：チャペルウェディングの施設を訪問を通して、ブライダル産業の実態について理解している。						
13	教会における結婚式について考える。 目標：キリスト教的観点から“結婚式”の意味を理解している。						
14	教会における結婚式について考える。（模擬体験授業） 目標：キリスト教的観点からの“結婚式”について、体験を通して理解を深めている。						
15	講義の最終振り返り 目標：キリスト教的価値観から私たちの生活にのあり方について総合的に意見を述べられる。						
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
課題作成	50	授業中に作成した課題で、講義の理解状況を測る。			授業外学習レポート	40	授業外学習での学びの深さ等についてレポートの完成度を通じて見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。[合計1200分] ブライダル産業の現状について事前に調べる。[300分] キリスト教の教会における“結婚式”について模擬結婚式を通して学んだ事や疑問に思ったことについて調べる。[300分]					ミニテストは翌週に返却する。 授業学習レポートも講義終了後に返却する。		
受講生に望むこと	何気なく過ごす、日常生活における、「普通」や「当たり前」がいかに重要で難しいことかを意識して考えてください。				教科書・テキスト	なし／『聖書 聖書協会共同訳』日本聖書協会 2019年	
指定図書／参考書等	なし／・シャーリー・コスタンゾ 著、黒井健 訳『12の贈り物』ポプラ社 2003年 ISBN-13：978-4591079294 ・ポール・トゥルニエ 著、三浦安子 訳『人生の四季 発達と成熟』日本キリスト教出版社 2007年 978-4818406452				その他・特記事項	第12回及び第14回は 教室外活動	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CL210C キリスト教とホスピタリティ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
商業ベースでは「おもてなし」として、顧客満足度を上げるキーワードとしてホスピタリティが使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。これらの違いを学ぶと共に、日常生活或いは福祉にまで視点を範囲を拡げ、現代社会における、ホスピタリティのあり方について学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,3.d,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.4関連科目				ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。						
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。						
3	社会福祉とホスピタリティ 目標：ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。						
4	宗教とホスピタリティ 目標：種々の宗教におけるホスピタリティについてその違いを理解している。						
5	海外のキリスト教社会福祉から考える。 目標：「救済法は他者援助なのか」について自分の意見を述べられる。						
6	海外のキリスト教社会福祉から考える。 目標：本当に他者のことを考えているのは誰なのか自分の意見を述べられる。						
7	日本のキリスト教社会福祉から考える。 目標：歴史から見る日本の福祉のながれについて理解している。						
8	茶道に見るおもてなしの原点。 目標：茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。						
9	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 目標：ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。						
10	ヘレン・ケラーに学ぶ。 目標：ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。						
11	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 目標：マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。						
12	マザー・テレサに学ぶ。 目標：マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。						
13	賀川豊彦に学ぶ。 目標：賀川豊彦の活動から他者への思いやりについて理解している。						
14	渋沢栄一に学ぶ。 目標：渋沢栄一の活動から社会貢献活動について理解している。						
15	映画にみるホスピタリティ 目標：映画を通して、種々のホスピタリティの事例を理解すると共に説明できる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシート	60	授業中に作成したワークシートで講義の理解状況を測る。			レポート	30	主張の明確さ等で完成度を見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔合計18時間〕 授業で取り上げられた人物について調べる。〔4時間〕 授業で取り上げられた映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔8時間〕					レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。		
受講生に望むこと	ビジネスとしてではなく、生活を送る上でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	指定図書／参考図書等は授業の進行に合せて随時提示する				その他・特記事項	・取り上げた人物については講義回前に調べておくこと ・映画に関しては、各自が講義回前に視聴しておくこと	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		CL230C 社会心理学の基礎			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名		上農 肇						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義	
他学科の履修	不可	関連資格	なし					
授業の概要				授業の到達目標				
我々の様々な考え方や行動の多くは社会心理学の広い知見からとらえることができる。この授業では、社会心理学研究の4レベル、自己・対人・集団(組織)・社会(文化)の各レベルでの心理と行動について例を挙げて解説する。				①自己・対人・集団(組織)・社会(文化)の各レベルでの心理と行動について理解する。 ②個人の心理や行動を社会心理学の用語で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を社会心理学の知見を用いて振り返ることができる。				
教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。							
履修条件	なし							
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	社会心理学とは：社会心理学研究の4レベル・研究方法・理論的な背景について理解する。							
2	社会(文化)レベルでの心理・行動：消費行動やメディアにかかわる心理や行動について理解する。							
3	集団(組織)レベルでの心理・行動①：集団(組織)への所属にかかわる心理や行動について理解する。							
4	集団(組織)レベルでの心理・行動②：集団(組織)内での意思決定にかかわる心理や行動について理解する。							
5	集団(組織)レベルでの心理・行動③：集団(組織)内での人間関係にかかわる心理や行動について理解する。							
6	集団(組織)レベルでの心理・行動④：集団間関係、特に集団同士の葛藤にかかわる心理や行動について理解する。							
7	対人レベルでの心理・行動①：公正さにかかわる心理や行動について理解する。							
8	対人レベルでの心理・行動②：援助行動にかかわる心理や行動について理解する。							
9	対人レベルでの心理・行動③：攻撃行動にかかわる心理や行動について理解する。							
10	対人レベルでの心理・行動④：親密化や友情、恋愛にかかわる心理や行動について理解する。							
11	対人レベルでの心理・行動⑤：受容と排斥とにかかわる心理や行動について理解する。							
12	自己レベルでの心理・行動①：社会的認知にかかわる心理や行動について理解する。							
13	自己レベルでの心理・行動②：感情や情動、気分にかかわる心理や行動について理解する。							
14	自己レベルでの心理・行動③：態度や説得にかかわる心理や行動について理解する。							
15	自己レベルでの心理・行動④：自己認識や自尊感情にかかわる心理や行動について理解する。							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。			小課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。	
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの参加態度を評価する。						
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業で使用するレジュメ（資料）はGoogle Classroom等を通じて授業後に配信するので、各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分]					提出された課題・レポートは、評価を行い返却する。提出期限後にGoogle Classroom等を通じて解答を配信する。			
受講生に望むこと	①授業内容と日常生活との接点を見出し、自分自身と社会の関わりについて、興味や関心を広げて欲しい。提出を求めるレポートは期限を守ること。 ②教室内での私語やスマートフォン・タブレットの目的外使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の処置をとることがある。				教科書・テキスト	『眠れなくなるほど面白い 図解社会心理学』 亀田達也 日本文芸社 2020 ISBN978-4-537-21714-8		
指定図書／参考書等	なし／『図説社会心理学入門』 齊藤勇編著 誠信書房 2011 ISBN978-4-414-30179-3 『基礎から学ぶ社会心理学』 脇本竜太郎編著 サイエンス社 2014 ISBN978-7819-1337-7 『史上最強図解 よくわかる社会心理学』 ナツメ社 2013 ISBN978-4-8163-5429-8				その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名	CS201C 専門ゼミⅠ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子・富岡 和久・葦名 理恵・木村 ゆかり・茶谷 丹午・平岩 英治（代表教員 沢田 史子）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
各ゼミで示されるゼミプランにしたがい、ゼミ担当教員の専門分野と関連させながら、各自の問題関心に沿った内容について、共同あるいはグループで学習を進める。専門分野に関する文献を多く読み、理解に努める。その後、ゼミ担当教員の指導のもとに、各自が研究テーマの設定に向けて文献・資料検索、データ収集などを行う。前期の研究テーマ設定に基づき、後期の「専門ゼミⅡ」に繋げ、自分の研究テーマをより深めていく。				①基礎ゼミで身につけた学習および研究方法を土台として、選択したゼミ担当教員のもとで問題関心を具体化する。 ②グループディスカッションにより課題・問題を共有し、考え方の多様性を知る。 ③グループによる協働学習から研究テーマの設定を導く。 ④必要な作業実施に向けた計画（段取り・調整）を行う。			
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミⅡ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「専門ゼミ」概要説明						全員
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）①						全員
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）②						全員
4	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）③						全員
5	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）④						全員
6	研究テーマ検討						全員
7	研究テーマ（仮）提出						全員
8	研究スケジュール及び方法立案						全員
9	資料収集、調査実施、データ確認①						全員
10	資料収集、調査実施、データ確認②						全員
11	資料収集、調査実施、データ確認③						全員
12	レポート作成およびチェック①						全員
13	レポート作成およびチェック②						全員
14	レポート作成およびチェック③						全員
15	ゼミ内発表						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	グループワークやディスカッションへの積極的な参加 調査・研究に対する意欲。			レポート	40	調査・研究結果・中間発表をまとめるに当たり、文献調査を確実にを行い、内容を精査しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前事後の学修は合計で1800分をゼミ教員の指導に従い行う。					原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。		
受講生に望むこと	積極的に参加すること。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CS211C 専門ゼミⅡ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子・富岡 和久・葦名 理恵・木村 ゆかり・茶谷 丹午・平岩 英治（代表教員 沢田 史子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
各自、テーマの掘り下げ、方向付け、文献や資料の収集をしながら、自分で設定したテーマについてゼミ担当教員の指導を受けながら研究を進める。ゼミ担当教員の指導のもとで研究発表についてゼミ生相互の検討や意見交換などを行う。 最後に学科全体でゼミ発表会を行う。				①「専門ゼミⅠ」で決めた研究方法に基づいて、専門分野で設定したテーマに沿ってレポート等をまとめる。 ②最終レポートを提出し、学科全体の発表会で発表する。 ③卒業後に取り組むであろう様々な課題に対する探求姿勢が身につく。			
教授方法	演習						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「専門ゼミⅡ」スケジュール確認						全員
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）①						全員
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）②						全員
4	本テーマ確定						全員
5	資料収集、調査実施、データ確認①						全員
6	資料収集、調査実施、データ確認②						全員
7	資料収集、調査実施、データ確認③						全員
8	資料収集、調査実施、データ確認④						全員
9	レポート作成①						全員
10	レポート作成②						全員
11	レポート作成③						全員
12	レポート作成④						全員
13	レポートを指導教員に提出						全員
14	レポート指導・修正						全員
15	グループ別発表（リハーサル）						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	調査・研究時の積極的参加を重要視する。また、最終プレゼンテーションも含める。			レポート	60	調査・研究結果をまとめるに当たり、文献調査を確実にし、内容を精査して提出すること。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前事後の学修は合計で1800分をゼミ教員の指導に従い行う。					原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。		
受講生に望むこと	積極的に参加すること。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CC220C ビジネス人間関係論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	平岩 英治						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
上司や取引先、同僚や部下など、ビジネスは多くの人と関わることでなりたっています。この授業では、職場をはじめとするビジネスの現場における人間関係を学び、人とのよりよい関係について考察していきます。				授業で学んだ考え方や分析の枠組みを理解し、それらの考え方や分析の枠組みに基づき、組織（企業）の事例などを説明できる力をつけることを目標とします。			
教授方法	講義（但し、適宜ビデオ教材を使用します。）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション： ビジネス社会での人間関係とは						
2	上司の心理						
3	部下の心理						
4	職場の心理（動画視聴）						
5	同僚の心理						
6	ビジネスとEQ（Emotional Quotient（Emotional Intelligence Quotient）, こころの知能指数）（1）						
7	ビジネスとEQ（2）						
8	ビジネスとEQ（3）						
9	上司・同僚・部下の心理（動画視聴）						
10	リーダーシップ						
11	フォロワーシップ						
12	モチベーション						
13	ビジネス人間関係（動画視聴）						
14	職場のストレスとメンタルヘルス						
15	総括（まとめ）と理解度確認						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
理解度確認	60	内容の理解度を評価します。			振り返り	30	振り返り課題提出状況と内容について評価します。
授業参加状況	10	授業態度などを評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習： 授業の最初に前回の振り返りを行いますので、授業の前までに配布資料やノートなどを再確認してください（30分）。 事後学習： 授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（60分）。					授業の最初に前回の振り返りを行います。		
受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。				教科書・テキスト	指定しません。	
指定図書／参考書等	【参考書等】 齊藤勇（2015）『職場の心理学』西東社。 ＊その他の文献は、適宜紹介します。				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CT200C サーチ入門			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
研究レポートやビジネスプレゼンに説得力を持たせるための調査スキルを身に付けることを目的とする。調査の基本概念（調査方法の種類と特徴）、質問紙調査の基礎（調査票作成とサンプリングの方法）と実施方法、インタビュー調査の流れとポイントについて学び、インタビュー調査を実施する。				定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得する。観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。			
教授方法	演習形式を交えた講義						
履修条件	「統計の基礎」を履修していることが望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	科学的方法を学ぶ(第1章) 目標：科学する方法、記述と説明、合意と信用について理解する。						
2	データの種類と尺度(第2章) 目標：データの種類、変数・仮説・尺度及び尺度別アンケート質問について理解する。						
3	調査の基本概念(第3章) 目標：調査の種類と特徴及び最適な調査方法はどれかなどを理解する。						
4	観察調査（１）観察調査の基礎と調査研究計画書の作成(第4章) 目標：観察調査の種類、ミステリーショッパー(店舗観察調査)の流れを理解する。						
5	観察調査（２）観察シート作成(第5章) 目標：観察シート作成のポイントを理解する。 グループのメンバーが観察シートを持ち寄り、調査に使用する1つの観察シートを完成する。						
6	観察調査（３）実地調査活動 目標：ミステリーショッパーの手法に基づき調査ができるようになる。（教室外活動）						
7	観察調査（４）調査結果の整理と報告(第6章) 目標：観察調査の結果の分析ができる。						
8	観察調査（５）発表準備一発表(第6章) 目標：効果的な発表が出来るようになる。						
9	インタビュー調査(第7章) 目標：インタビュー調査の流れとポイントを理解する。						
10	質問紙調査（１）概要①＝質問紙調査の理解と調査研究計画書の作成(第8章) 目標：質問紙調査の流れ、調査企画書の作成、サンプリング、ワーディングを理解する。						
11	質問紙調査（２）質問紙作成(第9章) 目標：質問紙作成の手順を理解し、質問紙を作成できる。						
12	質問紙調査（３）実地調査活動 目標：質問紙調査を用いて、調査を実施できる。（教室外活動）						
13	質問紙調査（４）データ入力(第10章) 目標：目的に応じたデータ作成ができる。						
14	質問紙調査（５）データ分析(第10章・第11章) 目標：データ分析の準備(ラベル入力など)と基礎的な集計ができる。 目標：分析の方法を理解し、考察できるようになる。						
15	質問紙調査（６）発表(第12章) 目標：質問紙調査の結果をまとめられる。 目標：質問紙調査の分析結果を発表できると共に、他の人の発表を共有できる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシート	15	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度			観察調査研究計画書、観察シート、質問紙調査研究計画書及び調査票	20	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度
観察調査プレゼン	25	資料及び発表の完成度			質問紙調査レポート	40	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
ワークシート、各種調査シート、計画書等の作成〔合計1800分〕 観察調査、インタビュー調査および質問紙調査〔合計1800分〕					課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。		
受講生に望むこと	積極的に実地調査に取り組んでください。 また、論理的思考を身につけることを意識してください。				教科書・テキスト	竹田茂生・藤木清著『知的な論文・レポートのためのリサーチ入門』くろしお出版 2013年 ISBN 978-4-87424-598-9	
指定図書／参考書等	なし／学習技術研究会著『知へのステップ第5版』くろしお出版 2019年 ISBN 978-4-87424-789-1				その他・特記事項	第6回・第12回： 教室外活動	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		CT220C 現代社会の基礎知識		開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名		赤羽 由起夫					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立の人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。幅広い内容について講義を行う必要があることから、この授業では様々な各論領域について取り扱う。				①社会学の基礎的な考え方について説明できる。			
				②具体的な社会現象についての基礎的な知識を説明できる。			
				③自らの身の回りの社会現象について社会学的に考えることができる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。						
2	デュルケムの社会学：自殺という現象を取り上げ、それを社会学的に理解する方法を学ぶ。						
3	ヴェーバーの社会学：資本主義の誕生という現象を取り上げ、それを社会学的に理解する方法を学ぶ。						
4	家族と少子化：近代家族の変化と少子化の背景について社会学的に理解する。						
5	学歴の意味：学歴の意味について社会学的に理解する。						
6	犯罪と逸脱：犯罪・逸脱と社会の関係について社会学的に理解する。						
7	国家と移民：国家と移民をめぐる諸問題について社会学的に理解する。						
8	宗教と信仰：宗教・信仰と社会の関係について理解する。						
9	就活と労働：日本の就職活動の特徴やブラック企業の誕生について社会学的に理解する。						
10	自己とアイデンティティ：自己アイデンティティと社会の関係について理解する。						
11	感情：感情について社会学的に理解する方法を学ぶ。						
12	マス・メディアとコミュニケーション：マス・メディアとコミュニケーションの関係について社会学的に理解する。						
13	貧困と格差：貧困と格差について社会学的に理解する。						
14	ジェンダー：ジェンダーについて社会学的に理解する。						
15	まとめ：本授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションシート	30	授業の内容をふまえて自分の考えを記述できるかを評価する。			到達度テスト	70	授業の到達目標の達成度を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①社会に関する情報を普段からニュースなどを通じて入手し、その内容や背景を知るようにする。〔45分〕 ②授業の内容を復習することで社会学の考え方を身につけるとともに、ニュースなどで入手した社会現象の内容や背景について社会学的に考える。〔60分〕					リアクションシートでの質問について毎授業時の最初に解説する。		
受講生に望むこと	この授業を通じて、「個人環境にかんする私的問題」と「社会構造にかんする公的問題」とを関連づけて考えることができる「社会学的想像力」（Wills 1959=1965）を身につけ、身の回りの現象を社会学的に考えられるようになってください。				教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）	
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。				その他・特記事項	・社会学科目「社会学概論B」と合同開講である。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CT210C 小論文作成法			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 丹午						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
日本語での論述の力を訓練する講義である。編入学試験で課される小論文対策を主たる目的とする。小論文やレポートは、実際に書き、修正を繰り返すことで力が付くため、この講義では受講生にさまざまな主題について短いレポートや小論文を書いてもらう。				自らの議論を明快に表現する力を身に付ける。編入学試験で合格する水準の小論文の書き方を身に付ける。			
教授方法	講義に加えて実際に書く機会を多くとる。受講生が書いた文章と一緒に検討して修正してゆく。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	レポート・小論文の書式とレイアウト、文体、符号の使い方						
2	質問に対して答えることを意識する。						
3	「より具体的に書く」ことを心掛ける。						
4	文章を的確に要約して意見を述べる。						
5	意見を述べる際の語尾に注意する。						
6	論述の構成を考える。						
7	論述の下書きの書き方を工夫する。						
8	筆者の意見を読み取り、それに対する自分の意見を作る。						
9	図表を読み取り、意見を述べる。						
10	様々な小論文を読んで、批評、討論（１）						
11	様々な小論文を読んで、批評、討論（２）						
12	制限時間内に小論文を書く（１）						
13	制限時間内に小論文を書く（２）						
14	受講者の小論文に対するフィードバック、討論						
15	受講者の小論文に対するフィードバック、討論、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
小論文	60	毎週の課題として小論文を書いてもらい、講義で話し合ったルールを守って書いているかという点と、論の組み立て方、内容の点で評価する。			授業への取り組み	20	積極的な授業参加の姿勢、発言
最終レポート	20	最終レポートとして、８００字～１０００字程度の小論文を制限時間内に作成する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①事前に配布した資料を読み予習をしておくこと。[30分] ②授業後、毎回復習を行うこと。[30分]					提出されたレポートは添削し、次回以降の授業で返却する。		
受講生に望むこと	普段から自分の関心に従い、またその関心を広げながら、読書することを心掛けてほしい。また、読んだ内容について振り返り、要約する習慣を身に付けてほしい。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CB200C 資格簿記C			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	小嶋 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定2級				
授業の概要				授業の到達目標			
簿記の学習は、商業簿記と工業簿記から成り立っています。資格簿記Cでは、商業簿記において株式会社における会計処理を学び、工業簿記において製造業における会計処理の概要について学びます。 ※SDGs目標番号4関連科目				製造業における記帳体系を学び、工業簿記が商業簿記とどのようにつながりを持っているのかを理解することにより、日本商工会議所簿記検定試験2級受験に向けての基礎知識を身に付けることを目指す。			
教授方法	講義と演習の併用による。						
履修条件	資格簿記Bを履修した者または、高校において簿記を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	簿記一巡の手続きと財務諸表について理解する。						
2	銀行勘定調整表の作成と、それに伴う記帳について理解する。						
3	有価証券の意味と記帳について理解する。						
4	商品売買の記帳方法を学ぶとともに、売上原価の意味と記帳について理解する。						
5	固定資産（有形固定資産、無形固定資産）の意味と記帳について理解する。						
6	引当金、特に貸倒引当金と賞与引当金の意味と記帳について理解する。						
7	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その1）						
8	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その2）						
9	損益計算書と貸借対照表の様式について理解する。						
10	工業簿記の概要について理解する。						
11	工業簿記特有の勘定科目と記帳体系について理解する。						
12	個別原価計算における製品現価の集計方法を理解する。						
13	商企業の財務諸表と比較しつつ、工企業の財務諸表について理解する。						
14	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その1）						
15	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その2）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。			提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[600分]					実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決すること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。		
受講生に望むこと	電卓（スマホ携帯を除く）を必ず携帯すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。				教科書・テキスト	スッキリわかる 日商簿記2級 商業簿記 第15版（スッキリわかるシリーズ） TAC出版 ISBN：978-4300104729 スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 第11版（スッキリわかるシリーズ） TAC出版 ISBN：978-4300104736	
指定図書参考書等	なし／スッキリわかる 日商簿記2級 本試験予想問題集 2022年度版 TAC出版 ISBN：978-4300100059				その他・特記事項	参考図書は毎年改訂されており本年4月に改訂版（2023年度版）がリリース予定ですのでそちらの購入をお勧めします。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CB216C Excelデータ分析			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
実際に利用する機会の多いExcelを用い、データ分析の能力を高める。特に将来利用する可能性が高い販売に関するデータ分析について取り組む。また、社会で活用されているデータ分析について学ぶ。				Excelを用いたデータ分析が行えるようになる。			
教授方法	講義による説明と、その内容に基づいた演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	データ分析とは：私たちの生活に多くのデータベースが使われている。データとは何か。データを分析することで得られるメリットとは何か、事例を挙げてデータ分析について学ぶ。						
2	データベースの事例：社会ではデータをどのような形で集め、どのように扱っているのか、そこから何を導き出しているのか、Webを例に挙げデータ活用の事例について学ぶ。						
3	データ分析：データ分析を行なう理由と、データ分析の方法を学ぶ。						
4	ビジネスデータの収集と加工①：データを効率的に集める方法について学習する。						
5	ビジネスデータの収集と加工②：データ分析で使うExcelの機能について学習する。						
6	ビジネスデータの収集と加工③：データを活用できるよう、整理する方法について学習する。						
7	ビジネスデータの収集と加工④：データをビジュアル化し、特徴を捉える方法について学習する。						
8	販売に関するデータ分析①：Zチャートを用いた分析方法について学ぶ。						
9	販売に関するデータ分析②：Zチャートから、計画と実際を比較する方法について学ぶ。						
10	販売に関するデータ分析③：ABC分析と、パレート図について学ぶ。						
11	企画に関するデータ分析①：販売実績や売上変動を織り込んだデータ分析手法を学ぶ。						
12	企画に関するデータ分析②：回帰分析・重回帰分析を用いたデータ予測手法を学ぶ。						
13	企画に関するデータ分析③：様々な要因を織り込んだ分析手法について学ぶ。						
14	顧客に関するデータ分析：顧客データを元に分析を行なう手法について学ぶ。						
15	データ分析振り返り：Excelデータ分析について振り返り課題を行なう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り課題	40	データ分析に関する振り返り課題の完成度により評価する。			提出課題	50	演習における課題提出物の完成度により評価する。
授業参加態度	10	積極的な授業参加と、授業への貢献度により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
次回行なわれる内容についてテキストを読み確認する。[30分] 授業で学んだ関数や手続きについて復習を行なう。[30分]					授業内に質問を受け付ける。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	インターネットやデータベースに関心を持ち、積極的な取り組みを望む。				教科書・テキスト	『Excelで学ぶ データ分析本格入門』SB Creative 2019年 ISBN978-4-8156-0285-7	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CB211C デザインソフト演習 I			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。演習を通してデザインソフトの操作について学び、学期末には成果課題を完成させる。				Adobe Illustratorの操作技能を習得する。レイヤーの概念について理解し、活用できるようになる。最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。			
教授方法	Illustratorがインストールされたコンピュータを用いる演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：ドロー系ソフト、ペイント系ソフトの違い。Adobe Illustratorの概要説明を行なう。						
2	Illustratorの基本操作学習：Illustratorを扱う上で基本となる操作について学習する。（Lesson01）						
3	基本図形描画（1）：基礎的な図形を描画する。四角・円・多角形などを作成する。（Lesson02）						
4	基本図形描画(2)：基礎的な図形を描画する。図形描画の組み合わせについて学習する。（Lesson03・04）						
5	基本図形描画の振り返り：第4回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。						
6	オブジェクト操作(1)：オブジェクトの基本について学ぶ。（Lesson05）						
7	オブジェクト操作(2)：オブジェクト操作とレイヤーについて学ぶ。（Lesson06）						
8	オブジェクト操作(3)：パスと合成の概念について学ぶ。（Lesson07）						
9	色・線・文字の設定(1)：色を設定しイメージ通りの配色を行なう。（Lesson08）						
10	オブジェクト操作の振り返り：第8回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。						
11	色・線・文字の設定(2)：様々なツールを使い描線を行なう。（Lesson09）						
12	色・線・文字の設定(3)：文字を配置し、レイアウトの変更を行なう。（Lesson10）						
13	色・線・文字の設定の振り返り：第12回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。						
14	成果課題作成：前期に学習した内容を用い、成果課題を作成する。						
15	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
最終成果課題	40	ルーブリックを用い、学習した内容が用いられているかについて評価する。			振り返り成果課題	40	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ルーブリックを用い評価する。
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確にしておく。[60分] ②授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする。[90分]					授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。				教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 改訂3版』技術評論社 2020年 ISBN:978-4-297-11129-8	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	履修希望者が20人を超える場合は、履修制限を行なう。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CB212C デザインソフト演習Ⅱ				開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努							
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習	
他学科の履修	不可	関連資格	なし					
授業の概要				授業の到達目標				
コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。 デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。前期「デザインソフト演習Ⅰ」に続き、演習を通してデザインソフトの操作について学び、学期末には最終作品を完成させる。				Adobe Illustratorの操作技能を習得する。 レイヤーの概念について理解する。 最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。				
教授方法	Illustratorがインストールされたコンピュータを用いる演習。							
履修条件	「デザインソフト演習Ⅰ」の単位を修得済の者に限る。							
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	オブジェクト操作(4)：オブジェクトに対して様々な設定を加える。(Lesson11)							
2	オブジェクト操作(5)：描画モードについて学習する。(Lesson11)							
3	デザイン効果の追加(1)：3D効果、グリッドなどにより、イラストに立体感を加える。(Lesson12)							
4	デザイン効果の追加(2)：メッシュやシンボル機能を学習する。(Lesson12)							
5	表やグラフの描画：効果的な表とグラフを作成する。(Lesson13)							
6	成果課題作成(1)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『印影』『ピクトグラム』							
7	図形の変形：オブジェクトに変形を加える。(Lesson14)							
8	印刷データ作成：完成したイラストを提出するための注意点などについて学ぶ。(Lesson15)							
9	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。							
10	成果課題作成(2)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『カレンダー』							
11	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。							
12	成果課題作成(3)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『案内図』							
13	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。							
14	最終作品作成：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『招待状』							
15	最終作品相互評価：完成した作品を相互評価する。							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
成果課題	20	ルーブリックを用い、学習した内容が用いられているかについて評価する。			振り返り成果課題	20	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ルーブリックを用い評価する。	
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する。			最終作品課題	40	ルーブリックを用い、学習した内容を網羅しているかについて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確にしておく。[60分] ②授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする。[90分]					授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。			
受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。				教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 改訂3版』技術評論社 2020年 ISBN:978-4-297-11129-8		
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名		CB217C プレゼンテーション演習		開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名		池村 努					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
プレゼンテーション資料制作を通じて、「適切なタイミングで、求めている人に、正確な情報を伝える」というプレゼンテーションの基本と、「伝える・説明する・説得する」というプレゼンテーションの要素について学ぶ。 資料作成・発表・振り返りのサイクルを繰り返して、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の技術と、発表における注意点を身につけていく。 プレゼンテーションに用いられる機材のセッティング方法について、発表練習の準備を通じて身につける。 発表について相互評価することにより、他者発表の良い点・悪い点を自分の発表にフィードバックする。				・適切な構成を考え、状況に合ったプレゼンテーションを準備することができるようになる。 ・パワーポイントの様々な機能を目的に合わせて利用することができる。 ・発表するための機材準備を行うことが出来るようになる。 ・聞き手の立場に立った発表ができる。			
教授方法	上手に伝えるためのプレゼンテーションテクニックについて説明し、その内容に基づいた資料作成・発表練習を反復して行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：授業目標と、進め方について説明を行なう。プレゼンテーションの基本：プレゼンテーションに関する要素を復習する。 演習0：プレゼンテーション「私の持っている〇〇を紹介します」						
2	発表資料作成の注意点：発表資料を作成する際の手順と気をつけるべきポイントについて学ぶ。PROS-CONSリストや三段論法について学習する。						
3	成功するプレゼンテーション：聞いてもらえるプレゼンテーションとは何か、人間の感覚について学ぶ。						
4	構成表作成：プレゼンテーションの骨格となる構成表を作成する。プレゼンテーション資料作成の準備を通して、手順について学ぶ。 課題：本を紹介 演習1-1：構成表を作成する						
5	発表テクニック：バーバルチャネル・ノンバーバルチャネル・パラランゲージの役割と重要性について学び、それらを活かす方法について学ぶ。 課題：本を紹介 演習1-2：1対1のプレゼンテーション						
6	プレゼンツール：PowerPointだけでなく、WordやPublisherについて紹介する。 課題：本を紹介 演習1-3：「本を紹介」をテーマとして、1枚チラシを作成する。						
7	1対多のプレゼンテーション：1対1を経験したことで話す内容がある程度暗記され、視聴者に視線を置くことができることを確認する。同時にビデオ撮影を行なう。 課題：本を紹介 演習1-4：1対多による発表と振り返りを行なう。						
8	資料作成とビデオ視聴：与えられた課題に基づき資料を作成する。作成時間中に前回撮影したビデオを視聴し、自分のクセを知る。 課題：1分ニュース 演習2-1：指示書を用いたチームプレゼンテーションに取り組む。自分の意図が伝えられるような指示書を作成する。						
9	指示書作成：自分以外の者に発表を任せるための指示書を作成する。 課題：1分ニュース 演習2-2：他者が読むことを想定して指示書を作成する。作成した内容について相互にリハーサルを行なう。						
10	PCセッティングと指示書を用いたプレゼンテーション：PCのセッティング方法について学習する。他者が作成した指示書に基づき発表する。 課題：1分ニュース、演習2-3：作成されたプレゼンテーションを用いて、チームごとのプレゼンテーションを行なう。指示書を用いたことで、自分の意図した内容を相手に伝えられたかについて確認する。						
11	資料作成：テーマに基づき資料を作成する。 課題：私の住む町、育った街 演習3-1：構成表とプレゼンテーション資料を作る。						
12	1対多のプレゼンテーション：発表を行なう。 課題：私の住む町、育った街 演習3-2：発表と振り返りを行なう。						
13	プレゼンテーションテクニック：表とグラフを用いる際の技術を紹介する。自動プレゼンテーションについて注意点を確認する。 課題：表とグラフを用いたプレゼンテーション 演習4-1：効果的にグラフを用いる方法について、演習を通じて学ぶ。						
14	資料作成：最終のプレゼンテーション資料を作成する。 課題：表とグラフを用いたプレゼンテーション 演習4-2：表やグラフを用いたプレゼンテーション資料制作を行なう。						
15	1対多のプレゼンテーション：最終発表を行なう。 課題：表とグラフを用いたプレゼンテーション 演習4-3：表やグラフを用いたプレゼンテーション発表と振り返りを行なう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション発表	70	発表において、聞き手を意識できているか、独り善がりな発表になっていないかを重視して評価する。			発表資料提出物	20	発表に用いる配布資料がプレゼンテーションとリンクしてわかりやすいものとなっているかを重視して評価する。
授業への取り組み	10	振り返り等において、積極的な取り組みを行っているかによって評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回の指示に従い発表に向けた資料作成、自己リハーサルを行うこと。発表後の振り返りに基づいた発表原稿・資料の改善をおこなうこと。[30分] 発表テーマに合わせ、事前に調査するなどの準備を怠らないこと。[90分]					発表時それぞれの発表にコメントと共に指示をする。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	「伝えたい」という気持ちを持ち、どうしたら上手に伝わるかを考えて参加して欲しい。				教科書・テキスト	特に用いず、プリントを配布する。	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	履修希望者数が15名を上回った場合には、履修制限を行う。	
実務経験を活かした授業の概要							
取引先との折衝などを通じて自ら体験した事例を紹介し、プレゼンテーション資料作成に反映している。							

授業科目名		CB221C マーケティング論		開講学科		コミ	必修・選択	選択
担当教員名		平岩 英治						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義	
他学科の履修	可	関連資格	なし					
授業の概要				授業の到達目標				
この授業では、マーケティングとは何かについて、組織（企業）活動における役割の点から学んでいきます。主に、STP（Segmentation, Targeting, Positioning）やマーケティングの4P（Product, Price, Place, Promotion）について、マネジメントの観点から考察します。また、商学関連の基礎となるものであり、各論の流通やサービスなどにおいて理解を深めることができるよう、総括的に講義を進めます。 ※SDGs目標番号1、2、3、14関連科目				主要なマーケティングの考え方や分析の枠組みを理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。				
教授方法	講義							
履修条件	なし							
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	ガイダンス・マーケティング論の概要： この講義の進め方や評価方法などについて説明し、マーケティング論の全体像について考察していきます。							
2	マーケティングの概念： マーケティングの考え方や体系、マーケティングの4Pの概要などについて考察していきます。							
3	事業機会の選択： 市場需要の創造、開拓、拡大や、成長ベクトル、事業戦略のポートフォリオなどについて考察していきます。							
4	事業領域の選択： 事業領域（ドメイン）、事業の多角化、組織（企業）アイデンティティ、組織（企業）イメージ、組織（企業）戦略とマーケティングなどについて考察していきます。							
5	標的市場の選択： 標的市場の選択における市場細分化の考え方や基本軸、体系、採用の手続きなどについて考察していきます。							
6	競争分析： 組織（企業）を取り巻く競争要因、業界の競争構造や競争戦略の分析、変化する競争構造などについて考察していきます。							
7	製品対応： マーケティングにおける製品、新製品開発、製品ライフサイクル、ブランド・マネジメントなどについて考察していきます。							
8	価格対応： 価格設定の基本的な考え方、新製品や製品ミックス、心理面などを考慮した価格対応、割引による価格対応、需要の弾力性などについて考察していきます。							
9	チャネル対応： チャネルの体系やチャネルの選択、チャネルの管理などについて考察していきます。							
10	プロモーション対応： マーケティングにおけるコミュニケーションとその領域、コミュニケーション・ミックス、広告、セールス・プロモーションなどについて考察していきます。							
11	競争対応、消費者行動： 競争における枠組みと対応、消費者行動における分析方法、新製品の普及過程、準拠集団、新しい消費者行動分析などについて考察していきます。							
12	サービス・マーケティング、関係性マーケティング： サービスそのものや商品などに付随する機能としてのサービスに関するマーケティング、顧客との関係性の構築と維持を目指して展開されるマーケティングについて考察していきます。							
13	ソーシャル・マーケティング、市場データ分析： 社会的な問題の解決や社会的な組織におけるマーケティング、市場におけるデータ分析の基本的な考え方について考察していきます。							
14	事例研究： これまで学んだマーケティングの考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。							
15	総括（まとめ）： この講義の総括（まとめ）を行います。							
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。			小レポート	30	内容の理解度を評価します。	
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。						
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習： 図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習： 授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。					授業内で解説します。			
受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。				教科書・テキスト	指定しません。		
指定図書参考書等	【参考書等】 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2022）『マーケティング戦略〔第6版〕』（有斐閣アルマ）有斐閣、 ※その他の文献は、適宜紹介します。				その他・特記事項	社会科学との合同講義です。		
実務経験を活かした授業の概要								

授業科目名	CB222C 経営戦略			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	平岩 英治						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では、戦略とは何かについて、組織（企業）の目的（目標）を達成するための活動や、その活動を行うための長期的（中長期的）な計画と方向性の観点から学んでいきます。主に、組織（企業）における資源の配分（再配分）や組織（企業）の競争優位性の構築などについて考察します。また、いろいろな視座、視点から分析できるよう、総括的に講義を進めます。				主要な戦略の考え方や分析の枠組みを理解し、戦略的な視点に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。			
※SDGs目標番号1、2、3、14関連科目							
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス・経営戦略の概要： この講義の進め方や評価方法などについて説明し、経営戦略の全体像について考察していきます。						
2	経営環境と基本戦略： 戦略の概要、5つの競争要因や戦略グループなどの経営環境と環境の分析、基本戦略について考察していきます。						
3	製品ライフサイクル： 製品ライフサイクルの導入期、成長期、成熟期、衰退期と、ライフサイクルにおける戦略について考察していきます。						
4	市場地位と戦略： 市場における地位である、リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーと、それらの市場地位における戦略について考察していきます。						
5	資源ベース戦略： 資源ベース戦略における主な考え方である、VRIOとコア・コンピタンスについて考察していきます。						
6	事業システム： 組織（企業）の価値連鎖の仕組みのうち、主要な部分である事業システムについて考察していきます。						
7	事業領域： 組織（企業）戦略における主要な考え方である事業領域（ドメイン）について考察していきます。						
8	成長戦略： 組織（企業）戦略における主要な考え方である成長戦略について考察していきます。						
9	資源展開： 組織（企業）戦略における資源の展開について考察していきます。						
10	戦略の社会的側面： 戦略における社会的な側面について考察していきます。						
11	組織構造： 組織（企業）における様々な形態について、その主なものを考察していきます。						
12	組織文化： 組織（企業）における考え方や行動のベースとなり、経営戦略とも密接に関係している組織文化について考察していきます。						
13	組織（企業）変革： 組織の生存や盛衰に関係する組織（企業）変革について考察していきます。						
14	事例研究： これまで学んだ戦略の考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。						
15	総括（まとめ）： この講義の総括（まとめ）を行います。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。			小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習： 図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習： 授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。					授業内で解説します。		
受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。				教科書・テキスト	指定しません。	
指定図書／参考書等	【参考書等】 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎（2016）『1からの戦略論<第2版>』碩学舎。 ※その他の文献は、適宜紹介します。				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名			CB250C 医学一般			開講学科		コミ	必修・選択		選択		
担当教員名			中谷 壽男										
標準履修年次		2年	開講時期		前期	単位		2単位	授業形態		講義		
他学科の履修		可	関連資格		医療管理秘書士								
授業の概要						授業の到達目標							
医療を理解するには、人の体の構造と機能のある程度理解し記憶していることが重要になります。この構造と機能を理解するときには、病気を例にして講義することが役立つことがありますので、少数の病気にも言及することもあります。将来、皆さんが自分で病気などを調べる時の基礎知識と考えを講義では示したいと思います。						人体の構造と機能の基礎知識を身につける。それをもとに、病気をどのように捉えるかの考え方を身につける。							
教授方法		テキストと配布資料をプロジェクターで映しながら講義する。講義内容に関する小テストを行い、提出してもらい点数化する。											
履修条件		なし											
授 業 計 画													
実施回		授業内容・目標									担当教員		
1		オリエンテーション。テキスト第1章解剖生理の1－5ページの講義。骨名、体表面の区分名、皮膚構造と体全体の総論を講義する。骨名、体表区分名、皮膚構造機能に関しての基礎的な知識を獲得する。											
2		テキスト第1章解剖生理の6－8ページの講義。細胞組織、骨の構造、関節、個々の骨の特徴を講義する。体が細胞、組織から構成されていること、個々の骨の特徴役目などを理解し知識を獲得する。											
3		テキスト第1章解剖生理の8－9ページの講義。筋肉の構造と個々の筋の特徴を講義する。筋の収縮機構、個々の筋の役割などを理解し知識を獲得する。											
4		テキスト第1章解剖生理の10-14ページの講義。循環器系の大循環小循環と心臓と動静脈の講義をする。心臓動静脈などの構造と特徴などを理解し知識を獲得する。											
5		テキスト第1章解剖生理の10-14ページの講義。血液組織間液リンパ血液型の講義をする。血液組織間液リンパ血液型の構成と特徴などを理解し知識を獲得する。											
6		テキスト第1章解剖生理の15-16ページの講義。呼吸器の構造と機能を講義する。気管肺などの構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
7		テキスト第1章解剖生理の17-20ページの講義。消化器系のうち口腔から肛門までの腸管の構造と機能の講義をする。各部位の構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
8		テキスト第1章解剖生理の17-20ページの講義。消化器系のうち唾液腺肝臓膵臓の構造と機能の講義をする。各臓器の構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
9		テキスト第1章解剖生理の21－24ページの講義。泌尿器と内分泌腺の構造と機能の講義をする。各臓器の構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
10		テキスト第1章解剖生理の21－24ページの講義。男性と女性生殖器の構造と機能の講義をする。男女差の構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
11		テキスト第1章解剖生理の25－29ページの講義。神経系の構造と機能の講義をする。脳と脊髄の構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
12		テキスト第1章解剖生理の25－29ページの講義。視覚聴覚味覚などの感覚器の構造と機能の講義をする。それぞれの感覚器の構造と特徴を理解し知識を獲得する。											
13		テキスト第2章薬の基礎知識の講義。薬物の特徴や投薬に関することなどを講義する。薬の基礎的知識を獲得する。											
14		テキスト第3章検査概論の講義。検査とはどのようなものかを講義する。検査に関する基礎的な知識を獲得する。											
15		テキスト第4章医療用語と第5章感染症の講義。医療用語に慣れることと感染症の基礎的な内容を講義する。医療用語と感染症の基礎的知識を獲得する。											
成績評価方法と基準													
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準	
期末試験		80		筆記試験の結果に基づいて評価する				小テスト		20		点数化して評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
テキストは予習しておき、疑問点などがあれば自身で問いを立てておく。講義で自分でその解答を見つける（90分）。分からなければ、講師にその場で質問するか、時間がなければ、質問用紙に書いて講師に渡すか、講師へメールで質問を送る。復習を行う（90分）							試験後は答案用紙を返却し、解答を開示する。提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。						
受講生に望むこと		テキストは最初から最後まで読むこと。人体の色々な部位の構造と機能は関連しあっているため、最初は理解が難しくても、他の部位の内容を読むことで、理解ができることがあるので、諦めないこと。					教科書・テキスト		『医学一般』一般社団法人 医療教育協会 2018年 ISBN:なし				
指定図書参考書等		なし/ぜんぶわかる人体解剖図 坂井健雄, 橋本尚詞（著）成美堂出版 ISBN: 9784415306193					その他・特記事項		なし				
実務経験を活かした授業の概要													

授業科目名	CB251C 医療管理学			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業の目的は、①日本の医療・保健・福祉の現状を理解し、事務管理業務に従事する人材の育成に資する②高齢化社会における医療と介護の仕組みを考える。③医療と社会の接点（医療関連法規、医療保険制度）を理解する④病院組織と経営（患者中心の医療）を理解する⑤IT時代の病院情報管理を理解するという5点です。実際に医療機関で働いている医師・看護師・事務等スタッフの仕事の内容や思いを資料を使いながら紹介し、ワークも取り入れながら医療の現場で求められるホスピタリティを理解できるようにすることを目指します。				①医療・保健・福祉の現場で求められるホスピタリティを体感し、身につける。 ②医療・保健・福祉の仕事に従事するにあたって、必要となる基本的な知識を身につける。 ③「医療管理秘書士」能力試験に合格できる知識を得る。 ④就職活動や社会に出てから求められる基本的な力を身につける。			
教授方法	資料、パワーポイント、DVD等を使った講義とグループワーク等複合的に行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	医療機関倫理と医療職員倫理						
2	医療職員に求められる要件 医療機関の接遇マナー コミュニケーション能力について						
3	コミュニケーション能力について						
4	医療機関組織の説明						
5	医療機関における組織の役割と運営						
6	医療機関事務管理の専門性と必要な基本知識 医療と情報						
7	医事関連法規						
8	医師・医師法 保健師助産師看護師法						
9	薬剤師法 臨床検査技師等に関する法律						
10	理学療法士及び作業療法士法 言語聴覚士法						
11	診療放射線技師法 あん摩マッサージ指圧師等の法律						
12	医療保険の概要及び種類						
13	介護保険制度の基本構成						
14	医療と介護の連携						
15	まとめ 「医療管理秘書士」能力試験の対応						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	医療・保険・福祉の仕事に従事するにあたって必要となる基本的な知識を身につけたか確認する。			学習態度	30	社会人となるための専門講義であるため、時間の厳守と講義・ワーク・ディスカッション時の態度を重視する。
レポート	20	認知症の患者さんに対応する時、どの様な点に注意すべきかまとめる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
医療・福祉で求められるホスピタリティとは、相手の持つ力に寄り添い最大に発揮できるように手助けすることであり、その為にはまず自分の力を見つけ出し最大に発揮できるようにする事。自分を認め、自分を褒め、自分の良い所を見つけることがホスピタリティの基礎となるので、講義の中で深めていく。日常生活の中でも意識し実践していくことが大切である。☆自分の長所を初回授業迄に考え書きだしておく。[30分] ☆授業で配布された資料は、授業終了後に必ず一度読み返す。[30分]					講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。「医療管理秘書士」能力試験に合格できるよう過去の問題を講義の中で説明していく。		
受講生に望むこと	講義では馴染みのない用語や複雑な仕組みの説明が多くなると思うが、講義時間にはワークや体験も入れて、理解を深めていく。社会に出る前に知っておくべき知識や身につけておくべき資質の一部と一緒に共有していきたいと考える。				教科書・テキスト	「メディカル・システム論」一般社団法人 医療教育協会 ※履修人数が確定次第発注します。	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							
医療業務での経験をもとに医療現場の現状と課題について事例紹介を行い、ディスカッションによって学びを深めている。							

授業科目名		CB252C 診療報酬実務		開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名		中村 洋子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要				授業の到達目標			
全国の医療機関には多様なスペシャリストが活躍しています。その中の一員である医療事務者は、医療機関で受付、会計、診療報酬請求などの業務を行います。診療報酬とは診察や治療など診療行為ごとに定められた点数をもとに計算する費用のことです。本講座では医療事務の入門から認定試験の受験資格取得までを、講義と演習で繰り返し学んでいきます。受講後は医療事務や医療秘書への活躍のみならず、医療機関受診時における医療費費用の理解力が身に付きます。				①診療報酬を通して医療の現場を知ることができるようになる。 ②診療報酬に関する業務の仕組みを理解する。 ③診療録（カルテ）を読み取り診療報酬算定の技術を習得する。 ④診療報酬明細書（レセプト）作成技術を習得する。			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	医療事務とは何か。どのような仕事内容があるかを学ぶ。医療機関の種類を理解する。						
2	診療報酬のしくみ。診療報酬点数について学ぶ。診療録（カルテ）診療報酬明細書（レセプト）を理解する。						
3	基本診療料①：初診料、再診料、入院料を理解する。						
4	基本診療料②：初診料、再診料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。						
5	医学管理料：医学管理料の種類と算定法、診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。						
6	在宅医療料：在宅医療料の種類を理解し、主に往診料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。						
7	投薬料①内服薬、屯服薬、外用薬区分の分類、薬剤料算定の実際を学ぶ。						
8	投薬料②投薬料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載演習に取り組む。						
9	注射料①：注射の種類とそれぞれの算定の違いを学ぶ。						
10	注射料②：注射料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載演習に取り組む。						
11	検査料：検体検査、生体検査区分、検査料算定と診療報酬明細書（レセプト）記載演習に取り組む。病理診断料について理解する。						
12	画像診断料：画像診断料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。						
13	その他の診療料：処置料、手術料、リハビリテーション料、放射線治療料、精神科専門療法料等の概要を学ぶ。						
14	総合演習①：カルテ1 算定と診療報酬明細書（レセプト）作成する。						
15	総合演習②：カルテ2 算定と診療報酬明細書（レセプト）作成する。授業のまとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	30	授業内容理解を総合して評価。		授業参加態度	20	授業態度を評価対象とする。	
課題	30	提出物の状況と内容を評価。		小テスト	20	授業の理解度を評価。小テスト範囲は授業内で指定。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回のテキストを事前に読み進めておいて下さい。（20分） ②追加する配布資料の整理と各回授業の復習をして下さい（30分）				提出課題及び小テストは次回の授業時に添削して返却し解説をします。			
受講生に望むこと	講義では日常で馴染みのない医療用語や医療事務ならではの算定などを取り入れ、講義と演習を繰り返しながら実務を身に付けます。質問にはその都度対応します。積極的に参加して下さい。			教科書・テキスト	「医科診療報酬点数表」「診療報酬請求の実務・診療報酬演習」一般社団法人 医療教育協会		
指定図書／参考書等	なし/なし			その他・特記事項	各回、電卓持参（携帯電話の電卓機能使用禁止）		
実務経験を活かした授業の概要							
実務に沿い、具体的な診療報酬実務の注意点などについて講義し、演習形式でカルテの読解、算定、レセプト作成をさせている。							

授業科目名	CE243C 観光英語			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	草名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
政府は訪日外国人観光客数を2030年には6000万人を目標としている。インバウンドという言葉も普通に使われるようになった現在、金沢を訪れる外国人観光客も増加している。本講義では観光において使用される英語を活用し、金沢市内でのガイド業務体験を通して、より実践的にその知識とコミュニケーション力を身につけることを目的とする。				・金沢の主な観光地について英語で説明できる。 ・英語を使用し、コミュニケーションを取ることが出来る ・観光プランの提案と作成が出来る。 ・ガイディング(案内)の基礎を理解し、実行できる。			
教授方法	講義、演習、フィールドワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、フィールドワーク、評価の説明						
2	ガイディング基礎：ガイドとしてのマナー、道案内、金沢観光の基礎を理解する						
3	英語で伝える金沢①： シンプルな英語を使用し、的確に伝えるための表現を学ぶ						
4	英語で伝える金沢②： 金沢城と兼六園について英語で伝えるためのテキスト作成						
5	英語で伝える金沢③： 近江町市場について英語で伝えるためのテキスト作成						
6	英語で伝える金沢④： 3つの茶屋街～ひがし～主計～にし、について英語で伝えるためのテキスト作成						
7	英語で伝える金沢⑤： 21世紀美術館、他について英語で伝えるためのテキスト作成						
8	英語で伝える金沢⑥： 金沢の食について英語で伝えるためのテキスト作成						
9	英語で伝える金沢⑦：金沢の文化について英語で伝えるためのテキスト作成						
10	フィールドワーク①通訳案内士に学ぶ ひがし茶屋街と兼六園ガイド演習 レポート作成と提出						
11	フィールドワーク②通訳案内士に学ぶ ひがし茶屋街と兼六園ガイド演習 レポート作成と提出						
12	観光プラン作成① 「私のお勧めする金沢」モデルコース作成（グループワーク）						
13	観光プラン作成② 「私のお勧めする金沢」モデルコースを歩く（グループでのフィールドワーク）						
14	観光プラン作成③ 「私のお勧めする金沢」プレゼンスライド作成						
15	観光プラン「私のお勧めする金沢」プレゼンテーション						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	30	作成した観光プランを現地でガイドする。ガイド力を総合的に評価する。(動画提出の場合あり)			フィールドワーク	30	通訳案内士からガイド業務を学び、レポートを作成する。その内容を評価する。
テキスト作成	30	各項目ごとにガイドテキストを作成する(提出物となる)。その内容を評価する。			授業参加態度	10	学習態度、授業、各種ワークへの積極性や貢献度を評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
金沢について英語で伝えることができるようになるためには金沢について基礎知識が必要となる。事前に金沢の観光関連知識を予習すること〔30分〕授業後はそれらについて英語で伝えられるよう繰り返し練習すること〔60分〕					各自作成テキストについては原則、提出翌週に添削したものを返却する。各自作成したテキスト以外の提出物は希望があれば返却する。		
受講生に望むこと	学外での活動(ガイド演習など)を予定しているので、実践経験型授業に積極的に参加する姿勢を望む。				教科書・テキスト	適宜、プリントなどを配布する。	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	フィールドワークは土・日祝などになる可能性有り。市内施設入場料がかかる場合は各自負担となる。授業にはノートパソコン持参を推奨する。	
実務経験を活かした授業の概要							
着地型観光ガイドとしてインバウンド対応した経験から現場で通じる英会話表現例を紹介している							

授業科目名	CE232C 接客英語			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	草名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
コロナ禍から行動制限が解除され始め、訪日外国人観光客の姿も少しずつ戻ってきた今、日本人のおもてなし力が再び試されている。「日本で困ること」の上位に「日本人とコミュニケーションが取れない」が度々挙げられている。本講義ではサービス業・接客・飲食店などの場面を通して自国の文化への関心を深め、外国人の視点から日本文化をあらためて見つめる。また実践的な英会話力を身につけ、ホスピタリティマインドをもって外国人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことを目的とする。				・観光業関連に関わる重要な語彙を英語で表現できる。 ・指定されたトピックについて知識を深め、それらについて英語で説明できる。 ・外国人観光客が日本滞在中に必要な知識・情報についてホスピタリティマインドを持って英語で説明できる。			
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の説明、Unit 1 Ramen, 「ラーメンは代表的な和食である」外国人視点から日本食を理解する。						
2	Unit 2 Animal Café, 日本から発信されるカフェカルチャーを理解する。						
3	Unit 4 Convenience Store, 日本のコンビニはなぜ外国人から高評価なのかを理解する。						
4	Unit 5 Japanese Fast Food Gyudon, 日本のファストフードについて説明出来るようになる。						
5	Unit 6 Japanese Spa, 日本の銭湯文化について説明出来るようになる。						
6	Unit 7 Flour Dishes, 地域の食文化について説明出来るようになる。						
7	Unit 8 Karaoke, カラオケの楽しみ方を説明出来るようになる。						
8	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurants, 日本の居酒屋について説明出来るようになる。						
9	Unit 11 Kawaii culture, 日本の「カワイイ」文化について説明出来るようになる。						
10	Unit 12 Soba, 日本のそば、日本人のそば好きについて説明出来るようになる。						
11	Unit 13 Bento, 日本と世界のお弁当の違いや世界のランチ事情を理解する。						
12	Unit 14 Shrine, 日本人と外国人の宗教観の違いを理解し、神社の参拝マナーを説明できる。						
13	Unit 15 Onsen, 日本の温泉、日本人の温泉好きについて説明できる。						
14	Explanation of the Final Task ①最終課題説明と作成						
15	最終課題発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のすべての会話の30%以上を英語で行うことを評価する。			最終課題	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、プレゼンテーションを行い、提出することとその内容を評価する。
ロールプレイング	30	コミュニケーションを取るための創意工夫や努力を評価する。			提出物	10	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
予習として各章におけるReading and Listeningを各自CDでリスニングし、単語の意味を調べておくこと。[20分] 学んだ内容を説明できるよう自分で話せる英語表現に置き換える復習が必要である[30～60分]					教科書問題に関するフィードバックは授業内にて行う。		
受講生に望むこと	授業内に英語でのコミュニケーションを積極的に取る姿勢で参加することを望む。また予習が重要であるため、自律して学習を進めることと授業時には積極的な参加態度を望む。				教科書・テキスト	「Glance of Japan 日本文化とおもてなし英語」 坂部俊行/岡島徳昭/Howard Tarnoff 著 南雲堂 2020年 ISBN:978-4-523-17898-9	
指定図書／参考書等	「1,2,3ツーリズム法則の接客英語」ルース・マリー・ジャーマン 著 Jリサーチ出版 2020年 ISBN:978-4-86392-469-7／なし				その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。	
実務経験を活かした授業の概要							
ツアーコンダクターまたインバウンド対応ガイドの経験から現場での応用力の高い英語表現例などを紹介している。							

授業科目名	CE231C ホテルサービス論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	草名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
北陸新幹線の開通以降、金沢市には259施設12000室以上のホテル客室が稼働している。これらホテルは多様な顧客に対応しており、個性にあふれている。老舗と呼ばれるシティホテルから最新型の宿泊特化型ホテルやゲストハウス、またサブスクリプションでの利用など、顧客に提供している様々なサービスから今後のホテルサービスの在り方を考える。				ホテル、旅館、ゲストハウスなどそれぞれの宿泊施設の特徴について述べる事が出来る。 ホテル業に携わる人材に求められるホスピタリティについて理解する。またそれを現場で実践するための思考を身につける。			
教授方法	講義、施設見学など						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、施設見学、評価の説明、ホテルについての基礎知識①ホテルの種類などについて理解する						
2	ホテルについての基礎知識②：宿泊施設の変遷と多様化について学ぶ						
3	シティホテルについて学ぶ 施設見学①						
4	シティホテルについて学ぶ 施設見学②						
5	シティホテルの在り方について 施設見学の振り返りとまとめ						
6	現代の旅館について学ぶ 施設見学③						
7	現代の旅館について学ぶ 施設見学④						
8	現代の旅館の在り方について 振り返りとまとめ						
9	ゲストハウスについて学ぶ 施設見学⑤						
10	ゲストハウスについて学ぶ 施設見学⑥						
11	ゲストハウスの在り方について 振り返りとまとめ						
12	ホテルに求められるホスピタリティ、サービスの変化について理解する						
13	今後求められるホテルの在り方について考える						
14	最終課題作成のためのグループワーク						
15	最終課題発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	授業内容の理解度とレポート内容について評価する。			最終課題提出	40	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
授業参加態度	30	学習態度、授業、グループワークへの積極性や貢献度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
ホテル業界には専門用語が多くあるので、正しく理解するためにも、基礎知識については復習が必要。〔30分〕 授業前には各種ホテルなどについての予習が望ましい。〔30分〕					小レポートについては提出後、授業内にて振り返りを行う。		
受講生に望むこと	基礎知識では情報量が多いので、講義内容をしっかり復習するように望む。 マナーに厳しい業界について学ぶ授業でもあるので受講態度についてもマナーを求める。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	「ホテル概論」株式会社ITB総合研究所 「初心者やさしい 旅館ホテル・観光の教科書」大谷晃 鈴木はるみ 編著 株式会社クロス出版 2020年 ISBN978-4-434-27375-9 ／「ホスピタリティのプロを目指すあなたへ お客様の“気持ち”を読み解く仕事 コンシエージュ」 安部 佳 著 株式会社 秀和システム 2015年 ISBN978-4-7980-4433-0				その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。	
実務経験を活かした授業の概要							
ツアーコンダクターの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。							

授業科目名	CE241C 地域と観光（概論）			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。金沢の観光の現状と課題を知り課題解決のため、金沢市内でフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する（「地域と観光（フィールドワーク）」との連動）。そして、金沢観光プランを作成し、プレゼンテーションを行う。				①金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。 ②地域資源を活用した金沢観光プランの企画ができる。 ③スライドで発表資料を作成し、観光プランのプレゼンテーションができる。			
教授方法	講義、演習						
履修条件	「地域と観光（フィールドワーク）」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方・成績評価の説明。観光と地域社会の関係について考える。						
2	金沢の観光：金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。						
3	観光プラン①：観光プランのコンセプト・ターゲットを決定する。						
4	観光プラン②：フィールドワーク結果を参考に、コンセプト・ターゲットにマッチした観光プランを作成する。						
5	観光プラン③：観光プランのスライド作成、発表練習を行う。						
6	観光プラン④：観光プランの中間プレゼンテーションを行う。						
7	観光プラン⑤：観光プランの中間プレゼンテーションを行う。						
8	観光プラン⑥：中間プレゼンテーションの振り返りを行う。						
9	観光プラン⑦：中間プレゼンテーションの振り返りを基に、フィールドワークプランを作成する。						
10	観光プラン⑧：フィールドワーク結果を参考に、観光プランを修正する。						
11	観光プラン⑨：観光プランのスライド修正、発表練習を行う。						
12	観光プラン⑩：観光プランの最終プレゼンテーションを行う。						
13	観光プラン⑪：観光プランの最終プレゼンテーションを行う。						
14	観光チラシ①：作成した観光プランのチラシ作成を行う。						
15	観光チラシ②：作成した観光プランのチラシ作成・提出を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。			観光プランのプレゼン（中間）	20	観光プランが魅力的であるか、独自性があるか、実現が可能であるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。
観光プランのプレゼン（最終）	30	中間発表で指摘された点を踏まえ、修正した観光プランが魅力的であるか、独自性があるか、実現が可能であるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。			期末レポート（観光ツアーチラシ）	20	観光ツアーの魅力や内容がわかりやすく、チラシに記載されているか。参加意欲を高めるデザインや内容になっているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
魅力的で独創的な観光プラン作成を目指して、以下について行う。 ・日頃から積極的に金沢の街歩きを行い、観光資源となりそうなものをリストアップしておく。 [15分] ・友人や家族などに、金沢の魅力的な場所・物・人物など観光資源となりそうなものについて聞き取り調査する。 [60分] ・地域資源を活用した観光プラン例について、インターネットなどで調べておく。 [60分以上]					観光プラン（中間・最終）の発表に対し、一人ひとりその場でコメントする。		
受講生に望むこと	コンセプト・ターゲットにマッチした観光とは何かを考え、これまでにない独創的な金沢の観光プランの提案を期待しています。				教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。	
指定図書／参考書等	なし／『旅行企画のつくりかた』 小林天心 著 虹人社 2011年 ISBN978-4770900548				その他・特記事項	この授業はほぼ毎回chromebook（各自のノートPC可）を持参する必要がある。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE242C 地域と観光（フィールドワーク）			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。金沢の観光の現状と課題を知り課題解決のため、金沢市内でフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する（「地域と観光（概論）」との連動）。				①フィールドワークに参加し、金沢の地域資源を理解する。 ②インターネットなどを利用して対象となる資源を決定し、フィールドワークプランの作成ができる。 ③現地で対象資源について現状把握や聞き取りができる。			
教授方法	講義、フィールドワーク						
履修条件	「地域と観光（概論）」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	金沢市の観光の現状と課題を説明し、学生へ授業課題の提示を行う。						
2	フィールドワークA①：金沢市内で地域資源調査を行う。						
3	フィールドワークA②：金沢市内で地域資源調査を行う。						
4	フィールドワークA③：フィールドワークの振り返りを行う。						
5	フィールドワークBのプラン作成①：フィールドワークプランを作成する。						
6	フィールドワークBのプラン作成②：フィールドワークプランを作成・提出する。						
7	フィールドワークBのプラン作成③：フィールドワークプランを修正する。						
8	フィールドワークB①：作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
9	フィールドワークB②：作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
10	フィールドワークCのプラン作成①：フィールドワークプランを作成する。						
11	フィールドワークCのプラン作成②：フィールドワークプランを作成・提出する。						
12	フィールドワークC①：作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
13	フィールドワークC②：作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
14	フィールドワークD①：中間発表後に追加作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
15	フィールドワークD②：中間発表後に追加作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。			フィールドワークの企画	30	対象となる地域資源について、決められた時間内で効率の良い調査が可能であったか。
フィールドワークの実施	40	現地で対象となる地域資源について、現状把握や聞き取りができたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①フィールドワーク実施後に、現地でのメモを用いてレポート作成を行う。〔50分〕 ②各自がフィールドワークプランを3つ作成し、それぞれ実施する。実施までに、現地でチェックすべき点、聞き取りポイントをまとめておく。〔50分〕					①フィールドワークのレポートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②フィールドワークの企画案は、実施前にチェックし修正点を伝える。		
受講生に望むこと	15回中8回が現地調査である。体調を整え、歩きやすい靴で参加すること。				教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。	
指定図書／参考書等	なし／『金沢・町物語』 高室信一 著 屋敷道明 補筆 能登印刷出版部 2013年 ISBN978-4890106196 『金沢、まちの記憶 五感の記憶』 小林忠雄 著 能登印刷出版部 2009年 ISBN978-4890104970				その他・特記事項	入場料などが必要な場合は、各自負担となる。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE251C 医療事務英語			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
医療事務スタッフに必要な基礎英会話や使用頻度の高い医療用語と、それらを使用し外国人患者の不安を取り除くために必要な英語力を講義と演習で学ぶ。 アクティビティやロールプレイによって積極的なコミュニケーション活動に取り組みながら、スピーキング、リスニング、ライティングのスキルを向上させる。				医療現場で必要となる専門用語などの幅広い語彙を習得する。 医療用語を用いた基本的表現を理解し、使用できるようになる。			
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明）						
2	Unit 1 Asking Basic Questions（「be動詞」や「一般動詞」のYes/No疑問文、疑問詞を使った疑問文を使って、自分についての基本的な情報を述べることができ、相手の情報を尋ねることができる）						
3	Unit 2 A Patient's First Visit（初めて病院を訪れた患者とのやり取りをさまざまな疑問文を用いて学ぶ）						
4	Unit 3 Where's Internal Medicine?（院内案内の表現を命令形を用いて学ぶ）						
5	Unit 4 Admission to the Hospital（入院する際の注意事項を前置詞や動詞を用いて学ぶ）						
6	Unit 5 Giving Information（入院時の持ち物など必要情報の伝え方を可算名詞と不可算名詞を用いて学ぶ）						
7	Unit 6 Symptoms（様々な症状の表現を形容詞を用いて学ぶ）						
8	Review Units 1-6（復習テスト）						
9	Unit 7 Injuries and Emergencies（ケガと緊急時に必要な表現を過去形を用いて学ぶ）						
10	Unit 8 How Are you Feeling?（入院患者との日常的なやり取りに必要な表現を現在形を用いて学ぶ）						
11	Unit 9 A Patient's Medical History（患者の病歴について尋ねる際の表現を過去形を用いて学ぶ）						
12	Unit 10 Medicine（薬の種類と服用する際の表現などを副詞を用いて学ぶ）						
13	Unit 11 I'm Going to Give You an IV（入院患者とのやり取りに必要な表現を未来形を用いて学ぶ）						
14	Unit 12 Congratulations! you're Having a Baby Girl（出産の場面に使用する表現を現在進行形を用いて学ぶ）						
15	Review Units 7-12（復習テスト）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業や演習へ積極的に参加しているか			復習テスト	30	各単元の復習テストで学習した内容の理解度を評価する
課題	30	提出期限までに正しく提出されているか					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①予習は授業ごとに指示する[30分] ②復習は授業ごとに指示する[30分]					①提出課題は次回の授業時に添削して返却する。 ②疑問・質問は随時受付および回答する。		
受講生に望むこと	医療用語が多く、単語の予習は必須であることと、現場でのコミュニケーション力を身に付けることに注力した授業となるので、積極的な授業参加を望む。				教科書・テキスト	『Speaking of Nursing 看護系学生のための英語コミュニケーション』Peter Vincent/Alan Meadows（著）南雲堂 2017年 ISBN: 9784523178507	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE211C Academic Writing			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 丹午						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
さまざまなトピックについて自らの意見を英文で書く。またエッセイを読み、その内容を要約しながら表現を身に付ける。議論の構成を学ぶとともに、論述的な文章に特有の語彙や表現を習得する。				英語のパラグラフの構成を知り、自ら実践できるようにする。さまざまなトピックについて意見を明快に伝える英文を書く力を身に付ける。			
教授方法	英文を書く際に注意すべきさまざまな問題に着目して講義を行う。また、受講者に英作文の課題を提出してもらい、添削をして返却する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション、学術的な英文についての説明						
2	パラグラフの構成						
3	人物を紹介する /接統詞、副詞などの繋ぎ言葉						
4	人物を紹介する②/形容詞と副詞						
5	職業について説明する /不定詞と動名詞						
6	職業について説明する②/名詞節、形容詞節、副詞節						
7	日常生活に関して意見を述べる /意見を述べる時の動詞						
8	意日常生活に関して意見を述べる②/具体例を提示する表現						
9	エッセイを要約する /表現の言い換え						
10	エッセイを要約する②/引用の仕方						
11	要約した英文に対する同意と反論 /意見を詳細に説明するための表現						
12	要約した英文に対する同意と反論②/メリット・デメリットの表現						
13	1つのトピックについてのエッセイを書く						
14	1つのトピックについてのエッセイを書く						
15	全体の振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業内課題	50	1. 議論が正しく構成されているか 2. 授業で説明した文法事項を実践できているか			授業参加態度	20	毎回の授業に積極的に参加しているか
期末レポート	30	学習した語彙や表現、議論の構成等を理解し、運用できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業前、事前に配布した資料を読み、英作文の課題の答案を作成しておくこと。 [60分] ②授業後、毎回復習を行うこと。[30分]					随時行う。		
受講生に望むこと	①辞書や文法書を丁寧に調べて書くこと ②授業には辞書を持参すること				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		CE212C English Presentation		開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名		茶谷 丹午					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本科目では、英語の4技能である「読む、書く、聞く、話す」を磨くだけでなく、自分の考えを英語でまとめながら、効果的で印象的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。				・英語プレゼンテーションの基礎知識、準備の仕方、実行の方法を習得することができる。 ・テーマや目的によって必要な英語とプレゼンテーションのスキルを高めることができる。 ・「リサーチ力」「パワーポイントの使い方」「スライドの作り方」などのスキルを習得できる。			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション、授業の内容、進め方、評価基準について/英語プレゼンテーションの基礎を学ぶ						
2	自己紹介をする（１）/リンクング、アシミレーション						
3	自己紹介をする（２）/エリジョン、ウィークニング						
4	絵本を朗読する（１）/イントネーション（１）						
5	絵本を朗読する（２）/イントネーション（２）						
6	自分の趣味を紹介する（１）						
7	自分の趣味を紹介する（２）						
8	会話劇を朗読する（１）						
9	会話劇を朗読する（２）						
10	観光地やおすすめの場所を紹介する（１）						
11	観光地やおすすめの場所を紹介する（２）						
12	日本の社会問題について意見を述べる（１）						
13	日本の社会問題について意見を述べる（２）						
14	自ら選んだテーマで発表する（１）						
15	自ら選んだテーマで発表する（２）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業やグループワークに積極的に参加している。			プレゼンテーション	50	学んだことを生かして効果的で印象的なプレゼンテーションを行っている。
課題	20	課題を正しく理解し、期日までに提出できている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業前、発表用資料や原稿の作成、発表練習等を行うこと。[60分] ②授業後、毎回復習を行うこと。[30分]					課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE244C インバウンド・ツーリズム入門			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	草名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
世界と日本の観光地を比較し、日本の観光資源を知る。訪日外国人からみたデスティネーションとしての日本の魅力を理解する。同時に日本国内の観光地のあり方についても理解を深める。また観光によって引き起こされる様々な問題の現状や解決方法について理解すると同時に、今後のインバウンド観光の方向性を考える。				・世界の人気観光国と地域について理解する。 ・日本の観光特性について説明できる。 ・北陸地域の観光の特徴を説明できる。 ・アフターコロナの観光のあり方を考える。			
教授方法	講義、プレゼンテーション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、諸注意、インバウンドの基礎知識を理解する						
2	世界の有名観光地について①基礎データ・観光地について学ぶ						
3	世界の有名観光地について②魅力と問題を理解する						
4	インバウンド視点を知る：外国人から見た日本の魅力と問題点を理解する						
5	日本の観光地と基本情報、現状について学ぶ						
6	世界から見る日本の魅力①日本には何がある？ 有名観光地、ゴールデンルートについて理解する						
7	世界から見る日本の魅力②日本には何がある？ 地方における観光～着地型観光について理解する						
8	世界から見る日本の魅力③金沢には何がある？ 金沢の観光コンテンツについて知る						
9	世界から見る日本の魅力④金沢には何がある？ 金沢の観光コンテンツの魅力と課題を整理する						
10	世界から見る日本の魅力⑤北陸・能登には何がある？ 能登の観光コンテンツについて知る						
11	世界から見る日本の魅力⑥北陸・能登には何がある？ 能登の観光コンテンツの魅力と課題を整理する						
12	世界から見る日本の魅力⑦-1インバウンドツーリズムが地域に与える影響について考える～持続可能な地域作りと観光～						
13	世界から見る日本の魅力⑦-2インバウンドツーリズムが地域に与える影響について考える～持続可能な地域作りと観光～						
14	最終課題：インバウンドツーリズムについて ワーク						
15	最終課題：インバウンドツーリズムについて プレゼンテーション						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	小レポート、提出物の内容を評価する			最終課題	30	最終課題のプレゼンテーションについて内容、態度を評価する。提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
授業参加態度	40	授業・グループワークでの発言・質問等、積極的参加姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
観光関係のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を仕入れるようにすること。〔30分〕					小レポートやプレゼンテーションについては授業中、または次回の授業でフィードバックを行う。提出物については希望者にコメントと共に返却する。		
受講生に望むこと	小レポート作成とそのプレゼンテーションと共有のための自学、グループワークが評価の約半分を占めるため、自律して学習を進めることと、積極的な授業参加態度を望む。				教科書・テキスト	「新・観光立国論」デービッド・アトキンソン 著 東洋経済新報社 2019年 ISBN：978-4-492-50275-4	
指定図書／参考書等	なし／「観光立国革命 インバウンド3.0の衝撃」中村好明 著 カナリアコミュニケーションズ 2015年 ISBN：978-4-7782-0317-7				その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します	
実務経験を活かした授業の概要							
着地型観光商品の造成、営業販売、ガイドの経験から総合的に地域にとってのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。							

授業科目名	CE207C 英語特別クラスIII			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
TED Talks のコンテンツを使い、コミュニケーションを重視しながら4 技能を高める。図やグラフでの補助情報やインタビューを使った演習を進めていくことで、TED Talksの内容理解を深め、自信をもって力強く流暢に英語を使うスキルを習得する。				・ 4 技能を高め、TED Talksならではのプレゼンテーションを模範に演習を積み上げることで、英語でのプレゼンテーションスキルを身に付けることができる。 ・ 4C — Communication, Collaboration, Creativity, Critical Thinkingを養い、英語の運用能力を向上させることができる。			
教授方法	演習（発表、グループ・ワーク、ディスカッション）を中心に行う。						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	Class Orientation: 授業の進め方、成績評価の説明、診断テスト						
2	Unit 1 Passions: Talking about likes and interests (Simple present)						
3	Unit 1 Passions: Introducing yourself & Writing an email to introduce you						
4	Unit 2 Spending Habits: Talking about habits and routines (Simple present with adverbs of frequency)						
5	Unit 2 Spending Habits: Using effective body language & Writing a social media post						
6	Unit 3: Career Paths: Asking about and describing jobs (like vs. would like)						
7	Unit 3: Career Paths: Thanking the audience & Writing about a dream job						
8	Presentation 1: Introducing someone you know						
9	Unit 4: Talents: Describing abilities and talents (can/can't)						
10	Unit 4: Talents: Introducing a topic & Writing about someone with an unusual ability						
11	Unit 5: Technology: Describing things and how they work (Quantifiers)						
12	Unit 5: Technology: Using gestures effectively & Writing a review of a piece of technology						
13	Unit 6: Challenges: Describing sequence (Time clauses)						
14	Unit 6: Challenges: Involving your audience & Wiring about a person who overcame a challenge						
15	Presentation 2: Presenting a favorite piece of technology						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	ペアワークやグループワーク、ディスカッション、英作文の作成など、授業への積極的な参加を評価する。			プレゼンテーション	30	理解しやすく、熱意の伝わるプレゼンテーションを行っている（話し方・資料・姿勢）。
期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。			共通テスト	10	目標のレベルに達しているか
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
① 予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ② 復習ではリーディングやワークブックなど指定の内容に取り組むこと。[20分]					課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	① ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ② 課題の提出期限を守ること。				教科書・テキスト	『Keynote Combo Split 1A with Online Workbook』 David Bohlke著 2016年 Cengage Learning ISBN:978-1-337-10892-8	
指定図書参考書等	なし/なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE208C 英語特別クラスIV			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
TED Talks のコンテンツを使い、コミュニケーションを重視しながら4 技能を高める。図やグラフでの補助情報やインタビューを使った演習を進めていくことで、TED Talksの内容理解を深め、自信をもって力強く流暢に英語を使うスキルを習得する。				・ 4 技能を高め、TED Talksならではのプレゼンテーションを模範に演習を積み上げることで、英語でのプレゼンテーションスキルを身に付けることができる。 ・ 4C — Communication, Collaboration, Creativity, Critical Thinkingを養い、英語の運用能力を向上させることができる。			
教授方法	演習（発表、グループ・ワーク、ディスカッション）を中心に行う。						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	Class Orientation: 授業の進め方、成績評価の説明、診断テスト						
2	Unit 7 Confidence: Describing people (Modifying adverbs)						
3	Unit 7 Confidence: Adding support by giving statistics & Writing about a friend						
4	Unit 8 Wild Places: Making comparisons (Comparative and superlative adjectives)						
5	Unit 8 Wild Places: Showing enthusiasm & Writing about a place you'd like to visit						
6	Unit 9 Achievements: Talking about the past (Simple past)						
7	Unit 9 Achievements: Pausing effectively & Writing about someone who achieved something						
8	Presentation 1: Describing an amazing place you visited						
9	Unit 10 Creative Cities: Offering suggestions (should/shouldn't)						
10	Unit 10 Creative Cities: Planning neighborhood improvements & Write suggestions for improving your town						
11	Unit 11 Picture Perfect: Asking for and giving opinions (Sense verbs)						
12	Unit 11 Picture Perfect: Introducing a visual & Writing about a photograph						
13	Unit 12 Healthy Habits: Talking about real conditions (Real conditionals)						
14	Unit 12 Healthy Habits: Getting the audience's attention & Writing health tips						
15	Presentation 2: Describing an issue or challenge in your community						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	ペアワークやグループワーク、ディスカッション、英作文の作成など、授業への積極的な参加を評価する。			プレゼンテーション	30	理解しやすく、熱意の伝わるプレゼンテーションを行っている（話し方・資料・姿勢）。
期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。			共通テスト	10	目標のレベルに達しているか
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
① 予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ② 復習ではリーディングやワークブックなど指定の内容に取り組むこと。[20分]					課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	① ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ② 課題の提出期限を守ること。				教科書・テキスト	『Keynote Combo Split 1B with Online Workbook』 David Bohlke 著 2016年 Cengage Learning ISBN:978-1-337-10893-5	
指定図書／参考書等	なし/なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE213C ビジネス・イングリッシュA			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本科目では、前期教科書前半(Getting Started...Search & Explain) 電話応対、ビジネスレター、e-mail文、受付、製品仕様などビジネスの場で用いられる英語表現を習得する。情報社会における発信力を養っていくために英語で伝えることを意識することに加え発話力を身につけていく。TOEIC対策練習を実施する。				①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でスピーチ及びプレゼンテーションのコツをつかむ。			
教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)						
2	Chapter 1 Telephone 1: 電話を受ける、取次、不在対応についての表現を学ぶ。(英日大きな桁の数字の聞き取り練習をする)						
3	Chapter 2 Business Email: Eメール文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(簡単なe-mail文を書く)						
4	Chapter 3 Telephone 2: 電話メッセージの正確な聞き取りを行う。(聞き取り確認のためのスベリングを練習する)						
5	Chapter 4 Business Letter: ビジネスレター文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(レター文書を書く)						
6	Chapter 5 At the Reception Desk: 社内受付での応対についての表現を学ぶ。(場面想定練習をする)						
7	Chapter 6 Corporate Website: 企業の顔であるウェブサイトの情報分類について知る。(R&Dなど分類例を確認する)						
8	発表①: 場面を設定しロールプレイを行う。(前半のまとめ) TOEIC対策練習: リスニング(集中力を養う)						
9	Chapter 7 Company Profile: 企業概要についての英語表現を学ぶ。(アクセントに留意し発話練習を行う)						
10	Chapter 8 Product Advertisements: 企業の広告文(キャッチコピー)を読む。(キャッチコピーをリサーチし比較表現を用いて製品を紹介する)						
11	Chapter 9 Your Job: 自分が関わる業務内容を英語で説明する。(英語版名刺を作成し初対面の挨拶を練習する)						
12	Chapter 10 Product Specification: 製品の仕様書についての表現を学ぶ。(頭文字、略語、単位の表し方を確認する)						
13	Chapter 11 Business Plan: 企業の組織、事業計画、企業戦略についての語いを学ぶ。(音の連結に留意しながら聞き取る)						
14	発表②: プレゼンテーション(自社製品の販売促進製品や企画開発など発表する)。TOEIC対策練習: リーディング(読解練習を行う)						
15	Chapter 12 Operating Instructions 機器の操作方法についての英語表現を学ぶ。(ビジネス英語についてのまとめを行う)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。			小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。			発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②聞き取りの力をつけるために教科書音声ファイルを利用しリスニングを強化する(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)					①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめ配布する。		
受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会が多い、積極的にクラス内外で情報を得よう心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べるができるよう学習する。 ③自分の目標を設定し語学関係の検定にチャレンジ自己研鑽を積む				教科書・テキスト	Getting Global ! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著 金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5	
指定図書参考書等	なし/なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE214C ビジネス・イングリッシュB			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本科目では、後期教科書後半(Read and Explore, Research and Presentation)時事英語、英字新聞、標識、論文、会議などの多岐にわたるビジネス英語に関する事柄を学び、英語力を強化していく。TOEIC対策練習を実施する。				①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し、基礎から応用へと対応力を習得する。 ③英語でのスピーチやプレゼンテーションを通して発話力をつける。			
教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)						
2	Chapter 13 Talking about the News: 時事的な話題をとりあげる。(意見を述べる際同意や反対を表する話し方を学ぶ)						
3	Chapter 14 Science News: 英字新聞の記事の構成を知り英文の語法や表現の特徴を読みとる。(英字新聞の記事を読む)						
4	Chapter 15 Tourist Information: クライアントを観光地へ同行案内する場面を練習する。(案内したい観光地と行程を作成する)						
5	Chapter 16 Safety Signs: 英語標識についての表現を学ぶ。(いろいろな標識事例による表現を知る)						
6	Chapter 17 Dinner Talk: レストランでの会食とメニューの選択についての語を学ぶ。(和食メニューを英語で紹介する)						
7	発表①: 場面を設定しロールプレイを行う。(前半のまとめ) T0EIC対策練習:語の選択(Part5形式の問題を練習をする)						
8	Chapter 18 Abstracts: 英語論文抄録について学ぶ。(アブストラクトについて知る)						
9	Chapter 19 Preparation for Meetings: 会議を円滑に進める基本的な英語表現を学ぶ。(ゲストスピーカーとの事前打ち合わせについて練習する)						
10	Chapter 20 Data and Graphs: データーやグラフについての基本語いを学ぶ。(グラフの解説文を読む)						
11	Chapter 21 Presentation 1: プレゼンテーションの際に役立つ表現を学ぶ。(スピーチ原稿を作成する)						
12	Chapter 22 Presentation 2: プレゼンテーションで用いるスライドの説明を練習する。(特許出願のスライド例を参照する)						
13	発表②: プレゼンテーション(新入社員リクルートのための英語スピーチを行う)。TOEIC対策練習: Part6～Part7形式の読解問題を練習する)						
14	Chapter 23 Various Requests: 依頼に対応する英語表現を学ぶ。(英文shadowing発声練習をする)						
15	Chapter 24 Patent Description: 特許申請の流れを知る。(後期のまとめ)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。			小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。			発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②聞き取りの力をつけるために教科書音声ファイルを利用しリスニングを強化する(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)					①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめて配布する。		
受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会が多い、積極的にクラス内外で情報を得よう心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べるができるよう学習する。 ③自分の目標を設定し語学関係の検定にチャレンジ自己研鑽を積む。				教科書・テキスト	『Getting Global ! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著 金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5	
指定図書参考書等	なし/なし				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE203C 英語（上級）Ⅲ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	アンソニー ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、CEFR B2+～C1の能力を有すると判断された者、また英語BI、BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。				・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。						
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction						
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする。						
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。						
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする。						
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。						
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする。						
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する。						
8	Unit 1～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1) Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする。						
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する。						
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてディスカッションを振り返り、自分の意見をまとめ発表する。 Unit 4～Unit 5の復習、振り返り						
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについて自分の意見をまとめ発表する。 Unit 7 (1) Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
14	Unit 7 (2) Gendered Division of Houseworkについて自分の意見をまとめ発表する。 これまでに学んだことから各自が選んだテーマについてスピーチまたはプレゼンテーションを行う。						
15	共通到達度確認テスト、 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。	
到達度確認 テスト・期 末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。		共通到達度 確認テスト	20	目標レベルに到達している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。〔40分〕不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。〔20分〕				随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685		
指定図書／ 参考書等	なし／なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③共通到達度確認テスト(外部テスト)は別途指示に従うこと。		
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		CE204C 英語（上級）Ⅳ		開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名		アンソニー ダガン					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は英語AⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B2+～C1の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。				・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。						
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Unit 8 (1) Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、ディスカッションを行う。						
2	Unit 8 (2) Preparing for Emergenciesについて自分の意見をまとめ発表する。						
3	Unit 9 (1) Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
4	Unit 9 (2) Ukraine and Afghanistanについて自分の意見をまとめ発表する。						
5	Unit 10 (1) Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
6	Unit 10 (2) Digital Societyについて自分の意見をまとめ発表する。 Unit 11 (1) Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
7	Unit 11 (2) Climate and Infectious Diseasesについて自分の意見をまとめ発表する。 Unit 12 (1) Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
8	Unit 12 (2) Overtourism and Undertourismについて自分の意見をまとめ発表する。 Unit 8～Unit 12の復習、到達度確認テスト(1)						
9	Unit 13 (1) Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
10	Unit 13 (2) Multicultural Exchange in Japanについて自分の意見をまとめ発表する。 Unit 14 (1) Changing Africaをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
11	Unit 14 (2) Changing Africaについて自分の意見をまとめ発表する。						
12	Unit 15 (1) Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。						
13	Unit 15 (2) Helping People Make Better Choicesについて自分の意見をまとめ発表する。						
14	Unit 13～Unit 15の復習、振り返り Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。						
15	共通到達度確認テスト、 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	①小テスト・発表・タスク等 ②毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ③教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ④学習内容確認の小テスト		口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	
到達度確認 テスト・期 末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用 力等がついている。		共通到達度 確認テスト	20	目標レベルに到達している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。〔40分〕不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。〔20分〕				随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685		
指定図書／ 参考書等	なし／なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③共通到達度確認テスト(外部テスト)は別途指示に従うこと。		
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE221C 中国語入門 I			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。				①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。			
教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、学生同士でのロールプレイの練習も行います。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、単母音の発音と声調（音の高低）を習得する。						
2	単母音と声調の復習 複母音・子音の発音を練習し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。						
3	子音と母音の組み合わせ練習 鼻音・軽声・声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。						
4	発音の総復習 簡単な日常会話、自分の名前を中国語で言えるようになる。						
5	第1課「あいさつする」（中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。）						
6	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」（相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。）						
7	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」（相手の希望の尋ね方や質問を返す表現を身につける。）						
8	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」（相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。）						
9	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして他己紹介ができるようになる。						
10	第5課「予定を尋ねる」（相手に直近の予定を尋ねたり、時間詞を用いた表現を身につける。）						
11	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」（場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。）						
12	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」（中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。）						
13	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第5課から第7課の復習をおこなう。						
14	前期に学んだ学習内容を総復習し、自己紹介文を作成する。						
15	自己紹介文を完成させる。 期末試験に備えて、模擬発表をおこなう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	20	授業内で行われる質疑応答やペアワーク、ロールプレイングの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。			小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。
自己紹介文の完成度	20	第15回授業では、前期に習得した文法を用いて文章を完成させる。その完成度で評価する。			期末試験（口頭発表）	30	期末試験では各自作成した自己紹介文を発表する。発音の正確さや表現力を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[60分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]					①小テストは添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第15回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。		
受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりとこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。				教科書・テキスト	『《新版》できる・つたわるコミュニケーション中国語』 岩井伸子・胡興智著 白水社 2022年出版 ISBN:9784560069431	
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第3版]』小学館 2015年出版 ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年出版 ISBN:978-4095-156040 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年出版 ISBN:978-4-8102-0327-1				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名			CE222C 中国語入門Ⅱ		開講学科		コミ	必修・選択		選択			
担当教員名			渡邊 彩奈										
標準履修年次		2年	開講時期		後期		単位		1単位	授業形態		演習	
他学科の履修		不可	関連資格		なし								
授業の概要						授業の到達目標							
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。						①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。							
教授方法		基本的に講義形式による授業となりますが、学生同士でのロールプレイの練習も行います。											
履修条件		「中国語入門Ⅰ」の単位を修得済の者											
授 業 計 画													
実施回		授業内容・目標									担当教員		
1		第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)											
2		第8課「値段の交渉をする」の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。											
3		第9課「出来事を尋ねる①」(完了形の言い方、「～しに行く、しに来る」という連動文の表現を身につける。)											
4		第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」(「～するのが…だ」という状態補語の表現を習得する。)											
5		第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」(相手の希望の尋ね方、前置詞を用いて「どこで～する」の表現を身につける。)											
6		第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」(道の尋ね方、選択疑問文を習得する。)											
7		第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」(経験の有無の言い方を習得する。)											
8		第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして文法知識の定着を図る。											
9		第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。)											
10		第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」(比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。)											
11		第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」(2点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。)											
12		第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」(進行表現、結果補語を習得する。)											
13		第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」(義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。)											
14		第18課の復習と練習問題、第14課から第18課の復習文を通して、文法の定着を図る。 1年間の学習内容を総復習し、期末課題を作成する。											
15		1年間の学習内容を総復習し、期末課題を完成させる。 期末試験に備えて、模擬発表をおこなう。											
成績評価方法と基準													
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準	
授業内の活動・課題(毎回)		20		授業内で行われる質疑応答やペアワーク、ロールプレイングの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。				小テスト(適宜)		30		1課が終了するごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。	
期末課題の完成度		20		第15回授業では、一年間で習得した文法を用いて文章を完成させる。その完成度で評価する。				期末試験(口頭発表)		30		期末試験では各自作成した期末課題の文章を発表する。発音の正確さや表現力を評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)							課題(試験やレポート等)に対するフィードバック						
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[60分] ③期末課題を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]							①小テストは添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第15回授業で完成させる期末課題は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。						
受講生に望むこと		前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。					教科書・テキスト		『<<新版>>できる・つたわるコミュニケーション中国語』 岩井伸子・胡興智著 白水社 2022年出版 ISBN:9784560069431				
指定図書/参考書等		なし／『日中辞典[第3版]』小学館 2015年出版 ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年出版 ISBN:978-4095-156040 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年出版 ISBN:978-4-8102-0327-1					その他・特記事項		なし				
実務経験を活かした授業の概要													

授業科目名	CE225C フランス語入門 I			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目はフランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説する。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していく。言葉としてのフランス語を通してフランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。				①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることであり、フランス語という言語を通してその実感を体験する。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	フランス語の基礎、アルファベ、綴り字の読み方、発音のルール、リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation						
2	挨拶、授業で使う表現 Salutations Bonjour, Madame. Salut, Paul. Ça va?						
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方、人称代名詞 je/tu の使い方、動詞 êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais? verbe négation, questions fermées						
4	名詞の性・数 masculin/féminin canadien (s) canadienne (s) chinois (e)(s)						
5	定冠詞・不定冠詞 un, une, des, le, la, l', les C'est une école de Jean.						
6	住んでいるところ・言語・学科を言う、第一群規則動詞、否定形ne...pas J'habite à Tokyo. Je parle français. Je n'habite pas à Paris.						
7	第一群規則動詞 -er 疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français? Non, je ne parle pas français.						
8	動詞 avoirの活用、年齢・好みをいう、数(11～20) J'ai un frère. J'ai vingt ans. J'aime le cinéma						
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習、不定冠詞、否定文中のde, avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère. J'ai chaud. J'ai froid.						
10	食べる、飲む、たずねる（何？ いくつ？）、部分冠詞 Tu manges du fromage. Je prends du café.						
11	部分冠詞の否定形、カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.						
12	人・物を描写する、たずねる（誰？、どんな？）、形容詞の性・数・位置、指示代名詞、所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent. C'est mon père. Ce sont mes amis.						
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse						
14	動詞aller/venirの活用 行先・国名、冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France. Je vais à l'école. Je vais aux États-Unis. Je viens du bureau.						
15	行く・来る、人称代名詞強勢形、数（60～） Je suis étudiant. Et toi?						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。			受講態度	30	講義に積極的に参加している。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]					テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。		
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。				教科書・テキスト	『SALUT（サリュ！）』田口啓子・末永朱胤他著、駿河台出版社、2004年、ISBN978-4-411-00815-2 C1085	
指定図書参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名	CE226C フランス語入門Ⅱ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は第2外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。				①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が拡がることもあり、言語を通してその実感を体験する。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語入門Ⅰ』の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去 futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ? Je viens de finir mon travail.						
2	時刻、たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？）、第二群規則動詞finir/faireの慣用表現、家事について Quelle heure est-il? Il est trois heures. A quelle heure ...? quel? quand? Je fais la cuisine.						
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.						
4	時制や頻度を表す名詞や副詞 toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain						
5	pouvoir/vouloirの活用と表現 Je veux voyager. Je peux sortir.						
6	たずねる（なぜ？）、痛みに関する表現, Pourquoi?に対して ～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.						
7	日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt? A quelle heure vous vous couchez?						
8	天気をいう、季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau. Il neige. lundi, hiver, janvier						
9	場所をいう、道順をいう、冠詞の縮約(de), 前置詞, 序数 Où est le café? Il est en face de la maison. dans, sur, sous						
10	命令・義務の表現 命令形／il faut… Allez tout droit. Il faut travailler. Sois sage!						
11	過去のことを語る (1) -1 複合過去(passé composé) avoir + pp. 様々な否定 (1) J'ai fait du tennis. Je n'ai pas téléphoné.						
12	過去分詞の作り方, 中性代名詞en Il a travaillé. J'ai fini mon étude. Je n'en ai plus.						
13	過去のことを語る (2) -1 複合過去(passé composé) être + pp. 様々な否定 (2)・être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する Elle est allée au musée.						
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine? Non, il n'est pas venu.						
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合）、中性代名詞 場所を表す副詞 y, 半過去形 Tu est déjà allé(e) à l'étranger? Quand ça? Il y a dix ans, j'étais à Paris. (10年前私はパリにいました)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。			受講態度	30	講義に積極的に参加している。
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]					テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。		
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。				教科書・テキスト	『SALUT（サリュ！）』田口啓子・末永朱胤他著、駿河台出版社、2004年、ISBN978-4-411-00815-2 C1085	
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		SP316U 知覚・認知心理学		開講学科		社会		必修・選択		選択					
担当教員名		松尾 藍													
標準履修年次		3年		開講時期		前期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		認定心理士・司書・公認心理師									
授業の概要								授業の到達目標							
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。知覚・認知心理学は、人が自分自身や自分をとりまく環境について、どのように知覚し処理しているのかを探る学問である。知覚・認知心理学の代表的な理論を学ぶことにより、「人間とはどのような生き物であるか」を知るための、はじめの1歩となることが期待される。								①知覚心理学および認知心理学の基礎知識を習得する。 ②人の感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解できる。 ③人の認知・思考のメカニズムとその障害について理解できる。							
教授方法		講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。													
履修条件		なし													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		オリエンテーション：知覚心理学、認知心理学とは何を明らかにする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。													
2		感覚の基礎：人はどのように周囲の環境から情報を取り入れているのか、感覚の種類と構造について学ぶ。													
3		知覚の基礎：閾や順応など、知覚の基本的特性について学ぶ。													
4		視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ。													
5		聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完などについて学ぶ。													
6		様々な感覚：体性感覚や自己受容感覚について、基本的なはたらきを学ぶ。													
7		対象認知：人の知覚、認知の対象は様々であり、物体や顔、絵画、さらには時間まで、様々な対象の知覚、認知を学ぶ。													
8		感覚・知覚の障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ。													
9		認知の基本特性：情報処理システムとしての人間像を学び、その処理の二方向性を理解する。													
10		記憶（１）：基本的な記憶のメカニズムや知識の構造について学ぶ。													
11		記憶（２）：日常生活の中で経験する出来事の記憶に焦点を絞り、人の記憶が正確であるかを考える。													
12		注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ。													
13		思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ。													
14		認知・思考の障害：認知や思考の障害にはどのようなものがあるのか、神経心理学の知見から学習する。													
15		まとめ：講義全体を振り返るとともに、授業内容と日常生活との接点を考える。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
期末試験		60		講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。				提出物		40		振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験と照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を1冊以上読む。[期間を通して合計38時間]								各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。							
受講生に望むこと		知覚・認知心理学が扱う内容は、日ごろの生活では意識されずに「当たり前」に行われる心のはたらきである。この「当たり前」がなぜ、どのように成立するのか、本当に「当たり前」なのか、それが成立しなくなるとどうなるのかを意識しながら、講義に臨んでほしい。						教科書・テキスト		使用しない。資料を配布する。					
指定図書参考書等		指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。						その他・特記事項		体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験や調査への参加を求めることがあります。					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名	生涯学習概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
生涯学習及び社会教育施設の本質と意義の理解を図り、学ぶことの楽しさを理解することから始めます。自分自身の学びを振り返りながら、今後の生涯学習社会の在り方について理解を深めます。				①生涯学習を通して「学ぶ」意味について理解する。 ②社会教育施設の役割について理解を図る。 ③社会教育施設の見学を通して現在の生涯学習の在り方について理解を図る。 ④今後の生涯学習社会の在り方について考察する。			
教授方法	基本的に講義形式となりますが、ディスカッションやグループワークも併用し、積極的な参加を求めます。校外学習があります。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明した後、「生涯学習」とは何かについて考えます。						
2	学習について：自分自身のこれまでの学びを振り返りながら、「学習」についての理解を深めます。						
3	芸術文化と生涯学習Ⅰ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。						
4	芸術文化と生涯学習Ⅱ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。						
5	学習の内容Ⅰ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。						
6	学習の内容Ⅱ：生涯学習社会において何を学ぶべきか考えます。						
7	芸術文化と生涯学習Ⅲ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。						
8	芸術文化と生涯学習Ⅳ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。						
9	生涯学習施設を知るⅠ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。						
10	生涯学習施設を知るⅡ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。						
11	生涯学習施設を知るⅢ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。						
12	生涯学習施設を知るⅣ：生涯学習施設を見学し、考えたことを共有し、学びを深めます。						
13	生涯学習プログラムについてⅠ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。						
14	生涯学習プログラムについてⅡ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。						
15	生涯学習についての総括：生涯学習について学んだことを総括し、最終レポートにまとめます。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業への積極的な参加	50	出席だけでなく、ディスカッションやグループワークなどでの積極的な発言を評価します。			小レポート	20	授業内で数回実施する課題について、理解できているかどうか評価します。
最終レポート	30	最終授業で総括としてレポート提出を求めます。自分自身の課題として生涯学習をとらえることができているか評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいってください。[30分]					授業内でフィードバックを行います。		
受講生に望むこと	集中講義のため1日の欠席が4回の欠席扱いとなります。体調管理にも留意してください。				教科書・テキスト	特に用いません。	
指定図書参考書等	リンダ・グラットン『ライフ・シフト』東洋経済新報社、2016、ISBN13：978-4492533871				その他・特記事項	特になし。	
実務経験を活かした授業の概要							
学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。							

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村 悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて説明し、図書館の意義や社会的役割を理解させる。 図書館の組織および施設、サービス計画の実例を参考に説明し、図書館経営に必要な知識を習得させる。				①図書館に関連する法律、条例等を学び図書館の法的根拠を把握し、図書館の意義と社会に果たす役割を理解する。 ②図書館の組織・職員について学び運営方法を習得しサービス計画を立てる力を養う。 ③図書館の管理運営形態について学び、これからの図書館の在り方を考察する。			
教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成						
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館をめぐる法体系を説明する。（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法を理解し図書館の法的位置づけを把握する。）						
2	図書館法について考察する①（図書館法第1条から9条までを学び図書館の目的・図書館奉仕などを理解する。）						
3	図書館法について考察する②（図書館法第10条から29条までを学び公立図書館の設置・職員・図書館協議会および無料の原則を理解する。）						
4	地方自治体の図書館関連条例などを説明する。（地方自治法、条例・規則・内規・要項・マニュアルを学び図書館運営の法的根拠を理解する。）						
5	他館種の図書館に関する法律などを説明する。（学校図書館・国立国会図書館・大学図書館などの法的根拠を理解し、他館種との連携、協力方法を習得する。）						
6	図書館サービス関連法規を説明する。（子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、著作権、個人情報の保護に関する法律などを学び図書館サービスの法的根拠を理解する。）						
7	国、地方自治体の図書館政策を説明する。（国の政策、各自治体の政策の具体例を考察する。）						
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営を説明する。（公立図書館経営の理念と運営および危機管理について理解する。）						
9	図書館の組織・職員について説明する①（図書館の組織、館長の役割、図書館職員の在り方を理解し、求められる職員像を認識する。）						
10	図書館の組織・職員について説明する②（図書館協議会や図書館を支える団体、ボランティアについて理解し、図書館運営への関わり方を考察する。）						
11	図書館の施設・設備について説明する。（図書館建築のあり方を理解し、建築計画書の実例に基づき図書館施設のあるべき姿を認識する。）						
12	図書館サービス計画と予算の確保について説明する。（サービス計画の実例を考察し、実際に立案・策定できる能力を習得する。）						
13	図書館業務/サービスの調査と評価について説明する。（評価の実例を考察し、効率的・効果的な図書館運営を学ぶ。）						
14	図書館の管理形態の多様化について説明する。（業務委託、指定管理者制度、PFIの問題点について学び、望ましい図書館の管理運営について考察する。）						
15	講義全体のまとめをし、公立図書館の課題と今後の展望について説明する。（複本購入批判、貸出猶予問題、予約・リクエストの在り方などの課題を検討し、今後の図書館経営を考察する。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢・発言等			期末試験	40	筆記試験
レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
・県内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等の利用・見学をし、できれば条例・サービス計画の説明を聞く機会を持つ。〔40分〕 ・事前にテキストの章に目を通しておく。〔30分〕 ・参考図書および講義中に紹介する図書に目を通し講義内容を深める。〔30分〕					課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。		
受講生に望むこと	図書館関係の雑誌や新聞の記事に関心を持ち最新の情報を得るように心掛ける。図書館情報学関係のウェブサイトにはアクセスして情報の閲覧、理解に努める。				教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第2版』ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 5 手島孝典編著 学文社 2017年 ISBN 978-4-7620-2701-7	
指定図書/参考書等	なし／『生きるための図書館』竹内 慈著 岩波新書 2019年 ISBN 978-4-00-431783-8/『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2004年 ISBN4-14-080564-1『つながる図書館』猪谷千香著 ちくま新書 2014年 ISBN 978-4-480-06756-2『新図書館法と現代の図書館』塩見昇他編著 日本図書館協会 2009年 ISBN 978-4820409151『図書館制度・経営論』糸賀雅児・葉袋秀樹編著 樹村房 2013 ISBN 978-4-88367-202-8				その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要							
館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を事例を挙げてより具体的に説明している。							

授業科目名	SB310U 情報サービス演習 I			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。情報サービス演習Iでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。				①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得する。 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上。 ③情報の評価能力（情報内容の判断）の習得と向上。 ④情報発信能力（回答の作成・提供）の習得と向上。			
教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。						
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報サービス論」を履修した者に限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容						
2	ネットワーク、 デジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識						
3	情報検索システムの基礎知識（データベース構成／論理演算 等）						
4	ウェブ情報源の検索（1）サーチエンジンの使い方とブール演算						
5	ウェブ情報源の検索（2）サーチエンジンによるウェブ情報の検索						
6	ウェブ情報源の検索（3） 検索結果と情報源の評価						
7	図書情報の検索（1） 目録と書誌						
8	図書情報の検索（2） 主題とアクセスポイント						
9	図書情報の検索（3） 各図書館OPAC、 総合目録等						
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等						
11	雑誌記事の検索（1） 雑誌記事データベース、 索引類						
12	雑誌記事の検索（2） 引用の活用						
13	雑誌記事の検索（3） 主題検索						
14	総合演習（1） レファレンス質問を想定した実践演習 質問の分析と戦略立案						
15	総合演習（2） レファレンス質問を想定した実践演習 検索と回答作成						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。			小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。また、情報検索には幅広い知識が求められるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。					必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜Classroomなども利用する。		
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。				教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布、課題の出題・回収を行う。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		SB315U 情報サービス演習Ⅱ		開講学科		社会		必修・選択		選択					
担当教員名		若杉 亮平													
標準履修年次		3年		開講時期		後期		単位		1単位		授業形態		演習	
他学科の履修		不可		関連資格		司書									
授業の概要								授業の到達目標							
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。								①レファレンスサービスのプロセスを理解する。 ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する。 ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う。 ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める。 ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する。							
教授方法		演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。													
履修条件		「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		レファレンスサービスの基礎・復習													
2		レファレンスブック評価の仕方													
3		情報源の評価（1）目録・書誌・索引													
4		情報源の評価（2）辞書・事典													
5		情報源の評価（3）便覧・年鑑類													
6		情報源の評価（4）地名・人名													
7		情報源の評価（5）各種の専門領域													
8		情報の探索（1）ことばの情報													
9		情報の探索（2）事柄・事物・現象の情報													
10		情報の探索（3）人物・団体の情報													
11		情報の探索（4）地名・地理の情報													
12		情報の探索（5）歴史・時事の情報													
13		情報の探索（6）統計の情報													
14		情報の探索（7）書誌情報													
15		情報の探索 まとめ													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
演習課題の作成		60		適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていること。				演習課題の発表		20		作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に答えることができること。			
授業への参加態度		20		授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。											
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際、ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。								課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。							
受講生に望むこと		課題が多く与えられるので、図書館情報資源を用いて課題作成に取り組むこと。授業では作成した課題を発表する機会があり、他の履修者や教員に分かりやすく説明することも求められる。						教科書・テキスト		なし、授業中に随時プリントを配布する。					
指定図書／参考書等		なし／なし						その他・特記事項		必要に応じClassroomより資料配布、課題の出題・回収を行う。					
実務経験を活かした授業の概要															

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習 I			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。				①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。			
教授方法	演習、主にコンピュータを使用する						
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報資源組織論」を履修した者に限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。						
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。						
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。						
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（基礎的な資料）						
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）						
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）						
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。						
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。						
12	メタデータ記述方法を解説する						
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（Webサイトなど）						
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（データベースなど）						
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。			授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。					課題の提出について随時添削を行い返却もしくは、直接説明を行う。		
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に過去の教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。				教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。 必要に応じてClassroomより資料配布、課題の出題・回収を行う。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		SB325U 情報資源組織演習Ⅱ		開講学科		社会		必修・選択		選択					
担当教員名		若杉 亮平													
標準履修年次		3年		開講時期		後期		単位		1単位		授業形態		演習	
他学科の履修		不可		関連資格		司書									
授業の概要								授業の到達目標							
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。								①主題分析について、演習を通じて理解する。 ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する。 ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める。							
教授方法		演習													
履修条件		「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標										担当教員			
1		「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。													
2		演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。													
3		演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）													
4		演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）													
5		演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。													
6		演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。													
7		演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。													
8		演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。													
9		演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。													
10		演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。													
11		演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。													
12		演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。													
13		演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。													
14		演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。													
15		演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
授業参加態度		20		①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。				授業前準備・復習		10		①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。			
演習課題内容		70		提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。											
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。								課題発表を行い、その場で教員がコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。							
受講生に望むこと		司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること。授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。						教科書・テキスト		『日本十進分類法新訂10版 簡易版』もりきよし原編 日本図書館協会分類委員会改訂 日本図書館協会 2018年 ISBN:9784820418078					
指定図書／参考書等		なし／なし						その他・特記事項		必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。					
実務経験を活かした授業の概要															

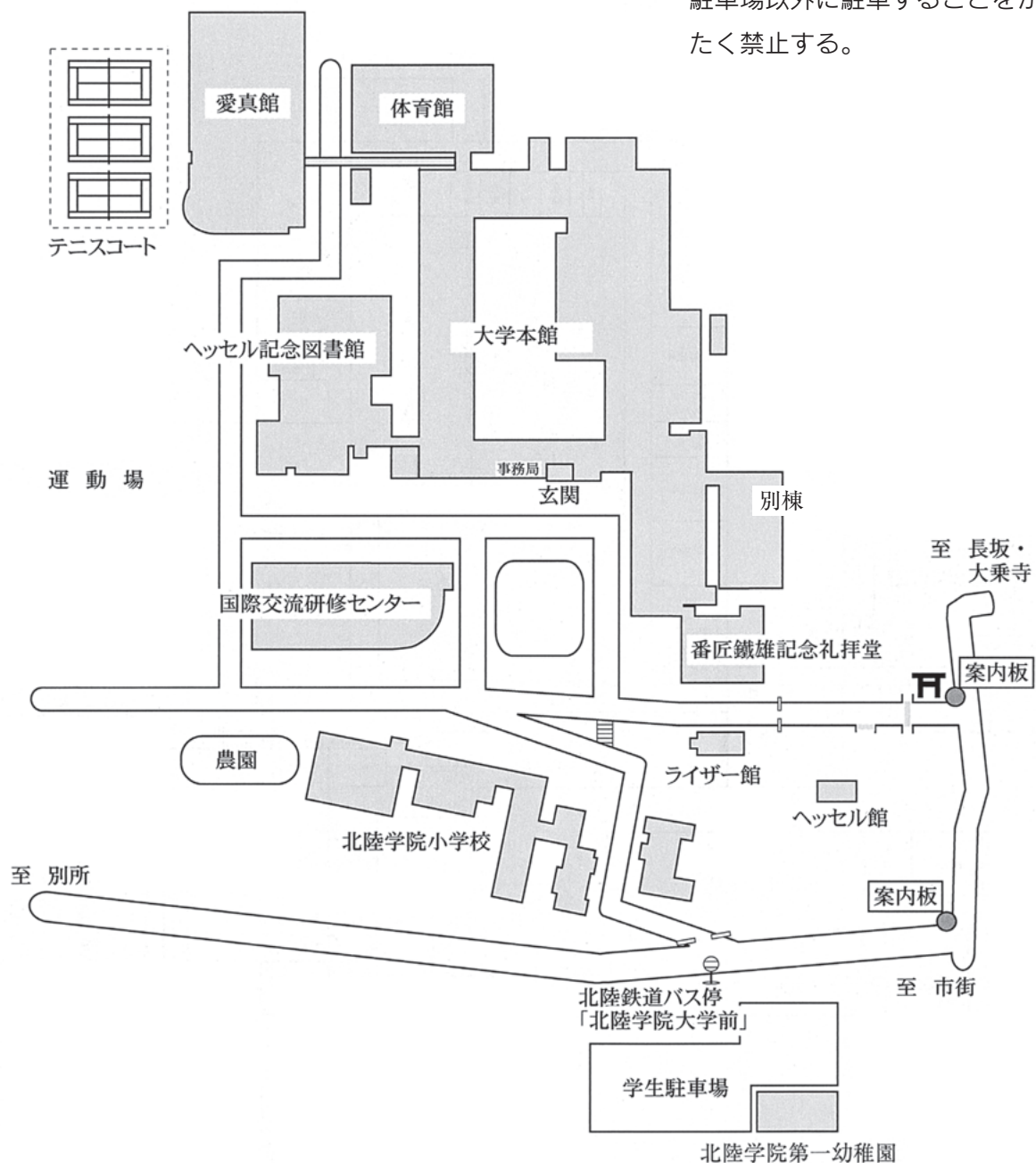
授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質・生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。				①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、自然科学、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。			
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館情報資源とは						
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史						
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料						
4	非印刷資料について						
5	灰色文献について						
6	政府刊行物・地域資料について						
7	映像資料・音声資料について						
8	電子資料・ネットワーク情報源について						
9	電子コンテンツと電子出版について						
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義						
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度						
12	資料の収集と選択について						
13	人文科学分野の情報資源とその特性						
14	社会科学分野の情報資源とその特性						
15	自然科学分野の情報資源とその特性						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館で取り扱う各種の情報資源について理解できている必要がある。			レポート	20	レポート課題について、課題の要件を満たしており十分な内容があること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。					希望に応じ試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。		
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。				教科書・テキスト	『図書館情報資源概論 新訂版』馬場俊明著、日本図書館協会、2018。（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；8）ISBN:978-4-8204-1808-5	
指定図書／参考書等	なし／なし				その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布、課題の出題・回収を行う。	
実務経験を活かした授業の概要							

授業科目名		SB335U 図書・図書館史		開講学科		社会		必修・選択		選択					
担当教員名		若杉 亮平													
標準履修年次		3年		開講時期		前期		単位		2単位		授業形態		講義	
他学科の履修		不可		関連資格		司書									
授業の概要								授業の到達目標							
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。								①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。							
教授方法		講義													
履修条件		「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者													
授 業 計 画															
実施回		授業内容・目標											担当教員		
1		メディアと図書館の歴史とは													
2		記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア													
3		記録メディアの歴史2：図書の形態史，印刷の発明													
4		記録メディアの歴史3：印刷の種類，大量印刷の時代													
5		記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史，近代のマスメディア													
6		記録メディアの歴史5：メディアの多様化，新しいメディアの出現													
7		図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命													
8		図書館史（世界）2：中世の図書館，近世の図書館の歩み													
9		図書館史（世界）3：公共図書館の成立													
10		図書館史（世界）4：近代の図書館													
11		図書館史（日本）1：前近代日本の図書館，近代図書館の誕生													
12		図書館史（日本）2：民主主義と図書館，戦争と図書館													
13		図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義													
14		図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策，住民と図書館の関係													
15		図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える													
成績評価方法と基準															
評価項目		割合(%)		評価基準				評価項目		割合(%)		評価基準			
授業参加態度		20		授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。				授業内課題		30		授業中・授業後に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。			
期末テスト		50		記述式の筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解ができていない必要がある。											
授業外における学習（事前・事後学習等）								課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。								希望に応じ試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。							
受講生に望むこと		図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチである。歴史的な事柄にも注意を払うようにすること。						教科書・テキスト		『図書・図書館史』小黒浩司編著、日本図書館協会、2013。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2					
指定図書／参考書等		なし／なし						その他・特記事項		必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。					
実務経験を活かした授業の概要															

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

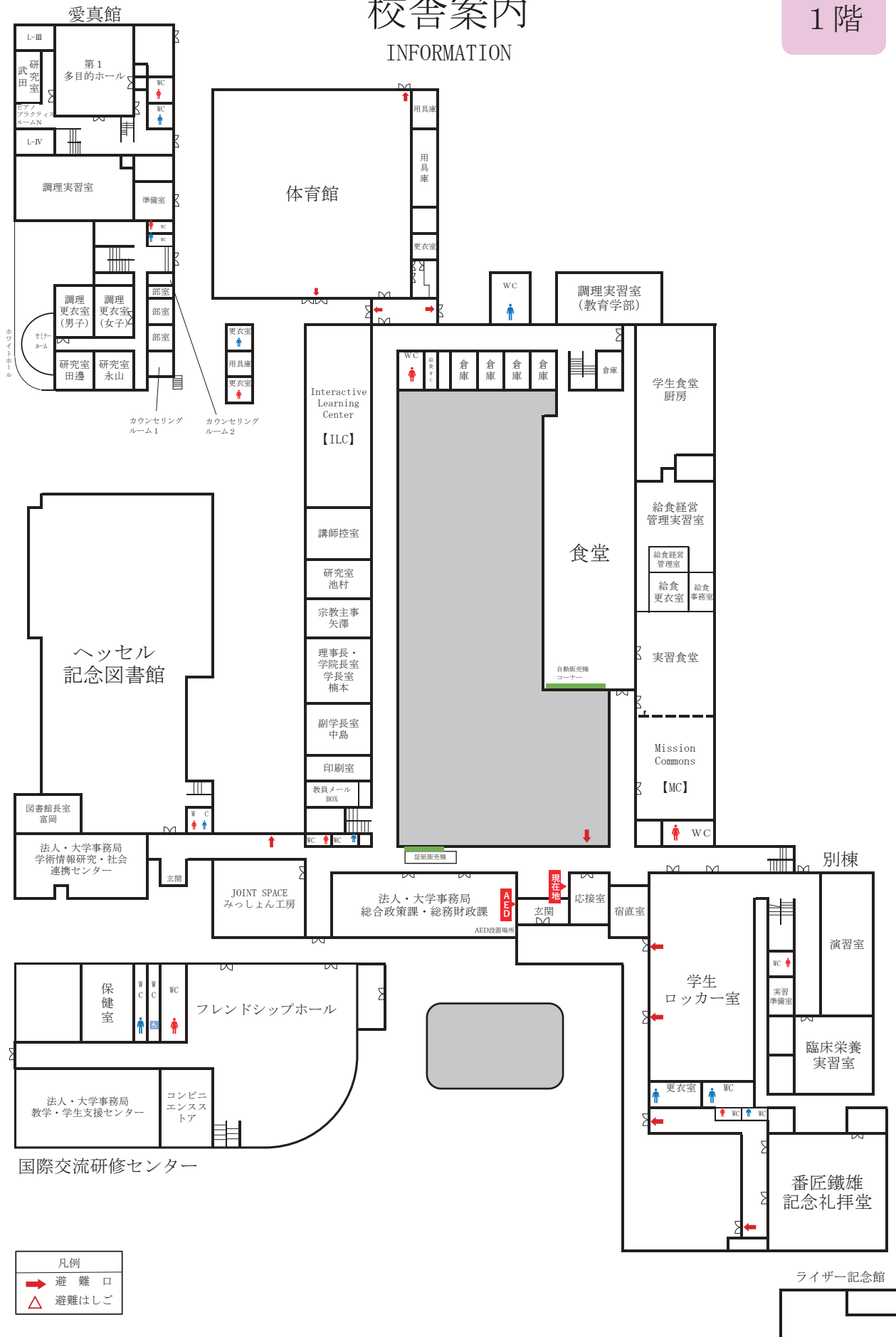
学生に関しては決められた学生
駐車場以外に駐車することをか
たく禁止する。



校舎案内

INFORMATION

1 階



校舎案内

INFORMATION

2階



別棟

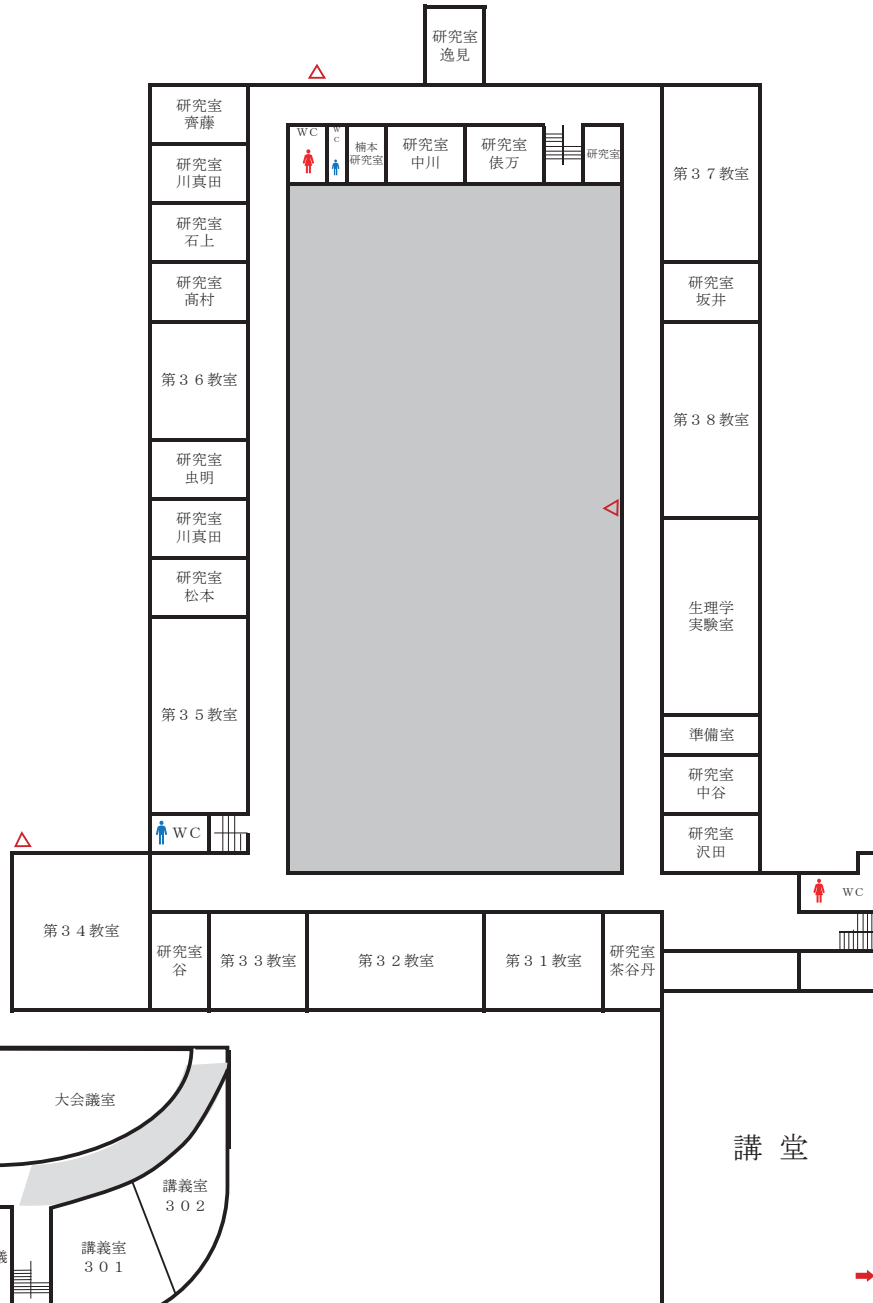
国際交流研修センター

凡例	
	避難口
	避難はしご

校舎案内

INFORMATION

3 階



国際交流研修センター

凡例	
	避難口
	避難はしご

